

基本計画書

基本計画									
事項		記入欄						備考	
計画の区分		学部/学科の設置							
フリガナ 設置者		カッコウカクゼン トウカイイバウ 学校法人 東海大学							
フリガナ 大学の名称		トウカイイバウ 東海大学 (Tokai University)							
大学本部の位置		神奈川県平塚市北金目4-1-1							
大学の目的		本学は、人道に根ざした深い教養をもつ有能な人材を養成すると同時に、高度の学問技術を研究教授することにより、人類社会の福祉に貢献することをもって目的とする。							
新設学部等の目的		本学科は、大学・学部教育の目的に沿って、付加価値の高い機械システムの最新かつ高度な専門知識を習得するとともに、社会を構成する各分野の問題点や課題に対する「システム工学に立脚した多面的な考え方」と「倫理観」、「人と人、人と情報などを結びつけるコーディネート力」を身に付けて、「現代文明が抱える諸問題の解決を目指し、国際的視野から社会と産業の発展に貢献」する人材を養成することを目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	工学部 [Undergraduate School of Engineering]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次		
	機械システム工学科 [Department of Mechanical Systems Engineering]	4	140	—	560	学士（工学） [Bachelor of Engineering]	令和4年4月 第1年次	神奈川県平塚市 北金目4-1-1	
	計		140	—	560				
同一設置者内における変更状況 （定員の移行、名称の変更等）		別紙のとおり							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	工学部機械システム工学科	46科目	32科目	4科目	82科目	124単位			

教	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼任		
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	教員等	
員	新	工学部機械システム工学科	5 (5)	2 (2)	3 (3)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	18 (18)	令和3年3月認可申請
		児童教育学部児童教育学科	9 (7)	5 (5)	6 (5)	1 (1)	21 (18)	0 (0)	20 (9)	
		経営学部経営学科	9 (9)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	12 (12)	令和3年4月届出予定
		国際学部国際学科	7 (7)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	11 (11)	令和3年4月届出予定
		情報理工学部情報メディア学科	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	6 (6)	令和3年4月届出予定
		情報通信学部情報通信学科	10 (10)	7 (7)	6 (6)	1 (1)	24 (24)	0 (0)	10 (10)	令和3年4月届出予定
		工学部生物工学科	5 (5)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	20 (20)	令和3年4月届出予定
		工学部医工学科	5 (5)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	21 (21)	令和3年4月届出予定
		建築都市学部建築学科	8 (8)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	15 (15)	0 (0)	7 (7)	令和3年4月届出予定
		建築都市学部土木工学科	5 (5)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	15 (15)	令和3年4月届出予定
	設	人文学部人文学科	6 (6)	4 (4)	5 (5)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	11 (11)	令和3年4月届出予定
		海洋学部海洋理工学科	15 (15)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	20 (20)	令和3年4月届出予定
		文理融合学部経営学科	7 (7)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	12 (12)	令和3年4月届出予定
		文理融合学部地域社会学科	7 (7)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	13 (13)	令和3年4月届出予定
		文理融合学部人間情報工学科	9 (9)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	17 (17)	令和3年4月届出予定
		農学部農学科	4 (4)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	13 (13)	令和3年4月届出予定
		農学部動物科学科	4 (4)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	16 (16)	令和3年4月届出予定
		農学部食生命科学科	6 (6)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	22 (22)	令和3年4月届出予定
		計	127 (125)	63 (63)	43 (42)	7 (7)	240 (237)	0 (0)	—	
		組	既	文学部文明学科	3 (3)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	7 (7)	0 (0)
文学部歴史学科	8 (8)			5 (5)	2 (2)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	23 (23)	
文学部日本文学科	3 (3)			1 (1)	2 (2)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	16 (16)	
文学部英語文化コミュニケーション学科	7 (7)			1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	8 (8)	
文化社会学部アジア学科	5 (5)			2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	20 (20)	
文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科	5 (5)			4 (4)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	12 (12)	
文化社会学部北欧学科	3 (3)			1 (1)	2 (2)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	7 (7)	
文化社会学部文芸創作学科	4 (4)			1 (1)	1 (1)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	3 (3)	
文化社会学部広報メディア学科	6 (6)			1 (1)	3 (3)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	2 (2)	
文化社会学部心理・社会学科	7 (7)			3 (3)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	13 (13)	
分	政治経済学部政治学科		10 (10)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	5 (5)	
	政治経済学部経済学科		8 (8)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	11 (11)	
	法学部法律学科		12 (12)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	2 (2)	
	教養学部人間環境学科		9 (9)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	27 (27)	
	教養学部芸術学科		7 (7)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	88 (88)	
	体育学部体育学科		10 (10)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	5 (5)	
	体育学部競技スポーツ学科		6 (6)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	11 (11)	
	体育学部武道学科		6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	10 (10)	
	体育学部生涯スポーツ学科		5 (5)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	6 (6)	
	体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科		4 (4)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	1 (1)	

教 員 組 織 の 概 要	既 員 組 織	健康学部健康マネジメント学科	10 (10)	6 (6)	6 (6)	2 (2)	24 (24)	0 (0)	2 (2)
		理学部数学科	6 (6)	4 (4)	5 (5)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	3 (3)
		理学部情報数理学科	7 (7)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	11 (11)
		理学部物理学科	11 (11)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	12 (12)
		理学部化学科	9 (9)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	0 (0)
		理学部 基礎教育研究室	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
		情報理工学部情報科学科	6 (6)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	8 (8)
		情報理工学部コンピュータ応用工学科	5 (5)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	11 (11)
		工学部応用化学科	6 (6)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	3 (3)
		工学部電気電子工学科	7 (7)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	5 (5)
		工学部機械工学科	8 (7)	4 (4)	4 (0)	0 (0)	16 (11)	0 (0)	13 (13)
		工学部航空宇宙学科	12 (12)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	18 (18)	0 (0)	5 (5)
		観光学部観光学科	7 (7)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	10 (10)
		海洋学部水産学科	7 (7)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	11 (11)
		海洋学部海洋生物学科	8 (8)	7 (7)	0 (0)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	5 (5)
		海洋学部 海洋フロンティア教育センター	1 (1)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	7 (7)
		医学部医学科	127 (127)	106 (106)	205 (205)	396 (396)	834 (834)	0 (0)	131 (131)
		医学部看護学科	8 (8)	8 (8)	14 (14)	4 (4)	34 (34)	0 (0)	47 (47)
		国際文化学部地域創造学科	9 (9)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	14 (14)
		国際文化学部国際コミュニケーション学科	6 (6)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	9 (9)
	設 置 の 概 要	生物学部生物学科	8 (8)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	14 (14)
		生物学部海洋生物科学科	5 (5)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	1 (1)
		計	403 (402)	231 (231)	296 (292)	411 (411)	1341 (1336)	0 (0)	— —
		現代教養センター	4 (4)	12 (12)	5 (5)	1 (1)	22 (22)	0 (0)	20 (20)
		国際教育センター	17 (17)	20 (20)	20 (20)	3 (3)	60 (60)	0 (0)	160 (160)
		情報教育センター	2 (2)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	19 (19)
		課程資格教育センター	6 (6)	7 (7)	3 (3)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	46 (46)
		先進生命科学研究所	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		教育開発研究センター	4 (4)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
		スポーツ医科学研究所	0 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
		総合科学技術研究所	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
		情報技術センター	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		総合社会科学研究所	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		高輪教養教育センター	4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	43 (43)
		清水教養教育センター	9 (9)	10 (10)	5 (5)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	55 (55)
		海洋研究所	2 (2)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
		総合医学研究所	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		九州教養教育センター	4 (4)	8 (8)	4 (4)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	23 (23)
		総合農学研究所	2 (2)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
	分	札幌教養教育センター	7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	33 (33)
		計	64 (64)	66 (66)	47 (47)	8 (8)	185 (185)	0 (0)	— —
	合 計		594 (591)	360 (360)	386 (381)	426 (426)	1766 (1758)	0 (0)	— —

教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計											
	事 務 職 員		779 (779)		269 (269)		1048 (1048)											
	技 術 職 員		57 (57)		2 (2)		59 (59)											
	図 書 館 専 門 職 員		44 (44)		22 (22)		66 (66)											
	そ の 他 の 職 員		8 (8)		0 (0)		8 (8)											
	計		888 (888)		293 (293)		1181 (1181)											
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の学校等の専用		計		東海大学付属望星高等学校と共用 名称：東海大学付属望星高等学校（通信制） 収容定員：3,000名 校地面積基準：なし							
	校 舎 敷 地		1,770,691.41 m ²		2,052.88 m ²		0.00 m ²		1,772,744.29 m ²			内借用地：55,045.86m ²						
	運 動 場 用 地		396,797.97 m ²		0.00 m ²		0.00 m ²		396,797.97 m ²			内借用地：47,282.12m ²						
	小 計		2,167,489.38 m ²		2,052.88 m ²		0.00 m ²		2,169,542.26 m ²									
	そ の 他		211,174.76 m ²		0.00 m ²		0.00 m ²		211,174.76 m ²			内借用地：153,717.23m ²						
	合 計		2,378,664.14 m ²		2,052.88 m ²		0.00 m ²		2,380,717.02 m ²			借用期間：2～30年						
校 舎			専 用		共 用		共用する他の学校等の専用		計									
			532,456.15 m ² (532,456.15 m ²)		0.00 m ² (0.00 m ²)		0.00 m ² (0.00 m ²)		532,456.15 m ² (532,456.15 m ²)									
教室等		講義室		演習室		実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体						
		480 室		328 室		1,260 室		79 室 (補助職員 20 人)		6 室 (補助職員 0 人)								
専任教員研究室				新設学部等の名称				室 数				11 室						
				工学部機械システム工学科														
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕冊		学術雑誌 〔うち外国書〕種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕		視聴覚資料 点		機械・器具 点		標本 点		大学全体での共用として、 電子データベースは37種〔うち国外16種〕 学術雑誌（電子ジャーナル含む）は約45,000種〔うち国外約42,200種〕 電子ブックは約12,700点〔うち国外約7,000点〕が利用可能。			
	工学部機械システム工学科		54,920 [12,680] (54,397 [12,569])		1,175 [530] (1,123 [507])		215 [135] (183 [114])		520 (505)		0 [0] (0 [0])		0 [0] (0 [0])					
	計		54,920 [12,680] (54,397 [12,569])		1,175 [530] (1,123 [507])		215 [135] (183 [114])		520 (505)		0 [0] (0 [0])		0 [0] (0 [0])					
図書館			面積			閲覧座席数			収 納 可 能 冊 数			大学全体						
			21,687.00 m ²			3,734 席			2,318,166 冊									
体育館			面積			体育館以外のスポーツ施設の概要						大学全体						
			24,060.79 m ²			トレーニングセンター			25mプール									
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分		開設前年度		第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		第5年次		第6年次		図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。
		教員1人当り研究費等				330千円		330千円		330千円		330千円		— 千円		— 千円		
		共同研究費等				770千円		770千円		770千円		770千円		— 千円		— 千円		
		図 書 購 入 費		200千円		270千円		340千円		410千円		480千円		— 千円		— 千円		
		設 備 購 入 費		2,994千円		2,994千円		2,994千円		2,994千円		2,994千円		— 千円		— 千円		
			学生1人当り納付金		第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		第5年次		第6年次			
				1,554千円		1,354千円		1,354千円		1,354千円		— 千円		— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要					私立大学等経常経費補助金、手数料等													

既設大学	大学の名称	東海大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	備考
		年	人	年次人	人		倍			
大	文学部		370	—	1,480		1.02	昭和25年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	文学科	4	60	—	240	学士(文学)	1.03	平成13年	〃	
	アジア文学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
	ヨーロッパ文学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
	アメリカ文学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
	北欧学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	昭和42年	〃	平成30年度より学生募集停止
	歴史学科		130	—	520		1.02	昭和35年	〃	
	日本史専攻	4	50	—	200	学士(文学)	1.07	昭和58年	〃	
	東洋史専攻	4	—	—	—	学士(文学)	—	昭和58年	〃	平成30年度より学生募集停止
	西洋史専攻	4	50	—	200	学士(文学)	0.99	昭和58年	〃	
	考古学専攻	4	30	—	120	学士(文学)	0.99	昭和58年	〃	
	日本文学科	4	90	—	360	学士(文学)	1.01	平成13年	〃	
	文芸創作学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
	英語文化コミュニケーション学科	4	90	—	360	学士(文学)	1.00	昭和35年	〃	
	広報メディア学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
	心理・社会学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
学	文化社会学部		450	—	1,800		1.01	平成30年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	アジア学科	4	70	—	280	学士(文化社会学)	1.03	平成30年	〃	
	ヨーロッパ・アメリカ学科	4	70	—	280	学士(文化社会学)	0.99	平成30年	〃	
	北欧学科	4	60	—	240	学士(文化社会学)	1.02	平成30年	〃	
	文芸創作学科	4	60	—	240	学士(文化社会学)	1.01	平成30年	〃	
	広報メディア学科	4	100	—	400	学士(文化社会学)	1.01	平成30年	〃	
	心理・社会学科	4	90	—	360	学士(文化社会学)	0.99	平成30年	〃	
	政治経済学部		480	—	1,920		1.00	昭和41年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	政治学科	4	160	—	640	学士(政治学)	1.03	昭和41年	〃	
	経済学科	4	160	—	640	学士(経済学)	0.99	昭和41年	〃	
等	経営学科	4	160	—	640	学士(経営学)	0.99	昭和49年	〃	
	法学部		300	—	1,200		1.01	昭和61年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	法律学科	4	300	—	1,200	学士(法学)	1.01	昭和61年	〃	
	教養学部		330	—	1,320		1.03	昭和43年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	人間環境学科		160	—	640		1.01	昭和43年	〃	
	自然環境課程	4	65	—	260	学士(教養学)	0.97	昭和43年	〃	
	社会環境課程	4	95	—	380	学士(教養学)	1.01	昭和43年	〃	
	芸術学科		90	—	360		1.03	昭和43年	〃	
	音楽学課程	4	32	—	128	学士(教養学)	1.04	昭和43年	〃	
	美術学課程	4	20	—	80	学士(教養学)	1.08	昭和43年	〃	
の	デザイン学課程	4	38	—	152	学士(教養学)	1.04	昭和43年	〃	
	国際学科	4	80	—	320	学士(教養学)	1.09	昭和47年	〃	
	体育学部		480	—	1,920		1.01	昭和42年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	体育学科	4	110	—	440	学士(体育学)	0.97	昭和42年	〃	
	競技スポーツ学科	4	140	—	560	学士(体育学)	1.03	平成16年	〃	
	武道学科	4	60	—	240	学士(体育学)	1.02	昭和43年	〃	
	生涯スポーツ学科	4	110	—	440	学士(体育学)	0.99	昭和46年	〃	
	スポーツレジャーマネジメント学科	4	60	—	240	学士(体育学)	1.03	平成16年	〃	
	健康学部		200	—	800		1.02	平成30年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	健康マネジメント学科	4	200	—	800	学士(健康マネジメント学)	1.02	平成30年	〃	
状	理学部		320	—	1,280		0.98	昭和39年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	数学科	4	80	—	320	学士(理学)	0.99	昭和39年	〃	
	情報数理学科	4	80	—	320	学士(理学)	0.99	昭和49年	〃	
	物理学科	4	80	—	320	学士(理学)	0.98	昭和39年	〃	
	化学科	4	80	—	320	学士(理学)	0.98	昭和39年	〃	
	情報理工学部		200	—	800		1.03	平成13年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	情報科学科	4	100	—	400	学士(工学)	1.04	平成13年	〃	
	コンピュータ応用工学科	4	100	—	400	学士(工学)	1.03	平成13年	〃	
況										

既設	工学部		1,390	—	5,560	1.01	昭和25年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	生命科学学科	4	100	—	400	0.99	平成13年	〃	
	応用化学学科	4	80	—	320	1.00	平成13年	〃	
	光・画像工学科	4	60	—	240	1.02	平成18年	〃	
	原子力工学科	4	40	—	160	0.89	平成18年	〃	
	電気電子工学科	4	140	—	560	1.04	平成18年	〃	
	材料科学学科	4	80	—	320	0.98	昭和41年	〃	
	建築学科	4	200	—	800	1.07	昭和41年	〃	
	土木工学科	4	120	—	480	1.05	昭和41年	〃	
	精密工学科	4	80	—	320	1.06	昭和46年	〃	
	機械工学科	4	140	—	560	0.99	昭和46年	〃	
	動力機械工学科	4	150	—	600	0.99	昭和46年	〃	
	航空宇宙学科		140	—	560	0.99	昭和42年	〃	
	航空宇宙学専攻	4	90	—	360	1.03	昭和42年	〃	
	航空操縦学専攻	4	50	—	200	0.93	昭和42年	〃	
大	医用生体工学科	4	60	—	240	1.04	平成22年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 神奈川県伊勢原市下糟屋143	
	観光学部		200	—	800	1.03	平成22年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 東京都渋谷区富ヶ谷2-28-4	
学	観光学科	4	200	—	800	1.03	平成22年	〃	
	情報通信学部		320	—	1,280	1.02	平成20年	東京都港区高輪2-3-23	
	情報メディア学科	4	80	—	320	1.00	平成20年	〃	
	組込みソフトウェア工学科	4	80	—	320	1.07	平成20年	〃	
	経営システム工学科	4	80	—	320	1.00	平成20年	〃	
	通信ネットワーク工学科	4	80	—	320	1.04	平成20年	〃	
等	海洋学部		530	—	2,120	1.00	昭和37年	静岡県静岡市清水区折戸3-20-1	
	海洋文明学科	4	80	—	320	1.00	平成16年	〃	
	環境社会学科	4	80	—	320	1.06	平成23年	〃	
	海洋地球科学学科	4	80	—	320	1.01	平成23年	〃	
	水産学科	4	120	—	480	1.04	平成18年	〃	
	海洋生物学科	4	90	—	360	1.03	平成18年	〃	
	航海工学科		80	—	320	0.83	平成23年	〃	
	航海学専攻	4	20	—	80	0.96	平成23年	〃	
の	海洋機械工学専攻	4	60	—	240	0.78	平成23年	〃	
	医学部		203	—	1,048	0.90	昭和49年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 神奈川県伊勢原市下糟屋143	
	医学科	6	118	—	708	0.88	昭和49年	〃	
	看護学科	4	85	—	340	0.97	平成30年	〃	
の	健康科学部						平成7年	神奈川県伊勢原市下糟屋143	平成30年度より学生募集停止
	看護学科	4	—	—	—	—	平成7年	〃	平成30年度より学生募集停止
	社会福祉学科	4	—	—	—	—	平成7年	〃	平成30年度より学生募集停止
状	経営学部		230	—	920	0.99	平成25年	熊本県熊本市東区渡鹿9-1-1	
	経営学科	4	150	—	600	1.04	平成25年	〃	
	観光ビジネス学科	4	80	—	320	0.92	平成25年	〃	
の	基盤工学部		140	—	560	0.74	平成25年	熊本県熊本市東区渡鹿9-1-1	
	電気電子情報工学科	4	80	—	320	0.73	平成25年	〃	
	医療福祉工学科	4	60	—	240	0.77	平成25年	〃	
況	農学部		230	—	920	0.89	平成20年	熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽	
	応用植物科学学科	4	80	—	320	0.95	平成20年	〃	
	応用動物科学学科	4	80	—	320	0.88	平成20年	〃	
	バイオサイエンス学科	4	70	—	280	0.86	平成20年	〃	
	国際文化学部		260	—	1,040	1.01	平成20年	北海道札幌市南区南沢5条1-1-1	
の	地域創造学科	4	110	—	440	1.05	平成20年	〃	
	国際コミュニケーション学科	4	80	—	320	1.05	平成20年	〃	
	デザイン文化学科	4	70	—	280	0.89	平成24年	〃	
	生物学部		140	—	560	1.02	平成24年	北海道札幌市南区南沢5条1-1-1	
	生物学科	4	70	—	280	0.99	平成24年	〃	
海洋生物科学学科	4	70	—	280	1.05	平成24年	〃		

既設大 学等 の 状 況	《大学院》									
	総合理工学研究科							平成17年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 等	令和3年度より学生募集停止 令和3年度より学生募集停止
	総合理工学専攻	博士課程	3	35	—	105	博士(理学)・博士(工学)	0.47	平成17年	
	地球環境科学研究科							平成17年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 等	
	地球環境科学専攻	博士課程	3	—	—	—	博士(理学)・博士(工学)	—	平成17年	
	生物科学研究科							平成17年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 等	
	生物科学専攻	博士課程	3	10	—	30	博士(理学)・博士(農学) 博士(看護学)	0.10	平成17年	
	文学研究科							昭和44年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	文明研究専攻	博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.31	昭和49年	
	文明研究専攻	博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.41	昭和51年	
	史学専攻	博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.06	昭和44年	
	史学専攻	博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.00	昭和46年	
	日本文学専攻	博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.81	昭和49年	
	日本文学専攻	博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.50	昭和51年	
	英文学専攻	博士課程前期	2	4	—	8	修士(文学)	0.12	昭和44年	
	英文学専攻	博士課程後期	3	2	—	6	博士(文学)	0.00	昭和46年	
	コミュニケーション学専攻	博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.43	昭和49年	
	コミュニケーション学専攻	博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.00	昭和51年	
	観光学専攻	修士課程	2	8	—	16	修士(観光学)	0.43	平成26年	
	政治学研究科							昭和46年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	政治学専攻	博士課程前期	2	10	—	20	修士(政治学)	0.05	昭和46年	
	政治学専攻	博士課程後期	3	5	—	15	博士(政治学)	0.00	昭和48年	
	経済学研究科							昭和54年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	応用経済学専攻	博士課程前期	2	10	—	20	修士(経済学)	0.10	昭和54年	
	応用経済学専攻	博士課程後期	3	5	—	15	博士(経済学)	0.00	昭和56年	
	法学研究科							平成2年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	法律学専攻	博士課程前期	2	10	—	20	修士(法学)	0.00	平成16年	
	法律学専攻	博士課程後期	3	5	—	15	博士(法学)	0.00	平成5年	
	人間環境学研究科							平成19年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	人間環境学専攻	修士課程	2	10	—	20	修士(学術)	0.45	平成19年	
	芸術学研究科							昭和48年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	音響芸術専攻	修士課程	2	4	—	8	修士(芸術学)	0.37	昭和48年	
	造型芸術専攻	修士課程	2	4	—	8	修士(芸術学)	0.37	昭和48年	
	体育学研究科							昭和51年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	体育学専攻	博士課程前期	2	20	—	35	修士(体育学)	1.36	昭和51年	
	体育学専攻	博士課程後期	3	3	—	3	博士(体育学)	—	令和3年	
	理学研究科							昭和43年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	数理科学専攻	修士課程	2	8	—	16	修士(理学)	0.56	昭和43年	
	物理学専攻	修士課程	2	12	—	24	修士(理学)	1.37	昭和43年	
	化学専攻	修士課程	2	12	—	24	修士(理学)	0.49	昭和43年	
	工学研究科							昭和38年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	電気電子工学専攻	修士課程	2	50	—	100	修士(工学)	1.03	平成28年	
	応用理化学専攻	修士課程	2	45	—	90	修士(工学)	1.24	平成28年	
	建築土木工学専攻	修士課程	2	25	—	50	修士(工学)	1.16	平成28年	
	機械工学専攻	修士課程	2	75	—	150	修士(工学)	1.21	平成28年	
	医学生体工学専攻	修士課程	2	8	—	16	修士(工学)	0.37	平成26年	
	情報通信学研究科							平成24年	東京都港区高輪2-3-23	
	情報通信学専攻	修士課程	2	30	—	60	修士(情報通信学)	0.99	平成24年	
	海洋学研究科							昭和42年	静岡県静岡市清水区折戸3-20-1	
	海洋学専攻	修士課程	2	20	—	40	修士(海洋学)	0.65	平成27年	

既 設 大 学 等 の 状 況	医学研究科								昭和55年	神奈川県伊勢原市下糟屋143	
	医科学専攻	修士課程	2	10	—	20	修士(医科学)	0.80	平成7年	〃	
	先端医科学専攻	博士課程	4	35	—	140	博士(医学)	0.49	平成17年	〃	
	健康科学研究科								平成11年	神奈川県伊勢原市下糟屋143	
	看護学専攻	修士課程	2	10	—	20	修士(看護学)	0.85	平成11年	〃	
	保健福祉学専攻	修士課程	2	10	—	20	修士(保健福祉学)	0.15	平成11年	〃	
	農学研究科								平成20年	熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽	
	農学専攻	修士課程	2	12	—	24	修士(農学)	0.87	平成20年	〃	
	生物学研究科								令和2年	北海道札幌市南区南沢5条1-1-1	
	生物学専攻	修士課程	2	8	—	16	修士(理学)	0.25	令和2年	〃	
	大 学 の 名 称		東海大学短期大学部								
	学 部 等 の 名 称		修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	定 員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
			年	人	年次 人	人		倍			
	食物栄養学科		2	—	—	—	短期大学士(食物栄養学)	—	昭和41年	静岡県静岡市葵区宮前町101	令和2年度より学生募集停止
	児童教育学科		2	—	—	—	短期大学士(児童教育学)	—	昭和44年	〃	令和2年度より学生募集停止
	大 学 の 名 称		東海大学医療技術短期大学								
	学 部 等 の 名 称		修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	定 員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
			年	人	年次 人	人		倍			
	看護学科		3	—	—	—	短期大学士(看護学)	—	昭和49年	神奈川県平塚市北金目4-1-2	令和2年度より学生募集停止

附属施設の概要	名 称：東海大学医学部付属病院 目的：医療機関 所 在 地：神奈川県伊勢原市下糟屋143 設置年月：昭和50年2月 規 模 等：土地 116,282.91㎡、建物 83,850.19㎡	
	名 称：東海大学医学部付属東京病院 目的：医療機関 所 在 地：東京都渋谷区代々木1－2－5 設置年月：昭和58年12月 規 模 等：土地 2,498.45㎡、建物 7,550.91㎡	
	名 称：東海大学医学部付属大磯病院 目的：医療機関 所 在 地：神奈川県中郡大磯町月京21－1 設置年月：昭和59年4月 規 模 等：土地 23,286.72㎡、建物 19,752.88㎡	
	名 称：東海大学医学部付属八王子病院 目的：医療機関 所 在 地：東京都八王子市石川町1838 設置年月：平成14年3月 規 模 等：土地 47,708.39㎡、建物 44,334.88㎡	
	名 称：望星丸 目的：海洋調査研修 所 在 地：東京都（船籍港） 設置年月：平成5年3月（進水の年月） 規 模 等：総トン数1,777トン、国際総トン数2,174トン 全長全長87.98m、型幅12.80m、型深さ8.10m	

【別紙】同一設置者内における変更状況

政治経済学部経営学科（廃止）（△ 160）	※令和4年4月学生募集停止
教養学部国際学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
工学部生命化学科（廃止）（△ 100）	※令和4年4月学生募集停止
工学部光・画像工学科（廃止）（△ 60）	※令和4年4月学生募集停止
工学部原子力工学科（廃止）（△ 40）	※令和4年4月学生募集停止
工学部材料科学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
工学部建築学科（廃止）（△ 200）	※令和4年4月学生募集停止
工学部土木工学科（廃止）（△ 120）	※令和4年4月学生募集停止
工学部精密工学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
工学部動力機械工学科（廃止）（△ 150）	※令和4年4月学生募集停止
工学部医用生体工学科（廃止）（△ 60）	※令和4年4月学生募集停止
情報通信学部情報メディア学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
情報通信学部組込みソフトウェア工学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
情報通信学部経営システム工学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
情報通信学部通信ネットワーク工学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
海洋学部海洋文明学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
海洋学部環境社会学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
海洋学部海洋地球科学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
海洋学部航海工学科航海学専攻（廃止）（△ 20）	※令和4年4月学生募集停止
海洋学部航海工学科海洋機械工学専攻（廃止）（△ 60）	※令和4年4月学生募集停止
経営学部（廃止）	※令和4年4月学生募集停止
経営学科（廃止）（△ 150）	※令和4年4月学生募集停止
観光ビジネス学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
基盤工学部（廃止）	※令和4年4月学生募集停止
電気電子情報工学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
医療福祉工学科（廃止）（△ 60）	※令和4年4月学生募集停止
農学部応用植物科学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
農学部応用動物科学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
農学部バイオサイエンス学科（廃止）（△ 70）	※令和4年4月学生募集停止
国際文化学部デザイン文化学科（廃止）（△ 70）	※令和4年4月学生募集停止
児童教育学部（令和3年3月認可申請）	
児童教育学科（150）	
経営学部（令和3年4月届出予定）	
経営学科（230）	
国際学部（令和3年4月届出予定）	
国際学科（200）	
情報理工学部情報メディア学科（100）（令和3年4月届出予定）	
工学部生物工学科（100）（令和3年4月届出予定）	
工学部医工学科（80）（令和3年4月届出予定）	
建築都市学部（令和3年4月届出予定）	
建築学科（240）	
土木工学科（100）	
情報通信学部情報通信学科（240）（令和3年4月届出予定）	
人文学部（令和3年4月届出予定）	
人文学科（180）	
海洋学部海洋理工学科海洋理工学専攻（130）（令和3年4月届出予定）	
海洋学部海洋理工学科航海学専攻（20）（令和3年4月届出予定）	
文理融合学部（令和3年4月届出予定）	
経営学科（130）	
地域社会学科（100）	
人間情報工学科（70）	
農学部農学科（80）（令和3年4月届出予定）	
農学部動物科学科（80）（令和3年4月届出予定）	
農学部食生命科学科（70）（令和3年4月届出予定）	
政治経済学部	
政治学科〔定員増〕（40）（令和4年4月）	
経済学科〔定員増〕（40）（令和4年4月）	
教養学部	
人間環境学科〔定員減〕（△ 40）（令和4年4月）	
芸術学科〔定員減〕（△ 20）（令和4年4月）	
体育学部	
体育学科〔定員増〕（10）（令和4年4月）	
競技スポーツ学科〔定員増〕（30）（令和4年4月）	
生涯スポーツ学科〔定員増〕（10）（令和4年4月）	
スポーツ・レジャーマネジメント学科〔定員増〕（10）（令和4年4月）	
工学部	
応用化学科〔定員増〕（20）（令和4年4月）	
電気電子工学科〔定員減〕（△ 20）（令和4年4月）	
海洋学部	
海洋生物学科〔定員減〕（△ 10）（令和4年4月）	
医学部	
看護学科〔定員増〕（10）（令和4年4月）	
生物学部	
生物学科〔定員増〕（5）（令和4年4月）	
海洋生物科学科〔定員増〕（5）（令和4年4月）	

学校法人東海大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和3年度

東海大学						
学 部	学科・専攻・課程		入学定員	編入学定員	収容定員	備考
文学部	文明学科		60	—	240	
	歴史学科	日本史専攻	50	—	200	
		西洋史専攻	50	—	200	
		考古学専攻	30	—	120	
	日本文学科		90	—	360	
	英語文化コミュニケーション学科		90	—	360	
文化社会学部	アジア学科		70	—	280	
	ヨーロッパ・アメリカ学科		70	—	280	
	北欧学科		60	—	240	
	文芸創作学科		60	—	240	
	広報メディア学科		100	—	400	
	心理・社会学科		90	—	360	
政治経済学部	政治学科		160	—	640	
	経済学科		160	—	640	
	経営学科		160	—	640	
法学部	法律学科		300	—	1200	
教養学部	人間環境学科	自然環境課程	65	—	260	
		社会環境課程	95	—	380	
	芸術学科	音楽学課程	32	—	128	
		美術学課程	20	—	80	
		デザイン学課程	38	—	152	
	国際学科		80	—	320	
体育学部	体育学科		110	—	440	
	競技スポーツ学科		140	—	560	
	武道学科		60	—	240	
	生涯スポーツ学科		110	—	440	
	スポーツ・レジャーマネジメント学科		60	—	240	
健康学部	健康マネジメント学科		200	—	800	
理学部	数学科		80	—	320	
	情報数理学科		80	—	320	
	物理学科		80	—	320	
	化学科		80	—	320	
情報理工学部	情報科学科		100	—	400	
	コンピュータ応用工学科		100	—	400	
工学部	生命化学科		100	—	400	
	応用化学科		80	—	320	
	光・画像工学科		60	—	240	
	原子力工学科		40	—	160	
	電気電子工学科		140	—	560	
	材料科学科		80	—	320	
	建築学科		200	—	800	
	土木工学科		120	—	480	
	精密工学科		80	—	320	
	機械工学科		140	—	560	
	動力機械工学科		150	—	600	
	航空宇宙学科	航空宇宙学専攻	90	—	360	
		航空操縦学専攻	50	—	200	
	医用生体工学科		60	—	240	
観光学部	観光学科		200	—	800	
情報通信学部	情報メディア学科		80	—	320	
	組込みソフトウェア工学科		80	—	320	
	経営システム工学科		80	—	320	
	通信ネットワーク工学科		80	—	320	
海洋学部	海洋文明学科		80	—	320	
	環境社会学科		80	—	320	
	海洋地球科学科		80	—	320	
	水産学科		120	—	480	
	海洋生物学科		90	—	360	
	航海工学科	航海学専攻	20	—	80	
		海洋機械工学専攻	60	—	240	
医学部	医学科		118	—	708	118名は令和3年度入学生まで
	看護学科		85	—	340	
経営学部	経営学科		150	—	600	
	観光ビジネス学科		80	—	320	
基盤工学部	電気電子情報工学科		80	—	320	
	医療福祉工学科		60	—	240	

令和4年度

東海大学						
学 部	学科・専攻・課程		入学定員	編入学定員	収容定員	備考 変更の事由
文学部	文明学科		60	—	240	
	歴史学科	日本史専攻	50	—	200	
		西洋史専攻	50	—	200	
		考古学専攻	30	—	120	
	日本文学科		90	—	360	
	英語文化コミュニケーション学科		90	—	360	
文化社会学部	アジア学科		70	—	280	
	ヨーロッパ・アメリカ学科		70	—	280	
	北欧学科		60	—	240	
	文芸創作学科		60	—	240	
	広報メディア学科		100	—	400	
	心理・社会学科		90	—	360	
政治経済学部	政治学科		200	—	800	定員変更(40)
	経済学科		200	—	800	定員変更(40)
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
経営学部	経営学科		230	—	920	学部の設置(届出)
法学部	法律学科		300	—	1200	
教養学部	人間環境学科		120	—	480	定員変更(△40)
	芸術学科		70	—	280	定員変更(△20)
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
			0	—	0	
国際学部	国際学科		200	—	800	学部の設置(届出)
児童教育学部	児童教育学科		150	—	600	学部の設置(認可申請)
体育学部	体育学科		120	—	480	定員変更(10)
	競技スポーツ学科		170	—	680	定員変更(30)
	武道学科		60	—	240	
	生涯スポーツ学科		120	—	480	定員変更(10)
	スポーツ・レジャーマネジメント学科		70	—	280	定員変更(10)
健康学部	健康マネジメント学科		200	—	800	
理学部	数学科		80	—	320	
	情報数理学科		80	—	320	
	物理学科		80	—	320	
	化学科		80	—	320	
情報理工学部	情報科学科		100	—	400	
	コンピュータ応用工学科		100	—	400	
	情報メディア学科		100	—	400	学部の学科の設置(届出)
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
	生物工学科		100	—	400	学部の学科の設置(届出)
	応用化学科		100	—	400	定員変更(20)
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
	電気電子工学科		120	—	480	定員変更(△20)
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
	機械システム工学科		140	—	560	学部の学科の設置(届出)
	機械工学科		140	—	560	
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
	航空宇宙学科	航空宇宙学専攻	90	—	360	
		航空操縦学専攻	50	—	200	
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
	医工学科		80	—	320	学部の学科の設置(届出)
建築都市学部	建築学科		240	—	960	
	土木工学科		100	—	400	学部の設置(届出)
観光学部	観光学科		200	—	800	
情報通信学部			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
	情報通信学科		240	—	960	学部の学科の設置(届出)
人文学部	人文学科		180	—	720	学部の設置(届出)
海洋学部			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
	水産学科		120	—	480	
	海洋生物学科		80	—	320	定員変更(△10)
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
			0	—	0	
	海洋理工学科	海洋理工学専攻 航海学専攻	130 20	—	520 80	学部の学科の設置(届出)
医学部	医学科		110	—	660	臨時定員増(8)は令和3年度まで
	看護学科		95	—	380	定員変更(10)
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
			0	—	0	令和4年4月学生募集停止
文理融合学部	経営学科		130	—	520	
	地域社会学科		100	—	400	学部の設置(届出)
	人間情報工学科		70	—	280	

令和3年度					
農学部	応用植物科学科	80	—	320	
	応用動物科学科	80	—	320	
	バイオサイエンス学科	70	—	280	
国際文化学部	地域創造学科	110	—	440	
	国際コミュニケーション学科	80	—	320	
	デザイン文化学科	70	—	280	
生物学部	生物学科	70	—	280	
	海洋生物科学科	70	—	280	
計		6773	—	27328	

東海大学大学院

研究科	専攻		入学定員	編入学定員	収容定員	備考
総合理工学研究科	総合理工学専攻	(D)	35	—	105	
生物科学研究科	生物科学専攻	(D)	10	—	30	
文学研究科	文明研究専攻	(M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12	
	史学専攻	(M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12	
	日本文学専攻	(M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12	
	英文学専攻	(M)	4	—	8	
		(D)	2	—	6	
	コミュニケーション学専攻	(M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12	
	観光学専攻	(M)	8	—	16	
政治学研究科	政治学専攻	(M)	10	—	20	
		(D)	5	—	15	
経済学研究科	応用経済学専攻	(M)	10	—	20	
		(D)	5	—	15	
法学研究科	法律学専攻	(M)	10	—	20	
		(D)	5	—	15	
人間環境学研究科	人間環境学専攻	(M)	10	—	20	
芸術学研究科	音響芸術専攻	(M)	4	—	8	
	造型芸術専攻	(M)	4	—	8	
体育学研究科	体育学専攻	(M)	20	—	40	
		(D)	3	—	9	
理学研究科	数理科学専攻	(M)	8	—	16	
	物理学専攻	(M)	12	—	24	
	化学専攻	(M)	12	—	24	
工学研究科	電気電子工学専攻	(M)	50	—	100	
	応用理化学専攻	(M)	45	—	90	
	建築土木工学専攻	(M)	25	—	50	
	機械工学専攻	(M)	75	—	150	
	医用生体工学専攻	(M)	8	—	16	
情報通信学研究科	情報通信学専攻	(M)	30	—	60	
海洋学研究科	海洋学専攻	(M)	20	—	40	
医学研究科	医科学専攻	(M)	10	—	20	
	先端医科学専攻(4年制D)	(D)	35	—	140	
健康科学研究科	看護学専攻	(M)	10	—	20	
	保健福祉学専攻	(M)	10	—	20	
農学研究科	農学専攻	(M)	12	—	24	
生物学研究科	生物学専攻	(M)	8	—	16	
計			563	—	1277	

令和4年度					
農学部		<u>0</u>	—	<u>0</u>	令和4年4月学生募集停止
	農学科	80	—	320	学部の学科の設置(届出)
		<u>0</u>	—	<u>0</u>	令和4年4月学生募集停止
	動物科学科	80	—	320	学部の学科の設置(届出)
		<u>0</u>	—	<u>0</u>	令和4年4月学生募集停止
	食生命科学科	70	—	280	学部の学科の設置(届出)
国際文化学部	地域創造学科	110	—	440	
	国際コミュニケーション学科	80	—	320	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>	令和4年4月学生募集停止
生物学部	生物学科	75	—	300	定員変更(5)
	海洋生物科学科	75	—	300	定員変更(5)
計		6855	—	27640	

東海大学大学院

研究科	専攻		入学定員	編入学定員	収容定員	備考	変更の事由
総合理工学研究科	総合理工学専攻	(D)	35	—	105		
生物科学研究科	生物科学専攻	(D)	10	—	30		
文学研究科	文明研究専攻	(M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12		
	史学専攻	(M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12		
	日本文学専攻	(M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12		
	英文学専攻	(M)	4	—	8		
		(D)	2	—	6		
	コミュニケーション学専攻	(M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12		
	観光学専攻	(M)	8	—	16		
政治学研究科	政治学専攻	(M)	10	—	20		
		(D)	5	—	15		
経済学研究科	応用経済学専攻	(M)	10	—	20		
		(D)	5	—	15		
法学研究科	法律学専攻	(M)	10	—	20		
		(D)	5	—	15		
人間環境学研究科	人間環境学専攻	(M)	10	—	20		
芸術学研究科	音響芸術専攻	(M)	4	—	8		
	造型芸術専攻	(M)	4	—	8		
体育学研究科	体育学専攻	(M)	20	—	40		
		(D)	3	—	9		
理学研究科	数理科学専攻	(M)	8	—	16		
	物理学専攻	(M)	12	—	24		
	化学専攻	(M)	12	—	24		
工学研究科	電気電子工学専攻	(M)	50	—	100		
	応用理化学専攻	(M)	45	—	90		
	建築土木工学専攻	(M)	25	—	50		
	機械工学専攻	(M)	75	—	150		
	医用生体工学専攻	(M)	8	—	16		
情報通信学研究科	情報通信学専攻	(M)	30	—	60		
海洋学研究科	海洋学専攻	(M)	20	—	40		
医学研究科	医科学専攻	(M)	10	—	20		
	先端医科学専攻(4年制D)	(D)	35	—	140		
健康科学研究科	看護学専攻	(M)	10	—	20		
	保健福祉学専攻	(M)	10	—	20		
農学研究科	農学専攻	(M)	12	—	24		
生物学研究科	生物学専攻	(M)	8	—	16		
計			563	—	1277		

教 育 課 程 等 の 概 要														
（工学部 機械システム工学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Ⅰ 現代文明論	現代文明論	2前・後	2			○								兼1
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1
Ⅱ 現代教養科目	基礎教養科目	入門ゼミナールA	1前	2			○		5	2	3	1	0	
	基礎教養科目	入門ゼミナールB	1後	2			○		5	2	3	1	0	
	基礎教養科目	小計（2科目）	—	4	0	0	—		5	2	3	1	0	
	発展教養科目	シティズンシップ	1前・後	2		○								兼1
	発展教養科目	地域・国際理解	1前・後	2		○								兼1
	発展教養科目	現代教養講義	2前・後	2		○								兼1
	発展教養科目	小計（3科目）	—	6	0	0	—		0	0	0	0	0	兼1
	健康スポーツ科目	健康・フィットネス理論実習	1前・後	1				○						兼1
	健康スポーツ科目	生涯スポーツ理論実習	1前・後	1				○						兼1
	健康スポーツ科目	小計（2科目）	—	2	0	0	—		0	0	0	0	0	兼1
Ⅲ 英語科目	英語コミュニケーション	英語リスニング&スピーキング	1前・後	2				○						兼1
	英語コミュニケーション	英語リーディング&ライティング	1前・後	2				○						兼1
	英語コミュニケーション	小計（2科目）	—	4	0	0	—		0	0	0	0	0	兼1
Ⅳ 主専攻科目（学部共通科目）	データサイエンス1 統計学のためのプログラミング	1前		1			○							兼1
	データサイエンス2 データ分析と機械学習	1前		1			○							兼1
	ICTプログラミング基礎1 Webアプリケーション	1後		1			○							兼1
	ICTプログラミング基礎2 IoT実装	1後		1			○							兼1
	Exercise for TOEIC(R) Test 1	2前		1			○							兼1
	Exercise for TOEIC(R) Test 2	2後		1			○							兼1
	工科の線形代数	1前		2		○								兼1
	工科の微積分	1前		2		○								兼1
	工科の確率・統計	1後		2		○								兼1
	物理学	1前		2		○								兼1
	化学	1前		2		○								兼1
	一般生物学	1前		2		○								兼1
	航空宇宙学概論	1前		1		○								兼1
	航空操縦学概論	1前		1		○								兼1
	機械工学概論	1前		1		○								兼1

教 育 課 程 等 の 概 要														
（工学部 機械システム工学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目（学部共通科目）	機械システム工学概論	1前		1		○			1					
	電気電子工学概論	1前		1		○								兼1
	医工学概論	1前		1		○								兼1
	生物工学概論	1前		1		○								兼1
	応用化学概論	1前		1		○								兼1
	小計（20科目）	—	0	26	0	—			1	0	0	0	0	兼15
IV 主専攻科目（学科開講科目）	機械システムの基礎	機械のための数学	1前	2		○			1		1			
	機械システムの基礎	機械のための力学	1前	2		○					2			
	機械システムの基礎	機構学	1後	2		○			1					
	機械システムの基礎	機械材料基礎	1後	2		○					1			
	機械システムの基礎	機械加工基礎	2前	2		○					1			
	機械システムの基礎	計測センサ工学	2前	2		○			1					
	機械システムの基礎	機械システム工学実験演習	2前	2			○		1	1	2	1		
	機械システムの基礎	シミュレーション工学	3前	2		○				1				
	機械システムの基礎	トライボロジー	3後	2		○			1					
	機械システムの基礎	小計（9科目）	—	0	18	0	—			4	2	3	1	0
	機械システム基幹科目	材料力学基礎	1前	2		○			1			1		
	機械システム基幹科目	材料力学	1後	2		○			1			1		
	機械システム基幹科目	機械力学基礎	2前	2		○					2			
	機械システム基幹科目	機械力学	2後	2		○					2			
	機械システム基幹科目	熱力学基礎	2前	2		○				1				
	機械システム基幹科目	流れ学基礎	2後	2		○				1				
	機械システム基幹科目	小計（6科目）	—	0	12	0	—			1	1	2	1	0
社会のニーズとコミュニケーション	情報処理	1前		2			○			1		1		
	プログラミング	1後		2			○		1	1				
	テクニカルイングリッシュ 1	2前		2			○		1					
	テクニカルイングリッシュ 2	2後		2			○		1					
	キャリアデザイン 1	3前		2			○		2		1			
	キャリアデザイン 2	3後		2			○		2	1				
	小計（6科目）	—	0	12	0	—			4	2	1	1	0	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(工学部 機械システム工学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
IV 主専攻科目（学科開講科目）	ゼミナール 機械システム入門ゼミナール 1	1前		2				○		2	2				
	機械システム入門ゼミナール 2	1後		2				○		1	1	1			
	機械システムゼミナール 1	2前		2				○		4	1				
	機械システムゼミナール 2	2後		2				○		1	1		1		
	先端システムゼミナール 1	3前		2				○		3		1	1		
	先端システムゼミナール 2	3後		2				○		1		1	1		
	問題発見ゼミナール	3後	2					○		5	2	3	1		
	機械システム応用ゼミナール 1	4前		2				○		3			1		
	機械システム応用ゼミナール 2	4後		2				○		2	1				
	卒業研究 1	4前	2					○		5	2	3	1		
	卒業研究 2	4後	2					○		5	2	3	1		
	小計（11科目）	—	6	16	0	—			5	2	3	1	0		
合計（82科目）		—	24	124	0	—			5	2	3	1	0	兼18	
学位又は称号		学士（工学）			学位又は学科の分野			工学関係							
卒業要件及び履修方法															
以下の合計で124単位以上修得する。 （履修科目の登録の上限：20単位（1学期）） ☐ 科目区分Ⅰ 現代文明論 <必修科目> 2単位修得 ☐ 科目区分Ⅱ 現代教養科目 基礎教養科目 <必修科目> 4単位修得 発展教養科目 <必修科目> 6単位修得 健康スポーツ科目 <必修科目> 2単位修得 ☐ 科目区分Ⅲ 英語コミュニケーション科目 <必修科目> 4単位修得 以下、「学科目を基準」にして、区分Ⅳ主専攻科目のみ作成してください。 ☐ 科目区分Ⅳ主専攻科目 76単位修得 <必修科目> ■ゼミナール の科目群に設定された必修科目から6単位を修得。（計 6単位） <選択科目> ■学部共通科目から1科目を修得し、 ■学科開講科目の選択科目と合わせて70単位以上修得 （計70単位） ☐ 科目区分Ⅳの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位 30単位修得 合計124単位修得															
1 学年の学期区分								2 学期							
1 学期の授業期間								1 4 週							
1 時限の授業時間								1 0 0 分							

教 育 課 程 等 の 概 要														
（工学部 動力機械工学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
論 I 現代文明	現代文明論	2後	2			○								兼2
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼2
II 現代教養科目	基礎教養科目	人文科学	1前	2		○								兼7
		社会科学	1後	2		○								兼8
		自然科学	1前	2		○								兼6
		小計（3科目）	—	6	0	0	—			0	0	0	0	兼21
	発展教養科目	シティズンシップ	1前	1		○								兼5
		ボランティア	1前	1		○								兼5
		地域理解	1後	1		○								兼5
		国際理解	1後	1		○								兼6 オムニバス
		小計（4科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	兼17
	目 健康 スポー ツ 科	健康・フィットネス理論実習	1後	1				○						兼15 共同
		生涯スポーツ理論実習	1前	1				○						兼17 共同
		小計（2科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	兼24
III 英語科目	ケ 英 ー 語 シ コ ョ ミ ン ュ 科 ニ 目	英語リスニング&スピーキング	1後	2				○						兼26
		英語リーディング&ライティング	1前	2				○						兼28
		小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	兼46
	育 グ 成 ロ ー バ ル 人 材	グローバルスキル	2後	2				○						兼24
		アカデミック英語	2前	2				○						兼25
		小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	兼42

教 育 課 程 等 の 概 要														
(工学部 動力機械工学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	工学共通基礎科目	工科の微積分1	1前・後	2		○								兼17
	工科の微積分2	1後・2前		2		○								兼13
	工科の微分方程式1	1後・2前・後		2		○								兼13
	工科の微分方程式2	2後・3前		2		○								兼7
	工科の線形代数1	1前・後		2		○								兼17
	工科の線形代数2	1後		2		○								兼17
	工科の確率統計	2前・後		2		○								兼8
	基礎数学	1前・後		1		○								兼10
	物理学A	1前		4		○								兼2
	物理学B	1前・後		4		○								兼7
	物理学C	1前		2		○								兼9
	電磁気学基礎	1前・後・2前・後		2		○								兼9
	熱力学基礎	1後・2前・後		2		○								兼5
	基礎物理A	1前・後		1		○								兼4
	基礎物理B	1前		1		○								兼3
	物理実験	1前・後		2				○						兼20
	化学	1後・2前		4		○								兼3
	化学基礎	1前・後		2		○								兼10
	基礎化学A	1前・後		1		○								兼4
	化学実験	1前・後・2後		2				○						兼6
	ものづくり1	2前・後		1			○							兼4
	ものづくり2	2前・後		1			○							兼4
	小計（22科目）	—	0	44	0	—			0	0	0	0	0	兼85
工学関連科目	国際インターンシップ	4後		2				○						兼1
	科学と倫理	2前		2	○									兼2
	特許戦略	3前		2	○									兼1
	小計（3科目）	—	0	6	0	—			0	0	0	0	0	兼4

教 育 課 程 等 の 概 要														
(工学部 動力機械工学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	工学分野横断基礎科目	応用化学数学	1後	2		○								兼1
	電気電子工学概論	1前		2		○								兼12
	建築デザイン入門	1前		2		○								兼3
	建築の理数学	1前		2		○								兼4
	機械工学概論	1前		2		○								兼11
	宇宙利用技術	1後		2		○								兼5
	大気圏科学	4前		2		○								兼1
	医用生体工学概論	1前		2		○								兼1
	小計（8科目）	—	0	16	0	—			0	0	0	0	0	兼37
	熱工学	1前		4		○			2	2	2			兼1
	車両電熱工学	2前		2		○					1			
	エンジン工学	2後		2		○			1					
	小計（3科目）	—	0	8	0	—			2	2	2	0	0	兼1
	材料力学	1後		4		○			1	2				
	車両構造力学	2前		2		○			1		1			
	小計（2科目）	—	0	6	0	—			1	2	1	0	0	
	流体工学	1後		4		○			3	1	1			兼1
	カーエアロダイナミクス	2前		2		○				1				
	小計（2科目）	—	0	6	0	—			3	1	1	0	0	兼1
	機械力学	2後		4		○			2					兼1
	車両振動工学	3前		2		○			1					
	小計（2科目）	—	0	6	0	—			2	0	0	0	0	兼1
	動力輸送機	1後		2		○			1	1				
	小計（1科目）	—	0	2	0	—			1	1	0	0	0	
	制御	車両制御工学	3前	2		○					2			
	小計（1科目）	—	0	2	0	—			0	0	2	0	0	

教 育 課 程 等 の 概 要														
(工学部 動力機械工学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	材料・加工	カーマテリアル	2前	2		○				1	1			
		機械製作法	2前	2		○				1				
		小計（2科目）	—	0	4	0	—			0	2	1	0	0
	設計	動力機械設計製図	2後	2				○	1		2			兼1
		エンジン設計	3前	2				○	1					
		小計（2科目）	—	0	4	0	—			1	0	2	0	0
	車両工学	自動車工学	3前	4		○			1					
		電気自動車工学	3後	2		○			1					
		燃料電池自動車工学	3後	2		○			1		1			
		レーシングカー工学	3後	2		○					1			
		小計（4科目）	—	0	10	0	—			2	0	2	0	0
	動力共通	熱力学演習	1雨	2			○		1		1			兼1
		材料力学演習	1後	2			○		1	2				
		シミュレーション工学	2後	2		○				1				兼1
		動力機械総合演習	3後	2			○		2		1			兼1
		小計（4科目）	—	2	6	0	—			3	3	2	0	0
	情報処理	基礎情報処理	1前	2		○								兼1
		プログラミングC	2前	2		○								兼2
		小計（2科目）	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0
	英語	エンジニアのための基礎英語1	3前	2				○						兼5
		エンジニアのための基礎英語2	3後	2				○						兼2
		小計（2科目）	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0
	実験	基礎動力機械実験	3前・後	2				○	4	3	4			兼10
		動力機械実験	3前・後	2				○	4	3	4			兼10
		小計（2科目）	—	4	0	0	—			4	3	4	0	0

教 育 課 程 等 の 概 要																							
(工学部 動力機械工学科)																							
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考									
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手										
IV 主専攻科目	ゼミナール	入門ゼミナール	1前	2			○			6	4	4											
		基礎動力機械実験ゼミナール	3前・後	2			○			4	3	4			兼10								
		動力機械実験ゼミナール	3前・後	2			○			4	3	4			兼10								
		動力機械研究ゼミナール	3前		2		○			6	4	4			兼10								
		小計（4科目）	—	6	2	0	—			6	4	4	0	0	兼10								
	卒業研究	卒業研究 1	4前	4				○		6	4	4											
		卒業研究 2	4後	4				○		6	4	4											
		小計（2科目）	—	8	0	0	—			6	4	4	0	0									
	教職科目	工学概論	2後		2		○								兼10								
		職業指導	4前		4		○								兼1								
		工業科教育法 1	3前		2		○								兼1								
		工業科教育法 2	3後		2		○								兼1								
		小計（4科目）	—	0	10	0	—			0	0	0	0	0	兼12								
	合計（86科目）		—	42	140	0	—			6	4	4	0	0	兼274								
	学位又は称号	学士（工学）			学位又は学科の分野				工学関係														
卒業要件及び履修方法																							
以下合計で124単位以上修得する。 （履修科目の登録の上限：24単位（1学期））																							
☐科目区分Ⅰ現代文明論（必修科目） ☐科目区分Ⅱ現代教養科目（必修科目） ☐科目区分Ⅲ英語科目（必修科目） ☐科目区分Ⅳ主専攻科目（必修科目） ☐科目区分Ⅳの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位 2単位修得 12単位修得 8単位修得 72単位修得 30単位修得 合計124単位修得																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">授業期間等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 学年の学期区分</td> <td>2 学期</td> </tr> <tr> <td>1 学期の授業期間</td> <td>1 4 週</td> </tr> <tr> <td>1 時限の授業時間</td> <td>1 0 0 分</td> </tr> </tbody> </table>																授業期間等		1 学年の学期区分	2 学期	1 学期の授業期間	1 4 週	1 時限の授業時間	1 0 0 分
授業期間等																							
1 学年の学期区分	2 学期																						
1 学期の授業期間	1 4 週																						
1 時限の授業時間	1 0 0 分																						

授 業 科 目 の 概 要				
（工学部 機械システム工学科）				
科目区分	学科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Ⅰ 現代文明論		現代文明論	この科目は東海大学に学ぶすべての学生が、建学の精神を理解し自らの思想を培うために開講される。すなわち歴史や世界への見識を高め、人類社会のあり方を見直すことを通じて、地球規模で深刻化する困難な事態にあっても、時代を開拓しようとする力強い思考や意欲を養うことを目的としている。理系、文系の枠を超えて、現代の課題の根源を探るために不可欠な歴史的・系譜的な認識を深め、それを多様な角度から読み解く思考法を身につけるとともに、人間的価値に基づいた倫理観によって未来を選択しうることを学ぶ。	
Ⅱ 現代教養科目	基礎教養科目	入門ゼミナールA	本授業は1年次生を対象とした全学共通のゼミナール形式の初年次教育科目である。「大学での学び方」を学ぶことを目的とし、4年間の計画的な学習スケジュールを構築しつつ、ノートを取り方や情報収集の方法、情報リテラシー、図書館の利用方法といった、大学生活を送るうえで必要なアカデミックスキルの基礎的能力・知識をまずは養っていく。さらに特定のテーマについて個人の関心に応じた調査・発表といった演習を通じ、学生個別の学問的関心を喚起させ、自分自身が持つ興味や関心を正しく探求し表現していく方法を学ぶ。	
		入門ゼミナールB	本授業は1年次生を対象とした全学共通のゼミナール形式の初年次教育科目である。「入門ゼミナールA」で培った個人的関心から生じた問いを、より公共的・普遍的な問いへ変換させる能力を養うことを目的とする。具体的にはクリティカルリーディング、レポートのまとめ方の学び、グループ演習・発表を通じて、「スキルの向上」を目指すと同時に、所属学科における専門分野の基礎的知識や問題点に対しての取り組み方、倫理観などの育成を通じて、本学が育成を目指す、自ら考え、集い、挑み、成し遂げていく力を身に付けるための学び方と姿勢を醸成していく。	
	発展教養科目	シティズンシップ	現代社会においては、思想信条、宗教、人種、民族、文化、性別、国籍等の異なる様々な人々が相互に関わりながら暮らしている。背景の違いはあるとしても、共同体に参加する人々のことを市民（シティズン）と呼ぶ。この科目では、「シティズンシップ（市民性）」の観点から、多様な人々が民主政治の担い手である市民として、意見の違いを乗り越え、相互の人権を尊重しあえる社会を形成するにはどうすればよいかを考えることを目標とする。参加型授業を通じ、社会の様々な課題について話し合い、周囲と協同しつつ解決方法を考えることで、社会参加のあり方を学ぶ。	
		地域・国際理解	人は日々、ある地域で様々なひと・もの・ことに支えられながら生活している。豊かな生活を営むために、地域で仲間をつくり、議論し、協同し、基盤となる豊かな地域を持続させていく必要がある。一方、現代の地域社会はグローバル化の波にされされ、遠く離れた地域ともひと・もの・ことを介して緊密に連動するようになっている。この科目では、自らが暮らす地域社会と国際社会の現実を見つめ、多様な人々の視点に立ち、地域社会・国際社会の様々な課題を発見し、その解決について考える。さらに、コミュニティにおける自らの役割を認識することを目指す。	
		現代教養講義	現代教養とは、人々が現在の複雑化した文明社会を生きるために必要な知識である。情報技術の発展や経済活動のグローバル化など、急激な社会的変化にされされる一方、気候変動や階級格差など、様々な問題解決を迫られている。こうした現代社会の中でより良く生きるため、高度に専門化した現代の科学的知識について、その枝葉にとらわれず本質をつかみ、学ぶ必要がある。この科目は教員自身が現在取り組んでいる研究について講義する。文理融合的な幅広い視野を重視しつつ、現代の新たな研究知見を学び、幅広い知識と視野を養う。	
	健康スポーツ科目	健康・フィットネス理論実習	本授業では、生涯を通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践方法を講義と実習を通して学習する。また、健康・体力面だけでなく、仲間とともに身体活動を通しての「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」を体験し、コミュニケーション能力の向上をねらいとする。具体的には、健康的な生活習慣を身につけることに重点を置き、健康に関する理論や重要性を理解するとともに、自己の体力に応じたフィットネスの実践能力を習得する。	
		生涯スポーツ理論実習	本授業では、生涯を通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践方法を講義と実習を通して学習する。また、健康・体力面だけでなく、仲間とともに身体活動を通しての「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」を体験し、コミュニケーション能力の向上をねらいとする。具体的には、生涯を通じたスポーツライフスタイルの獲得に重点を置き、スポーツの“おもしろさ”や“大切さ”などを学び、ライフステージに応じたスポーツの楽しみ方と実践能力を習得する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（工学部 機械システム工学科）				
科目区分	学科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Ⅲ 英語科目	英語コミュニケーション科目	英語リスニング&スピーキング	国際化時代の今日、日本国内外を問わず言語や価値観そして文化の異なる人々と英語を使って意思疎通をはかることの重要性がさらに高まっている。その中での課題に柔軟に対応し、問題を解決するための実践的英語コミュニケーション能力の基盤を作ることを目標とする。学習者の英語力に合わせて効率よく学習できる習熟度別クラス編成で、多様な種類の英語を理解するリスニング力と、自分の意志を適切に表現するためのスピーキング力を相互に関連させながら、総合的に英語力の向上を図る。	
		英語リーディング&ライティング	国際化時代の今日、日本国内外を問わず言語や価値観そして文化の異なる人々と英語を使って意思疎通をはかることの重要性がさらに高まっている。その中での課題に柔軟に対応し、問題を解決するための実践的英語コミュニケーション能力の基盤を作ることを目標とする。学習者の英語力に合わせて効率よく学習できる習熟度別クラス編成で、多様な種類の英語を理解するリーディング力と、自分の意志を適切に表現するためのライティング力を相互に関連させながら、総合的に英語力の向上を図る。	
Ⅳ 主専攻科目（学部共通科目）		データサイエンス1 統計学のためのプログラミング	データサイエンスにおける「統計学」は、多様なデータを元に現象を記述し、現象のモデルを構築して科学的な知識や結論を導くためのコンピュータ科学の実践である。本科目は、データサイエンスにおける統計学の知識を持つための基礎を学びながら理解する科目である。具体的には、統計学の特性を中心に理解し、Pythonスクリプト言語を用いたデータ処理とデータの可視化の方法を理解し、さらに統計グラフの活用と確率的な現象の扱い方を理解することを目的とする。	
		データサイエンス2 データ分析と機械学習	「データ分析と機械学習」は、多様なデータベースから情報抽出と統計学による確率的な扱いによって、与えられた条件を満たす解のうち数理的に最適な解を探索する最適化手法である。本科目は、データ分析および機械学習に必要な技術と知識を学びながらデータサイエンスの基礎を理解する科目である。具体的には、Pythonスクリプト言語によるプログラムをツールとして、まず帰帰と分類の数学解法を理解し、次に機械学習の仕組みと技術ならびに活用方法を理解することを目的とする。	
		ICTプログラミング基礎1 Webアプリケーション	「Webアプリケーション」は、ユーザーが直接的に操作するWebフロントエンド（ブラウザ側）と、それを監視するWebバックエンド（サーバ側）の2つのシステムから構成される。本科目は、Webサイト表示とWebサーバ制作に必要な技術と知識を持つためのプログラミングの基礎を学びながら理解する科目である。具体的には、JavaScriptによるオブジェクト指向言語を中心に理解し、WebブラウザとWebサーバの間でメッセージを双方向通信するためのモジュールの構築方法を理解することを目的とする。	
		ICTプログラミング基礎2 IoT実装	「IoT実装」は、センサやスイッチなどのハードウェアデバイスをリモート操作・監視するICTの応用である。本科目は、IoT実装に必要な技術と知識を持つためのハードウェアとソフトウェアの基礎を学びながら理解する科目である。具体的には、Pythonスクリプト言語を中心に理解し、ハードウェアデバイスをリモート操作・監視するためのソフトウェアをつくり、WebフロントエンドおよびWebバックエンドに連携するための方法を理解することを目的とする。	
		Exercise for TOEIC(R) Test 1	グローバル化された現代社会においては、様々な場面で英語を使いこなす力が要求される。英語力の向上には、「リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング」の4技能をバランス良く学習することが必要である。本科目は、実用的な英語能力の向上を図ることを目標としている。具体的には、TOEICテストのスコア目標450点までに従って演習を行い、各自がスコアアップを目指す。また、コンピュータやインターネットを活用した英語学習などについても取り扱う。	
		Exercise for TOEIC(R) Test 2	グローバル化された現代社会においては、様々な場面で英語を使いこなす力が要求される。英語力の向上には、「リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング」の4技能をバランス良く学習することが必要である。本科目は、実用的な英語能力の向上を図ることを目標としている。具体的には、TOEICテストのスコア目標600点以上に従って演習を行い、各自がスコアアップを目指す。また、コンピュータやインターネットを活用した英語学習などについても取り扱う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（工学部 機械システム工学科）				
科目区分	学科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目（学部共通科目）		工科の線形代数	特に理工学の基礎として重要な概念である行列について学ぶ。工学で扱う現象の多くは、条件を単純化すれば計算が簡単な線形代数の問題に言い換えられる。連立1次方程式の「消去法による解法」から解説を始め、行列の考え方や行列に対する演算を自然に定義する。連立1次方程式の解法、解集合の幾何的性質そして行列の階数の間の有機的関係に注意して前半の授業を進める。主な内容は、ベクトル（ベクトルとスカラー、演算、内積・外積）と行列（行列とベクトルとその演算、行列式、逆行列、階数、連立方程式、1次変換、固有値と固有ベクトル）である。	
		工科の微積分	微分積分学は、ニュートン、ライブニッツ等により創始され、物体の運動を記述する上で不可欠な学問である。その応用範囲は自然科学、工学等へと広がり、現象を理解、分析するための強力な道具となっている。例えば、速度、加速度は微分を用いて記述され、長さ、面積、体積、質量、エネルギーは積分を用いて記述される。本授業では、工学系専門科目で必要となる微分と積分の基礎を学ぶ。本授業を通して微分積分の考え方や概念、基本的な計算方法の習得を目的としている。その結果、専門科目において微分積分を道具として正しく使えるようになることを目標とする。	
		工科の確率・統計	科学や工学の研究では、多くの場合、実験、観測、調査等が必要になる。統計学はこれらのデータから情報を取り出す学問である。その一つは、データを整理して、その分布、傾向および特徴等を明らかにすることであり、もう一つはデータの背後にある全体の情報を推測することである。これは適当なモデルを使って全体の特性を表す値（パラメータ）を推定する。さらに、このパラメータに関する仮説が妥当かどうかを検定する。講義では 場合の数、試行と事象、確率の意味、平均と分散・標準偏差、母集団と標本、正規分布、ポアソン分布、統計的推定、統計的検定について学修する。	
		物理学	物理学はすべての理工学の基礎であり、学科の専門基礎科目を学習する前に必ず習得しなければならない基礎科目である。通常、物理学は力学、熱力学、電磁気学に分けられるが、本科目では力学に重点をおいて学習する。学習範囲には質点の力学および剛体の力学が含まれる。この授業により、様々な自然界の現象を物理的に捉えることが出来るようになり、これから学ぶ専門的な基礎学力を養うことができる。	
		化学	化学とは「物質に関する科学」であり、本科目では工学部の専門課程で学ぶために必要となる自然科学的な基礎知識を習得することを目標としている。まず、物質を構成する原子および分子、そして「物質質量」の概念を学び、物理化学的な物質の状態と性質、酸・塩基や酸化・還元などの化学反応をはじめ無機化学や有機化学の基礎について学ぶ。本科目を学ぶことにより、工学以外にも自然現象や日常生活に密接したエネルギー問題や環境問題について自ら学ぶための能力を培うことも目標としている。	
		一般生物学	本科目は、主に生物学の基本的事項に関する講義を行う科目である。生物工学の分野では、生物の共通性と多様性、遺伝子の変化と進化、個体の発生と細胞分化、生態系のバランスと保全などを習得することが重要である。そこで本科目では、それらに関連して、突然変異、自然選択、遺伝子発現調節、生態系の物質循環などを学び、生物を巨視的な視野でとらえ、生命の起源とその行く先を考えるためにベースとなる事項を身につけることを目的とする。	
		航空宇宙学概論	航空宇宙学の対象は航空機やロケット、人工衛星や惑星探査機、オーロラや宇宙プラズマなど幅広く存在する。これらは、航空機に関する周辺技術を幅広く学ぶ「航空工学」、宇宙開発につながる力を身につける「宇宙工学」、自然現象を科学的に理解する力を養う「宇宙環境科学」の3分野に分けられる。本授業の目的は、航空宇宙学をより深く学ぶための目標を示すことである。それぞれの分野について興味深い重要な事柄をいくつか取り上げて説明する。	
		航空操縦学概論	航空機を安全に運航するために知るべき知識は多岐にわたる。本授業では、飛行機、その運航、および運航を支える様々なしくみを知ることによって、航空操縦学における学習と訓練の概要の理解を目指す。具体的には、航空機の基本的な構造、飛行の基本原則、航空界の基本的な用語から始まり、仮想フライトを通じた操縦業務、航空気象、航空法、飛行訓練、飛行の準備、エアラインの運航業務に係るシステムなどを概説する。	
		機械工学概論	本授業は、自動車や産業機械のような身近にある代表的な機械を例に、機械工学の各分野がこれらの機械にどのように関わっているかについて、講義を行う。具体的には、最も基本的な知識である4力学（機械力学・流体力学・熱力学・材料力学）および計測制御・設計・材料学・加工学などの知識が、一つの機械を作り上げるまでにどのように関係するのかを学び、機械工学の概要を理解することを目的としている。	

授 業 科 目 の 概 要				
（工学部 機械システム工学科）				
科目区分	学科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目 （学部共通科目）		機械システム工学概論	ロボットや自動車などに代表される「機械システム」に関する知識は、私たちの生活を今後さらに豊かにする上で、非常に重要となる。本授業では、大学に入学してきた学生が、早い段階から「機械システム工学」への関心と理解を深めるために企画されたものである。具体的には、自動車やロボットのような身近にある代表的な「機械システム」を例に、機械システム工学の各分野がどのようにかかわっているかについて、講義を行う。	
		電気電子工学概論	電気・電子・情報・通信技術は、さまざまな産業からインターネットを利用した各種情報サービスに至るまで幅広く浸透し、私たちの豊かな生活と社会システムを支えている。本授業では、現代の電気電子工学を構成する電気・電子・情報・通信工学を対象に、これらの社会的な位置付けを理解し、学生一人ひとりの視野を広げることが目標としている。電気・電子・情報・通信分野の発展の歴史、主要技術、最新動向、今後の展望等を紹介するとともに、それらの基礎知識について教授する。また、電気・電子・情報・通信工学の学び方についても指導する。	
		医工学概論	医工学は医療の科学技術化はもちろん、高齢化社会、医療資源の枯渇あるいは環境問題などの解決に不可欠の学問分野である。医工学を学ぶには医学から理学・工学と多岐にわたる知識を必要とするが、授業では、生体の構造と機能および特異性、生体の各種情報の特異性や種々の物理的エネルギーに対する生体の反応、生体計測と制御、生体を対象とする医療機器や医療システムに必要な条件などを概説し、医用生体工学の全体像が把握できるようにする。	
		生物工学概論	生物学の知識や技術は、医薬品・食品・化粧品等の製造に用いられ、医療の現場において様々な疾患や病原体への対応に広く活用されている。これら生物工学の分野では、生物に関する基本的な知識・技術を理解し、社会につなげることが重要である。本科目では、生物の成り立ち、細胞と器官、DNAやタンパク質を含む生体分子、医薬品の働きなどを学び、産業や医療への応用を理解するためのベースとなる事項を身につけることを目的とする。	
		応用化学概論	化学の知識や技術を応用して創られる化学製品は、豊かな現代社会を支える基礎となっている。そして、これらの化学製品が環境問題の一因やエネルギー問題の解決に役立っていることも事実である。本科目では、無機化学や有機化学の知識を応用して創られる化学製品やその生産技術の概要について学ぶ。さらに、環境問題やエネルギー問題に直面する近代社会の現状を踏まえて大学で化学を学ぶ工学的に応用することの意義について考える。本科目を通じて、将来の文明社会を担う化学技術者としての心構えや考え方を身につけることを目的としている。	
主 専 攻 科 目 （学科開講科目）	機 械 シ ス テ ム の 基 礎	機械のための数学	「機械のための数学」では、機械システム工学科で学ぶための基礎となる数学を扱い、本質を効率よく学ぶために、Mathematicaを用いて演習を解かせるなどの工夫をして講義を行う。具体的には、線形代数、微分積分の本質的な内容を講義し、計算等はMathematicaを用いる。また、Mathematicaのグラフィクスなどを用いて線形代数、微分積分の本質的な内容をイメージしながら学ぶ。	
		機械のための力学	「機械のための力学」は、機械工学の基礎をなす科目のひとつであり、その基本をマスターすることは機械系の学生にとって必須である。本科目では物体に作用する力のつりあい状態を取り扱う静力学を学び、その基礎知識を理解するとともに、比較的簡単な力学的問題への応用能力を身につけ、将来高度な力学的問題の解決や具体的な設計活動への展開を図れるようになることを目標とする。 授業では、力の物理的意味、作用と反作用、モーメントの作用、力のつりあいなどについて講義する。	
		機構学	ロボットや自動車などをはじめとする機械システムには、歯車機構、ベルト機構、カム機構、リンク機構などが数多く用いられている。したがって、種々の機械システムを設計・開発する機械技術者にとってこれらの機構の基礎知識が必須である。本科目では、種々の機械システムにおいてよく使用されている基本的な機構について学ぶ。また、それら機構の構造、役割、動作原理などについて理解すること、さらに、それらの機構がどのように世の中の機械システムに応用されているかについても理解することを目的とする。	
		機械材料基礎	ロボット、AI、福祉用具、自動車、輸送機器などの機械システム分野に使用される材料を扱う。具体的な工業製品を例に挙げ、材料の結晶構造、物性値、化学組成を学び、平衡状態図を理解して、材料の特徴を把握する。次に材料の生産方法と諸特性の評価方法について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
（工学部 機械システム工学科）				
科目区分	学科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主専攻科目（学科開講科目）	機械システムの基礎	機械加工基礎	材料を加工して部品を作製し、それらを組み合わせることによって機械システムは構築される。この加工技術を学問として体系化した機械加工学について、具体的な材料や工作機械を例に学ぶ。「機械材料基礎」など他の科目との連携や繋がりを考慮しながら、機械系技術者の加工学の基礎を身に付ける。機械製作の除去加工、切削加工、砥粒加工や特殊材料の加工を学習する。	
		計測センサ工学	センサは現代社会のあらゆる分野で活用され、近年では膨大な数のセンサがインターネットに繋がられ、あらゆる場所で多種多様のビッグデータが蓄積・活用されている。ロボットを含むメカトロニクス機器においても、位置・速度・加速度や電圧・抵抗などの機械的・電気的物理量の計測センサ技術は基盤技術となっている。この科目では、各種センサの原理から応用までを学ぶと共に、計測の意義、計測の基準、単位、計測における方法論、計測誤差、計測値の統計処理などについて学ぶ。	
		機械システム工学実験演習	本科目は、機械工学関連科目の実地演習であり、演習を通じて機械工学の基礎に対して理解を深めることを狙いとしている。①実験方法、②使用する機器の性能、構造とその取り扱い方、③結果の解析や考察の仕方、④レポートのまとめ方などを確実に習得することを目標とし、機械工学における基礎的なテーマについて、基礎理論（現象の基本的な法則）と基礎作業の習得を目指す。	
		シミュレーション工学	従来から最近のシミュレーション技法まで広く網羅した内容を取り扱う。非線形方程式の解法、補間法、数値積分法、有限差分法、有限要素法、ニューラルネットワーク等を、基礎と応用を含めて取り扱う。研究等で用いるソフトウェアの内容を理解することに加え、自分で数式を代数式に置き換えてプログラムを作成するためには、数式を理解する能力とプログラミングの能力の両方、さらに各問題に対して適切な選択する能力も求められるため、それを踏まえた実用を見据えた講義を行う。	
		トライボロジー	トライボロジーとは「相対運動を行う接触面とそれに関連した応用に関する科学と技術の総称」と定義づけられている。あらゆる機械は複数の部品から構成されており、その中には互いに相対運動しながら接触部分が必要存在する。そこでは必然的に摩擦・摩耗が生じ、表面が損傷して機械を破壊に至らしめる原因となるため、潤滑によってこれを極力防止しようとするとき、手がかりを与えてくれる学問がトライボロジーである。本科目では、摩擦・摩耗・潤滑のメカニズムとその理論体系について詳しく述べ、かつトライボロジーと深い係わりのある先端技術について紹介する。これによりトライボロジーの基礎と応用能力を身につけることを目標としている。	
	機械システム基幹科目	材料力学基礎	材料力学は、材料が外力を受けるときの強さや変形に対する抵抗と安定性について学ぶ広い意味での応用力学の一部であり、機械工学における基礎学問である。機械、自動車、航空機、建築物、その他の構造物は、いろいろな形状をした部材により構成されており、これらの構造物が安全にその機能を果たすためには、各部材が強く、変形せず安定性を保つ必要がある。そのためには、十分な強さを保ち、経済的な設計を行う必要がある。材料力学の基礎である応力（強さ）とひずみ（変形）およびフックの法則の基礎概念、工業用材料の機械的性質、棒のねじりについて学ぶ。	
		材料力学	材料力学は材料が外力を受けるときの強さや変形に対する抵抗と安定性について学ぶ広い意味での応用力学の一部であり、機械工学における基礎学問である。「材料力学」では、「材料力学基礎」で学んだ応力とひずみおよびフックの法則について復習し、はり（静定はり－せん断応力図と曲げモーメント図・曲げ応力・変形）について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
（工学部 機械システム工学科）				
科目区分	学科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主専攻科目（学科開講科目）	機械システム基幹科目	機械力学基礎	ロボットや自動車などのモビリティは多数の部品が関連しながら動作することで複雑な動きを可能にしている。機械力学を用いた動きのモデル化はロボティクスやモビリティのダイナミクスを学ぶ上で非常に重要な要素である。本科目は機械システムのダイナミクスについて学ぶ基幹科目として、静力学からダランベールの原理を用いて動力学に内容を拡張する。授業では運動の法則、質点および質点系の運動、剛体の回転運動などの部分からなる動力学の基本的な運動について学ぶ。	
		機械力学	ロボットや自動車などのモビリティに仕事をさせるためには、モータやエンジンなどの動力が不可欠です。この授業は「機械力学基礎」に続いて機械システムのダイナミクスについて学ぶ基幹科目として、力と仕事、エネルギーの関係に着目して講義を展開する。仕事とエネルギー、摩擦、力学的エネルギー保存則、力積、運動量保存則、1自由度系の振動などについて学ぶ。また、これらの原理を用いた機械要素について具体的に説明しながら、ロボットやモビリティの設計に必要な知識の習得を目指す。	
		熱力学基礎	ガソリンおよびディーゼル機関、ガスタービン、蒸気タービン等の熱機関は熱を仕事に変換する機械であり、それらの機能を理解するためには流体力学、機械力学、材料力学とともに、熱力学の基礎知識が必須である。本講義では、まず熱力学の第1法則を説明することにより、熱と仕事が相互に変換し得ることを理解する。次に第2法則を学ぶことにより、熱と仕事との相互変換の条件、エネルギーの質、効率の概念を把握する。さらに、理想気体と蒸気等実在気体の性質について学ぶ。これらの熱力学の知識を基にして、代表的な熱機関サイクルである、カルノーサイクル、理想気体を作動流体とするオットーサイクル、ディーゼルサイクル等のガスサイクル、蒸気を作動流体とした蒸気サイクルについて学び、理想的な性能と熱力学的な考え方について理解するとともに、幅広い基礎知識を修得することを目標とする。	
		流れ学基礎	空気や、水、油、血液など、気体・液体をまとめて流体と呼ぶ。これらが物体の周りや内部を流れる場合には様々な現象と力が生じるが、これを調査する、もしくは有効に利用するための技術を学ぶ学問が流体力学である。特に、自動車、航空機、船舶などの輸送機械は流体との関連が密接であるため、その運転、設計、研究、開発などには流体力学の知識が必要となる。本授業では、流体を粘性や圧縮性のない理想流体と仮定して、理論的に流れを解析する手法を学ぶ。次に、空気、水、油などの粘性がある実在流体に対して、平面や円管内を流れる場合の速度分布や摩擦損失、自動車、飛行機、船などの模型実験に適用される相似則、揚力や抗力の求め方、またそれらの流れの物理量である圧力、速度、流量の測定法についても学び、輸送機械の運転、設計、研究、開発などに必要な基礎的能力を養うことを目標とする。	
	社会のニーズとコミュニケーション	情報処理	この授業では、教養系の科目や各科目群の授業で学び関心を持った社会のニーズや問題点を、コンピュータというツールを用いてより身近な問題として他者と関わりながら解決の方策を探ることを目的としている。最初にコンピュータの成り立ちから論理回路、二進法、従来から最近のアーキテクチャ等のハードウェアの内容から、プログラミング言語、画像処理、数値計算、機械学習等のソフトウェア的な内容まで、幅広く講義を行う。またコンピュータとネットワークの基礎的な概念を解説し、実際にコンピュータを利用しながら情報処理の基礎、コミュニケーションツールとしての利用方法と倫理観を学ぶ。具体的には、パーソナルコンピュータの基本操作、文書処理、データ処理、数式処理、表計算、プレゼンテーション作成等、基本的なソフトウェアの利用方法と倫理を習得して今後の授業や研究・社会活動での活用方法を学ぶ。	
		プログラミング	この科目は、コンピュータを活用して問題を解決していくための方法について、プログラミングの視点から取り組んでいく。具体的には、C言語によるプログラミングを学んで研究や社会活動における問題解決にコンピュータを適用するための基礎力を身につける。C言語は汎用プログラミング言語でスーパーコンピュータから組み込み機器まで幅広い分野で使われている。また現在主流のプログラミング言語であるC++、C#、Java等にも大きな影響を与えており文法が似ているので学習の継続性が良く初期に学ぶ言語として適している。授業では開発環境の使い方・文法・アルゴリズム等の知識の理解をプログラミング作成実習を通して深めながら進める。	
		テクニカルイングリッシュ1	現代社会は、自分が生活するローカルな社会と、世界的なグローバルな視点が混在し複雑化している。この授業では、科学や技術の研究開発で必須となる、プレゼンテーション（発表）を英語で行うためのコミュニケーション能力を身に付けていく。特に今日、高度な技術レベルをもつ日本の技術者にとって、国際社会での研究成果の発表の機会は多く、国際標準言語である英語での口頭発表の能力を身に付けることが必要となっている。本講義では将来の機械技術者を対象とした英語の基礎知識、技術英語、さらに英語による発表の仕方について講義を行い、日々の研究成果を発信していく力、そして文化や生活などを含めた自分自身を伝える力を養う。そして、実際に英語での口頭発表の機会を設けることにより、実践的に力をつける。	

授 業 科 目 の 概 要				
（工学部 機械システム工学科）				
科目区分	学科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主専攻科目（学科開講科目）	社会のニーズとコミュニケーション	テクニカルイングリッシュ2	科学や技術の研究開発は、その成果を論文にし社会に反映していくことで完了する。特に今日、高度な技術レベルをもつ日本の技術者にとって、国際社会での研究成果の発表の機会も多く、国際標準言語である英語での論文を作成する能力を身に付けることが必須となっている。本講義では機械技術者を対象とした英語による技術英語の書き方について学び、①国際的視野をもってコミュニケーション力を養うこと、②専門的な研究成果を英語を用いて伝え国際的に役立てるために必要な知識とスキルを身に付けていくこと。を目的に、多くの演習を通じて、より実践的に英語ライティング能力を向上させていく。	
		キャリアデザイン1	本講義は、現在の社会情勢やニーズ等と、自分の行ってきた研究成果、これから行う研究成果のマッチングをはかり、卒業後のキャリア（大学院も含む）について自らが考えていく科目である。今まで学んできた社会のニーズや様々とこれまでに学んだ機械システム工学の知識を、グループワークなどを通じて振り返りながら、自らが考えるキャリアを実現するために卒業までに身に着けるべきことは何か、自ら考察していく。	
		キャリアデザイン2	本講義は、「キャリアデザイン1」に引き続き、卒業後のキャリアを実現するために、実際に自分が何をすべきか考察していく科目である。具体的には、現代社会における社会情勢や社会から求められている人材や力を理解し、自分に必要な力はどのようなものかをグループワークを通じて自らの考えを他者に伝え、他者の考えを聞きながら、意見交換等を行い、自分自身の考え方と、将来のキャリアについて見つめなおし、自身の進むべき方向性を再設計していく。	
	メカトロニクス	メカトロニクス基礎	メカトロニクスは、機械技術・電子技術および情報技術の融合した技術である。メカトロニクスは、コンピュータ技術の進展とともに普及し、近年では自動化や知能化などの高度な機能を持つための基本技術となり、多くの機器に利用されている。この科目では、メカトロニクスの基礎事項の修得を目標とする。具体的には、メカトロニクス機器の基本構成、センサやアクチュエータなどの構成要素、コンピュータ・制御の役割などについて学ぶ。	
		メカトロニクス	メカトロニクスは、機械技術・電子技術および情報技術の融合した技術である。メカトロニクスは、コンピュータ技術の進展とともに普及し、近年では自動化や知能化などの高度な機能を持つための基本技術となり、多くの機器に利用されている。この科目では、メカトロニクスに関する基礎力強化と応用力の養成を目標とする。具体的には、メカトロニクスの役割と特長、モビリティやロボットを含む各種機器におけるメカトロニクスの応用例などについて学ぶ。	
	システム制御	システム制御のための数学	制御工学は、機械などを意のままに操るための方法論であり、特定の対象に限定されない横断的な学問である。近年では、あらゆる産業分野で制御技術は不可欠な基盤技術となっている。この科目では、システム工学や制御工学を中心に工学全般を学ぶ際に必要となる、数学に関する基礎事項の修得を目標としている。具体的には、線形代数、複素関数論、微分方程式の3分野を中心として、各分野における基礎、およびシステム制御と密接に関わる基礎事項について学ぶ。	
		システム制御基礎	制御工学は、機械などを意のままに操るための方法論であり、特定の対象に限定されない横断的な学問である。近年では、あらゆる産業分野で制御技術は不可欠な基盤技術となっている。制御工学の発展は、周波数領域を基本とする古典制御、状態空間を基本とする現代制御、そしてポスト現代制御の3つの段階に分けられる。この科目では、古典制御を中心として、伝達関数、ブロック線図、周波数応答、安定性の概念と判別方法、周波数領域におけるフィードバック制御系の解析・設計法などについて学ぶ。	
		システム制御	制御工学は、機械などを意のままに操るための方法論であり、特定の対象に限定されない横断的な学問である。近年では、あらゆる産業分野で制御技術は不可欠な基盤技術となっている。制御工学の発展は、周波数領域を基本とする古典制御、状態空間を基本とする現代制御、そしてポスト現代制御の3つの段階に分けられる。この科目では、現代制御を中心として、状態方程式、オブザーバ、任意極配置、状態空間におけるフィードバック制御系の解析・設計法、最適制御などについて学ぶ。	
	設計・製図・製作実習	プロジェクト製作	本授業は、入学してきた学生に対して、機械に実際に触れ、機械の仕組みを考えそして作るといった機械工学への導入的な科目である。学生一人一人が自分のアイデアを形にして物を作り上げる演習を行い、問題解決型学習（PBL：Problem Based Learning）を通して、 ① 問題に出会う。（テーマを決める） ② どうしたら解決できるのか実践的・論理的手法によって考える。（解決策を考える） ③ 相互に話し合い、何を調べるのか明確にする。 ④ 自主的に学習する。 ⑤ 新たに獲得した知識を問題に適用する。 ⑥ 学習したことを要約する。 等の能力の修得を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要				
（工学部 機械システム工学科）				
科目区分	学科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主専攻科目（学科開講科目）	設計・製図・製作実習	基礎製図	機械装置および構成部品の形状・寸法、かつ設計思想を紙面上に正しく表現し、他者に伝達すること、あるいは紙面から機械装置や部品の形状・寸法などを正しく読みとり、構成・機能をあますことなく理解・把握することは機械関係の仕事に携わる技術者にとって、欠かすことのできない素養である。立場を変えて共通な理解を得るには一定の標準・規則が必要となり、すべての紙面に描かれた図面はこの標準・規則に則って描かれる。本授業では、第三角法による機械要素部品の製図実習を通して製図規則を理解し、身につけるとともに立体の正しい投影法の習得を目標とする。現在コンピュータを用いた設計・製図(CAD)が普及しているが、本授業では自ら手を動かし、製図機械を用いて課題を進める。描いた図面はその場で担当教員に検図され、直ちに誤りを正す方法の学習を通して機械製図に対する知識と鋭敏な感覚が養う。	
		設計製図	機械設計とは、仕様（機械に要求される性能）を満たすように機械のシステムや構造を検討し、理論計算や経験等によって機械の各部の形状、使用材料や寸法等を決定して、これを具体的に製図し、この設計図によって機械を加工・製作するために必要なことを指示するといった一連の作業を指す。一般に、機械・機器には伝動軸、ねじ類、歯車などの機械要素部品が使用されており、設計者は機械を構成するこれらの機械要素についての知識とともに、これらの機能および設計法を理解する必要がある。 本授業では、機械製図規格に基づいて投影法、寸法記入法、断面表示法、寸法公差およびはめあい等の製図を行うことによって、機械製図を行える能力をつけることを目的とする。	
		設計学	機械設計の目的は、人間にとって有用な、しかし自然界には存在しないものを創案することであり、これはエンジニアの仕事の中でも極めて創造性の高い作業であると言える。しかし、むやみに部品を集めたとしても互いに組み立たず、機械として機能することもない。そこで設計という作業を通じて、どんな機械を作るのか構想を立て、基本的な性能を決定し、必要な機構・構造を練り上げていく作業が不可欠である。本授業では、機械を設計する上で必要不可欠な基礎知識を中心に講義を行い、設計に欠かせない公差や精度に関する考え方、応力とひずみの関係、部材に作用する力と曲げモーメントやねじりモーメント、そして設計に関連の深い形状、機構、寸法、材料、加工、機械要素の一部（ねじ、軸）を学ぶ。	
		機械デザイン	機械設計とは、仕様（機械に要求される性能）を満たすように機械のシステムや構造を検討し、理論計算や経験等によって機械の各部の形状、使用材料や寸法等を決定して、これを具体的に製図し、この設計図によって機械を加工・製作するために必要なことを指示するといった一連の作業を指す。一般に、機械・機器には伝動軸、ねじ類、歯車などの機械要素部品が使用されており、設計者は機械を構成するこれらの機械要素についての知識とともに、これらの機能および設計法を理解する必要がある。 本授業では、減速機などの具体的な機械について取り上げ各機械の構成要素について材料の許容応力、安全率、強度計算法、標準寸法および経験的設計法などの設計に必要なことを学び、機械要素部品の設計製図演習を行い、機械設計の基礎能力を養成する。	
	ロボティクス	ロボット運動学	今日、ロボットは生産工場だけでなく、医療・福祉などをはじめ様々な分野で活躍することが期待されている。本授業では、ロボットの仕組みを理解し、その運動解析に必要な基礎知識を習得することを目標とする。まず、ロボットとは何か（ロボットの定義）、ロボットの構成について講義する。さらに、ロボットの腕や脚の運動解析に必要なロボットの運動学、関節速度と手先速度の関係、ロボットの特異姿勢、関節トルクと手先力の関係について学ぶ。	
		ロボット動力学	ロボットを効率的に動作させるためには、ロボットの動力学（運動方程式）を考慮する必要がある。本授業では、ラグランジュ法およびニュートンオイラー法を紹介し、それらを用いてロボットの運動方程式を導出する方法を講義する。続いて、ロボットを効率的に操作するためのロボットの操作性、ロボットの動力学的特性を考慮したロボットの操作性を評価するための指標について解説し、それに基づいてロボットの機構を設計する手法について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
（工学部 機械システム工学科）				
科目区分	学科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主専攻科目（学科開講科目）	ロボティクス	ロボット制御	ロボットは種々のセンサ情報に基づいて制御される必要がある。本科目は、様々なセンサにより計測された情報に基づきロボットを制御するための基礎知識を習得することを目標とする。まず、ロボットによく使用される基本的なセンサについて学ぶ。次に、センサ情報をコンピュータに取り込むためのインターフェースについて説明する。続いて、ロボット制御の基本である位置制御（PD制御やPID制御）や計算トルク法などについて解説する。	
		ロボットデザイン	本授業では、機械システムの各種構造を学ぶと共に、設計及び製図を通じて機械システムの一連の設計プロセスを数名からなるチームで演習を行う。機械の構造を検討し、実際に機械が各種の部品・機構から構成されていることを学ぶとともに、機械の構造・機構、機械設計に重要な幾つかの機構の知識を身につけ、更に機械システムに適用する力を身につけることを目的とする。最終的に、チームで考案した機械システムの設計・製図を完成させる。	
		ロボットの設計と創造	本授業では、ロボットデザインで学んだ知識を基に、“製作する”という観点から価格や納期等も考慮しロボットをデザインする。また、機械製図だけでなく、モータ等の選定やモータを制御するための電子部品の選定なども行う。最後にチームで自分たちのロボットの製作・組立を行い、実際に動作させる。本授業ではチームで実際にロボットを製作することにより、価格・納期・チームワークといった他の授業では考慮することが難しい項目の重要性も体験する。	
	モビリティ	モビリティダイナミクス	自動車や鉄道などに代表されるモビリティは、より遠くへ、より速く移動する手段を私たちに提供し、生活を豊かにする機械システムである。本授業では、モビリティの構成要素とモビリティの基本的な機能である走る・曲がる・止まるについて力学的に考察する。これまで学んできた「機械システムの基礎」「機械システム基幹科目」の分野が、どのように利用されているか横断的かつ帰納的に理解することを目指す。	
		パワーユニットシステム制御	本授業ではこれまでの学びを基礎に、モビリティの動力源となるパワーユニットに焦点を当てて講義を展開する。ガソリンエンジンやディーゼルエンジン、ガスタービンに代表される熱機関、回転モータやリニアモータなどの電動機、バッテリーや燃料電池に関する基礎を学び、パワーユニットを創造するエンジニアに必要な知識の習得を目指す。この際、環境問題やエネルギー消費など社会との調和についても論じる。	
		モビリティシステム制御	モビリティは機械的要素、電気的要素、情報技術の学問領域が高い次元で融合することにより長足の進歩を遂げてきた。本授業では、これまでの学びを基礎に、構造強度と剛性（材料力学）、空力特性（流体力学）、運動特性（機械力学・機構学）、車両挙動のアクティブ制御（システム制御）などを取り上げる。また最新の実例に基づき、情報技術と融合したモビリティについて触れ、未来のモビリティを創造するエンジニアに必要な知識の習得を目指す。	
		モビリティデザイン	レーシングカーは走る・曲がる・止まるの機能を極限まで追求したモビリティである。中でもパワーユニットは燃費もしくは効率を考慮しながら高速走行するために、多様な最先端技術が新たに開発されている。「モビリティデザイン」では「パワーユニットシステム制御」で学ぶパワーユニットに関して、レーシングカーに使われている技術の実例とメカニズムを学び、将来型パワーユニットの理想像と技術開発の課題点について考察する。さらに、実際のレースを例にとり、パワーユニットの設計について学ぶ。	
		モビリティの設計と創造	極限状態にて走行するレーシングカーは優れた性能を具現化するために、一般のモビリティに比べ、高い技術が求められる。本授業では「モビリティシステム制御」で学ぶモビリティの諸特性に関して、実際のデータを用いて理解しメカニズムを力学的に考察した上で、マシンの設計手法を身に付ける。また、現行車の部品を開示し、ハードに触れる機会を多く設け、レーシングカーを通して工学的な見地から将来のモビリティの在り方を考える。	

授 業 科 目 の 概 要				
（工学部 機械システム工学科）				
科目区分	学科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 専 攻 科 目 （学 科 開 講 科 目）	ゼ ミ ナ ー ル	機械システム入門ゼミナール1	本授業は、機械システム工学の専門科目着手に向けて、(i)安全教育、(ii)技術者倫理教育、(iii)国際的視野や価値観に関するコンセンサスを育成する教育、(iv)人と人、人と情報などを結びつけるコーディネート力を育成する教育、(v)将来の機械システム工学士としてのキャリアを設計する能力を育成する教育を実施するために企画されたものである。 前半では卒業研究が行われている研究室の研究内容や現在世界で生じている問題点などのトピックを講義し、後半では、例えば原爆による被害の大きさなどを例に挙げ、科学者や技術者の倫理の重要性について少人数のグループワークなどを行い、人と人、人と情報などを結びつけるコーディネート力の基礎力の育成を図る。	
		機械システム入門ゼミナール2	本授業は、機械システム工学の専門科目着手に向けて、(i)安全教育、(ii)技術者倫理教育、(iii)国際的視野や価値観に関するコンセンサスを育成する教育、(iv)人と人、人と情報などを結びつけるコーディネート力を育成する教育、(v)将来の機械システム工学士としてのキャリアを設計する能力を育成する教育を実施するために企画されたものである。 前半では「機械システム入門ゼミナール1」で自ら得た問題意識や興味に基づいて、実際に卒業研究が行われている研究室などに実際に赴き、ゼミナール体験を通じて、安全教育を受け工学倫理の育成を図っていく。加えて、最先端の研究内容から国際的視野や価値観を学び、将来実施する卒業研究の内容についての関心を深める。後半では、例えば地球規模の環境破壊等を例に挙げ、科学者や技術者の倫理の重要性について学ぶ。全体を通して少人数のグループで学生同士がディスカッションできる形式を取り入れ、人と人、人と情報などを結びつけるコーディネート力の育成を図り、自らの将来設計に基づく学修計画を明確にしていく基礎力を養っていく。	
		機械システムゼミナール1	本授業では、(i)機械システム工学科の学生が2年次前期において身に付けておくべき専門基礎の理解を演習問題を解くことにより深める、(ii)「倫理観」、「国際的視野」、「価値観に関するコンセンサス」や「人と人、人と情報などを結びつけるコーディネート力」を育成するために企画された授業である。 全体を通して少人数のグループで学生同士がディスカッションできる形式を取り入れ、人と人、人と情報などを結びつけるコーディネート力の育成を図っていく。内容としては1年次に学習した内容を基に、他者との意見交換、課題解決に向けた協働力を実践を通じて養っていく。	
		機械システムゼミナール2	本授業では、(i)機械システム工学科の学生が2年次後期において身に付けておくべき専門基礎の理解を演習問題を解くことにより深める、(ii)「倫理観」、「国際的視野」、「価値観に関するコンセンサス」や「人と人、人と情報などを結びつけるコーディネート力」を育成するために企画された授業である。 少人数のグループで学生同士がディスカッションする演習を取り入れ、各学生が理解不足の点を自ら認識し、今後の学修を進めるうえでのポイントを中心に講義・解説を行う。加えて、常に最新の知識を収集することの重要性、国際的視野、価値観に関するコンセンサスを育むため、最新の研究事例紹介などを行い、自ら考えていく力を養っていく。	
		先端システムゼミナール1	本授業では、(i)機械システム工学科の学生が3年次前期において身に付けておくべき専門基礎の理解を演習問題を解くことにより深める、(ii)「倫理観」、「国際的視野」、「価値観に関するコンセンサス」や「人と人、人と情報などを結びつけるコーディネート力」を育成するために企画された授業である。具体的には、少人数のグループで学生同士がディスカッションできる形式を取り入れ、人と人、人と情報などを結びつけるコーディネート力の育成を図る。グループワークにおいては、卒業研究を行うために必要な知識や方法など、お互いの意見交換により各学生が理解不足の点を認識し、理解不足を解消するための卒業までの計画を検討していく。また多くの学生が理解不足と認められる内容や解法のポイントなどを中心に講義・解説を行う。	

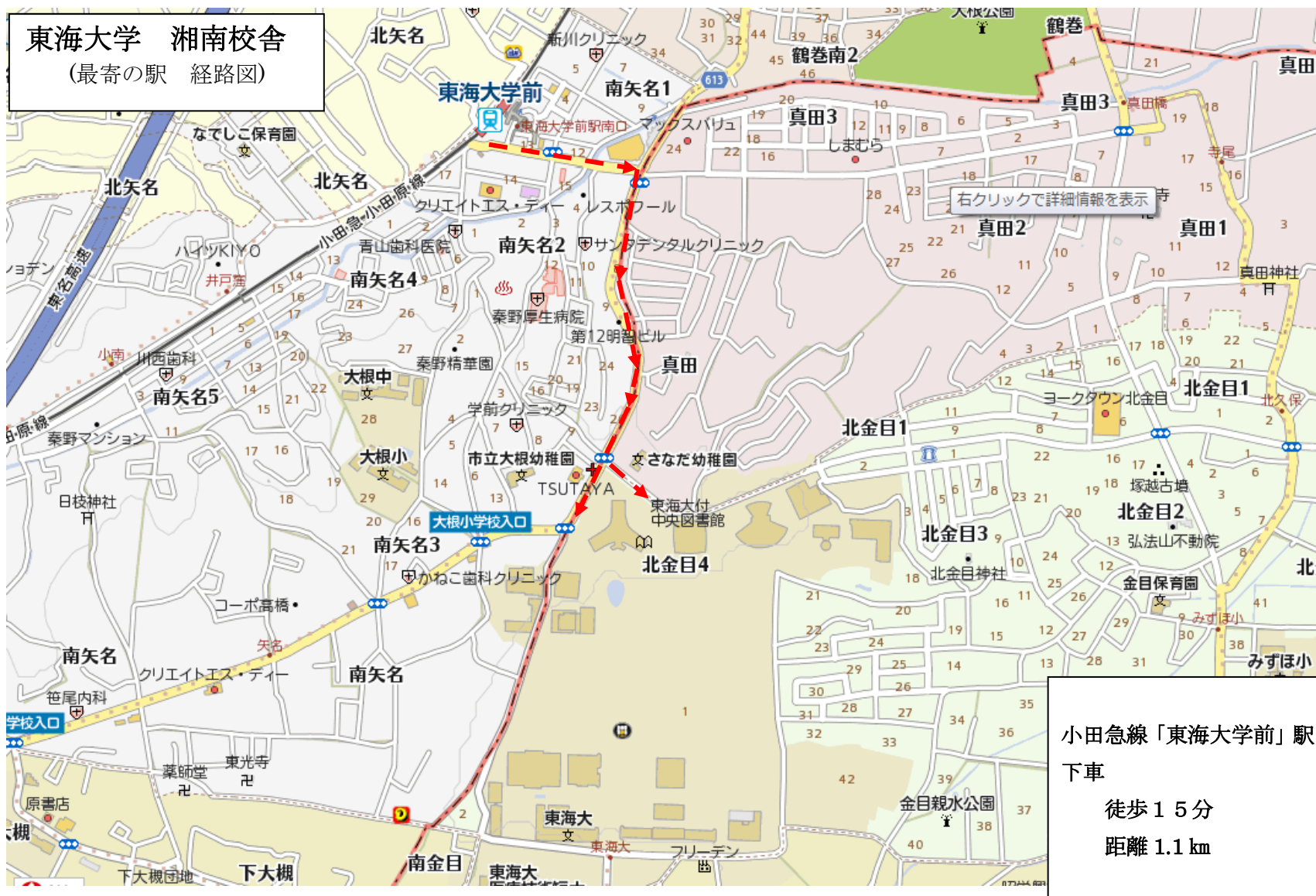
授 業 科 目 の 概 要				
（工学部 機械システム工学科）				
科目区分	学科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 専 攻 科 目 （学 科 開 講 科 目）	ゼ ミ ナ ー ル	先端システムゼミナール2	本授業では、(i)機械システム工学科の学生が3年次後期において身に付けておくべき専門基礎の理解を演習問題を解くことにより深める、(ii)「倫理観」、「国際的視野」、「価値観に関するコンセンサス」や「人と人、人と情報などを結びつけるコーディネート力」を育成するために企画された授業である。 演習の過程で各学生が理解不足の点を認識し、担当教員に質問して理解不足を解消する。また多くの学生が理解不足と認められる内容や解法のポイントなどを中心に講義・解説を行う。 自ら考える力を育成するため、例えば比較的大規模な事故等を例に挙げるとともにNSPEの倫理規定などについて学ぶ。加えて、国際的視野、価値観に関するコンセンサスを育むため、最新の研究事例紹介などを行う。 また、全体を通して少人数のグループで学生同士がディスカッションできる形式を取り入れ、人と人、人と情報などを結びつけるコーディネート力の育成を図る。	
		問題発見ゼミナール	本科目は、4年次に必修科目としている卒業研究につなげるため、機械工学上の問題を解決する上で必要な知識を体系的に学ぶことを目標とする。具体的には少人数に分かれ、各担当教員の指導のもとに機械システムが絡む課題を選び、そこに潜む問題点を解決する過程を考え、どのようなことをどのように実施するかを自ら検討、計画し、実際に実施して得られた結果をまとめてお互いに発表、論議していく。これらの過程を通じて、真の問題点を発見し明らかにして行く能力を養うことを狙いとする。	
		機械システム応用ゼミナール1	本授業は、(i)卒業まで残り1年の機械システム工学科の学生が、これまでに学んだ機械システム工学の知識を将来どのように活用するかについて考察する、(ii)「倫理観」、「国際的視野」、「価値観に関するコンセンサス」や「人と人、人と情報などを結びつけるコーディネート力」を育成するために企画された授業である。 前半では、自らが取り組んでいる卒業研究の内容を、実際にこれから機械システム工学を学ぼうとする1年生に説明し、研究背景に含まれる国際的視野や価値観の理解を深めるとともに、より分かり易く説明するためにはどのようにすればよいかについて考察する。後半では、データ改ざん事件などを取り上げ、技術者倫理の重要性について学ぶ。さらに、卒業後のキャリアおよび卒業までに身に着けるべきことは何かについて自ら考察し、自らの将来のキャリア設計とより高レベルでの卒業論文の作成につなげていくことを目的とする。	
		機械システム応用ゼミナール2	本講義は、(i)卒業間近の機械システム工学科の学生が、これまでに学んだ機械システム工学の知識を将来どのように活用するかについて考察する、(ii)「倫理観」、「国際的視野」、「価値観に関するコンセンサス」や「人と人、人と情報などを結びつけるコーディネート力」を育成するために企画された授業である。同時並行で進む「卒業研究2」とリンクしながら、自分自身の将来設計、例えば企業や大学院など具体的な道筋に合わせて、より高いレベルでの研究を行えるように、不足している力を身に付けていく科目である。具体的には研究指導の教員と相談しながら、学外での活動、グループワーク等を通じてより高い知識、倫理観を身に付けて自ら成し遂げていく力を育成していくことを目的とする。	
		卒業研究1	卒業研究は、4年次の1年間をかけて担当教員の指導のもと個別あるいはグループで研究を遂行する形で行われ、その中で専門知識のより深い修得と研究背景の理解、ならびに、問題発見解決能力・コミュニケーション能力・自主的継続的学習能力の育成を目的とする。 「卒業研究1」はその前半部分にあたり、研究テーマに関連した課題設定を行い、それを解決するための研究計画を立案し、計画をスタートさせる。さらに、その過程で生じる様々な問題を、定期的なゼミやディスカッションを通して解決していくプロセスに進む。	
		卒業研究2	本科目は、「卒業研究1」に引き続いて履修することによって卒業研究を完了させるための科目である。「卒業研究2」では、「卒業研究1」で設定・立案した解決すべき課題や問題点（研究目的）、それらを解決するための具体的な研究計画（方法、内容）に従って、研究を自主的・積極的に遂行する。遂行する過程で生じる様々な問題は、定期的に行われる卒研ゼミやディスカッションを通して解決し、場合によっては方針変更をするなどして、研究を進める。「卒業研究1・2」の成果をまとめ、卒業論文として完成させるとともに、卒業研究発表会において研究成果を発表する。	

(位置関係図)

東海大学 湘南校舎
神奈川県平塚市

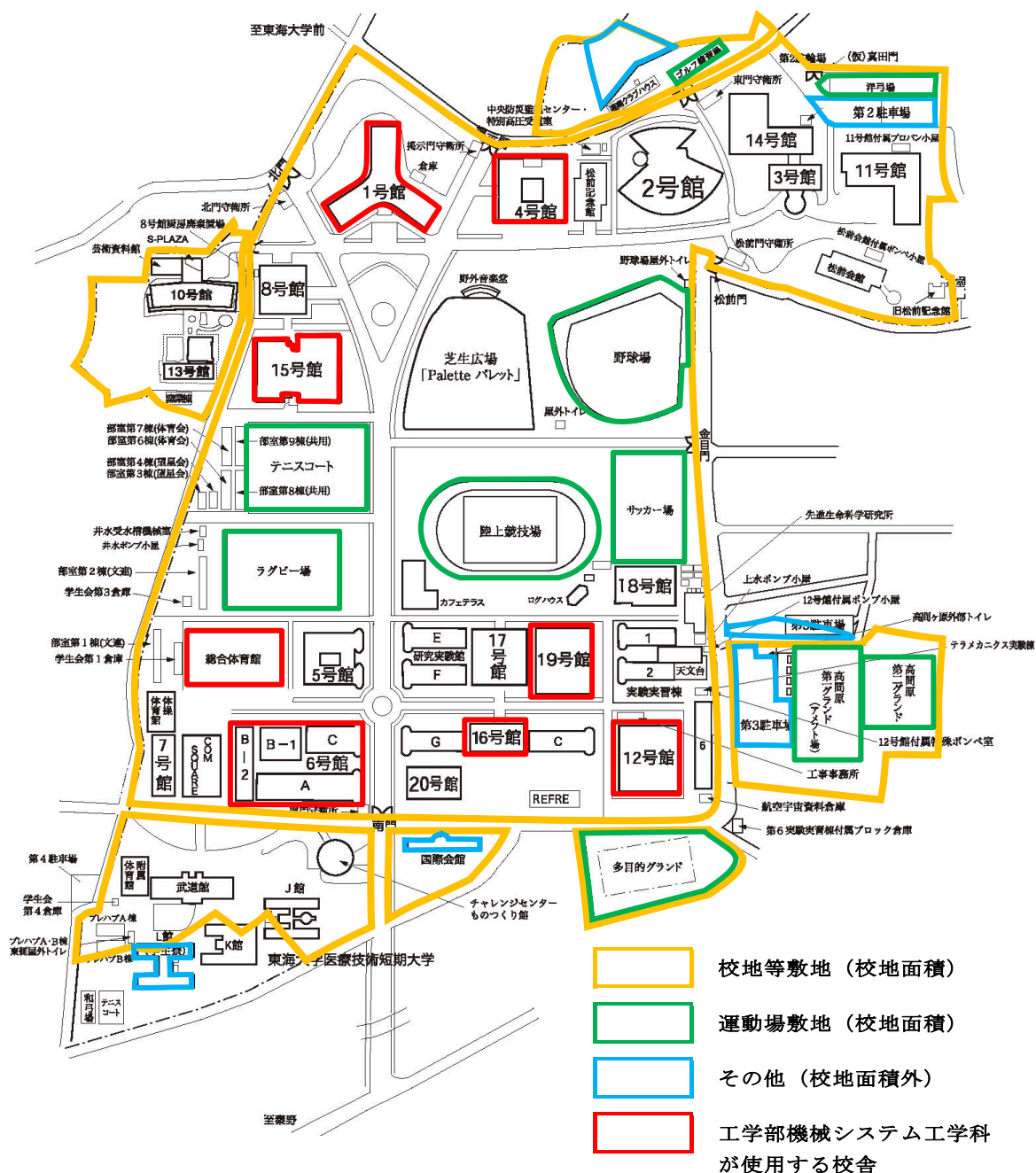


図面一1



図面-2

湘南校舎配置図



湘南校舎 校地・校舎面積

区分	専用	共用	共有する他の学校の専用	計	
校地等	校舎敷地	377,017.10 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	377,017.10 m ²
	運動場用地	155,168.27 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	155,168.27 m ²
	小計	532,185.37 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	532,185.37 m ²
	その他	14,699.03 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	14,699.03 m ²
	合計	546,844.40 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	546,844.40 m ²
校舎	専用	共用	共有する他の学校の専用	計	
	249,088.72 m ² (249,088.72 m ²)	0.00 m ² (0.00 m ²)	0.00 m ² (0.00 m ²)	249,088.72 m ² (249,088.72 m ²)	

設置の趣旨等を記載した書類
工学部機械システム工学科

【本文目次】

- 1 設置の趣旨及び必要性…p. 2
- 2 学部・学科等の特色…p. 4
- 3 学部・学科等の名称及び学位の名称…p. 4
- 4 教育課程の編成の考え方及び特色…p. 5
- 5 教育方法，履修指導方法及び卒業要件…p. 9
- 6 入学者選抜の概要…p. 13
- 7 教員組織の編成の考え方及び特色…p. 14
- 8 施設・設備等の整備計画…p. 17
- 9 管理運営…p. 18
- 10 自己点検・評価…p. 18
- 11 情報の公表…p. 19
- 12 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等…p. 23
- 13 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制…p. 23

1. 設置の趣旨及び必要性

1. 東海大学の 2022 年度改組改編

東海大学では、建学 80 周年にあたる 2022 年 4 月に全学的な改組改編を行う。その目的は、来るべき社会の変化に対応し、地球市民として未来を創造していく人材育成を推進すること、そして、建学以来継承してきた文理融合の理念と一貫教育を基軸とした教育・研究活動をより一層進化・推進し、学生が幅広い知識を養い、深い理解力をもって社会に貢献することである。改組改編の概要としては、学部学科の再編により、全国 5 キャンパス 8 校舎 23 学部 62 学科・専攻体制とする。学部学科の新設状況は次のとおりである。

①湘南キャンパス

湘南キャンパスにおいては、理工系から情報系、社会・人文科学、体育スポーツまで、文理融合型総合大学ならではの多様な学部構成を活かし、受験生の多様なニーズに応えられるよう、既設の学科・課程を統合してシナジー効果を引き出すための集約型学科構成を目指し、湘南校舎（神奈川県平塚市）に次の学部学科を新設する。

児童教育学部（児童教育学科）を新設する。

情報理工学部（情報メディア学科）を新設する。

建築都市学部（建築学科、土木工学科）を新設する。

工学部に機械システム工学科、医工学科、生物工学科を新設する。

なお、児童教育学部（児童教育学科）の新設は設置認可申請中であり、工学部医工学科の教育研究は、湘南校舎及び伊勢原校舎（神奈川県伊勢原市）で行う。

②東京キャンパス

東京キャンパスにおいては、都心からほど近くに位置する利便性の高い立地を活かし、来るべき国際社会で活躍できる人材を育成するため、高輪校舎（東京都港区）に次の学部学科を新設する。

経営学部（経営学科）を新設する。

国際学部（国際学科）を新設する。

情報通信学部（情報通信学科）を新設する。

なお、これらの学部学科の教育研究は、湘南校舎及び高輪校舎で行う。

③静岡キャンパス

静岡キャンパスにおいては、海洋国家日本を支える人材を養成してきた既設の海洋学部のさらなる充実と静岡地域における人材育成に関するニーズに応えるため、静岡校舎（静岡県静岡市）に次の学部学科を新設する。

海洋学部に海洋理工学科（海洋理工学専攻、航海学専攻）を新設する。

人文学部（人文学科）を新設する。

④九州キャンパス

九州キャンパスにおいては、熊本・阿蘇の地でこれまで育んできた教育資源を継承し、文

理分断からの脱却を目指す教育を推進するとともに、農学部さらなる充実を図るため、熊本校舎（熊本県熊本市）において、文理融合学部（経営学科、地域社会学科、人間情報工学科）を新設し、臨空校舎（熊本県上益城郡）において、農学部農学科、動物科学科、食生命科学科を新設する。なお、農学部の教育研究は、熊本校舎及び臨空校舎で行う。

2. 工学部機械システム工学科設置の社会的背景・必要性、教育研究上の目的・養成する人材

ビッグデータの活用、AIの進化をはじめとする技術の進歩は、私達の生活を変えけるとともに、産業界の構造をも変えていくことが予測されている。また、社会的にみると、超少子高齢社会、労働人口の減少等により現時点においても問題が生じ社会は大きく変化しようとしている。機械システム工学科の取り組みは、自動車、鉄道、航空機、ロケットなどのモビリティや産業用ロボット、アシストスーツ、人型ロボット、ドローンに代表される智能ロボットなど、われわれの生活を豊かにする様々な「機械システム」であり、機械的要素、電気的要素、情報技術が高い次元で融合することにより長足の進歩を遂げている分野でもある。そして、ここに社会の諸問題に対するアプローチのヒントがあり、刻々と変化する状況に対して、柔軟に対応できる人材が求められている。

機械システム工学科においては、これらの付加価値の高い機械システムの最新かつ高度な専門知識を習得するとともに、社会を構成する各分野の問題点や課題に対する「システム工学に立脚した多面的な考え方」と「倫理観」、「人と人、人と情報などを結びつけるコーディネート力」を身に付けて、「現代文明が抱える諸問題の解決を目指し、国際的視野から社会と産業の発展に貢献」する人材を養成する。

【ディプロマ・ポリシー】

工学部機械システム工学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士(工学)」を授与する。

『知識・理解』

機械システム工学の基礎知識を有し、それらの知識をロボットやモビリティといった具体的な機械システムに応用する基礎的能力を有する。

『汎用的技能』

現代文明が抱える問題を発見するための幅広い視点を有し、問題を解決するために必要な基礎的能力を有する。

『態度・志向性』

国際的視野から多様な分野の人々と協働するのに必要な語学力と、社会と文化、倫理、価値観に関する基本的なコンセンサス、今見える未来ではなく、つぎに見える未来を探究するためのコミュニケーション能力、発信力についての基礎能力を有する。

【具体的な人材像】

・機械システム工学を智能ロボットの開発等に活用できるエンジニア

- ・機械システム工学をモビリティ（電気自動車、鉄道など）の開発等に活用できるエンジニア

3. 研究対象とする中心的な学問分野

機械システム工学は、自動車、鉄道、航空機、ロケットなどのモビリティや産業用ロボット、アシストスーツ、人型ロボット、ドローンに代表される知能ロボットなど、われわれの生活を豊かにする様々な機械システムを生み出す学問分野である。

機械システム工学科においては、ロボットやモビリティなどの機械システム工学分野を中心とし、社会を構成する各分野の問題点や課題に対する「システム工学に立脚した多面的な考え方」と「倫理観」、「人と人、人と情報などを結びつけるコーディネート力」、「現代文明が抱える諸問題の解決を目指し、国際的視野から社会と産業の発展に貢献する力」を身につけていくための、研究活動と教育活動を行う。

2 学部・学科等の特色

工学部機械システム工学科は、「機械工学」、「メカトロニクス」「制御システム」に関する幅広い基礎知識を修得した上で、①医療、福祉、看護、農業などさまざまな分野で人をサポートする知能ロボット、②人々の生活を豊かにするモビリティ（自動車、鉄道など）などの分野への取り組みを行い、実際の機械システムの設計・開発に必要な基礎知識・応用力を育成する。

学びのステップとして、1年次において数学・物理の基礎知識を身につけ、英語や幅広い教養を養うとともに、実際にロボット製作を体験する。2年次においては、機械システム工学において重要な基幹科目を学び、実験科目等により専門知識の重要性を実体験する。3年次においては、ロボットやモビリティの専門知識を深く学ぶとともに、実際に設計し創造し、ゼミナール科目により倫理観を学ぶ。4年次においては、ロボットやモビリティの研究開発に関する卒業研究の中で研究成果の発表を行い、プレゼンテーションやディスカッション能力を養成する。教育の特色として、以上のとおり段階を経た学びとなっている。

なお、工学部機械システム工学科は、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像（平成17年1月）」で提言された「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえ、大学の7種の機能のうち、「幅広い職業人の養成」を担う。

3 学部・学科等の名称及び学位の名称

1. 学科の名称

「機械工学」、「メカトロニクス」、「制御システム」に関する幅広い基礎知識を身につけ、今後の情報化社会および超高齢社会において重要になる機械システムを基盤とする多方面の分野に、それらの知識を応用する能力を備えた人材を育成することを目的としているため、学科の名称を「機械システム工学科」としている。

2. 学位の名称

工学部において、学位は専門領域を広くカバーできる人材であることをアピールすることが肝要である。産業界に受入れやすく、国際的にもごく普通に受入れられる名称であることが重要である。こうした背景の下に工学部を構成する学科の学位の名称を「学士（工学）」としている。

【日本語名称】

学部名称：工学部

学科名称：機械システム工学科

学位名称：学士（工学）

【英訳名称】

工学部：Undergraduate School of Engineering

機械システム工学科：Department of Mechanical Systems Engineering

学士（工学）：Bachelor of Engineering

4 教育課程の編成の考え方及び特色

1. 教育課程の編成方針

【カリキュラム・ポリシー】

工学部機械システム工学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施する。

『教育課程・学修成果』

上記の目的を達成するために、機械システム工学全般に関わる多様な視点・基礎知識と専門領域の知識を修得する科目に加え、実践力を養うための実験科目、ゼミナール科目、卒業研究などを開講するとともに、技術者としての倫理感を持ち、自ら課題を解決する力を育成するカリキュラムを設置している。

1～3年次にかけて、機械システム工学の基幹科目を段階的に学習できるように配置し、1年次からプロジェクト製作、設計製図科目、実験科目、問題発見ゼミナール、卒業研究などを通して実践的教育を行う。学んだ機械システム工学の基礎知識を応用する力を育成するために、ロボットデザイン、ロボットの設計と創造、モビリティデザイン、モビリティの設計と創造を設置している。また、「多面的な考え方」、「技術者倫理」、「人と人、人と情報などを結びつけるコーディネート力」、「現代文明が抱える諸問題を解決する力」などを育成するため、入学から卒業までの各セメスターにゼミナール科目を配置している。

『学修成果の評価方法』

機械システム工学科のディプロマ・ポリシーに示されている『知識・理解』『汎用的技能』『態度・志向性』に関して、修得単位数・GPAによる分析評価等を用いた学生による自己

評価により、学修成果の評価を行っている。その集計結果は、FD活動等をとおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげている。

以上のカリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーの達成のため、後述する教育課程に基づき、資料のとおり図式化することができる。**【資料1】参照**

2. 教育課程の構成

1) 現代文明論・現代教養科目・英語科目（教養科目）

教養科目として、1年次から2年次にかけ、「Ⅰ現代文明論」、「Ⅱ現代教養科目」、「Ⅲ英語科目」の科目区分に必修科目を開講する。これらの科目の学びをとおして、現在の複雑化した社会の課題に対して、幅広い視点から、自らの考えを深め、行動していく姿勢を育てるとともに、後述する主専攻科目と影響しあいながら、ディプロマ・ポリシーの達成に向け、学修を進めていく。

教養科目の学びは以下のとおりである。

「Ⅰ現代文明論」

幅広い分野の問題点や課題の発見、そして解決への姿勢を育てていくことを目的とした「現代文明論」や「現代教養講義」の履修をとおして、自らの人生の過ごし方や、その姿勢について考える機会を設定している。

「Ⅱ現代教養科目」

“基礎教養科目”において、大学教育や学部教育への理解を深める「入門ゼミナールA」、「入門ゼミナールB」を開講し、“発展教養科目”において、国際・地域を基点として社会について学び、そこでの課題の把握とその解決について能動的に考える授業を展開する「シティズンシップ」、「地域・国際理解」、「現代教養講義」を開講する。

また、“健康スポーツ科目”において、生涯にわたり心・体・社会的に健やかに充実した生活を送るための基盤として、「健康・フィットネス理論実習」「生涯スポーツ理論実習」を開講する。

「Ⅲ英語科目」

“英語コミュニケーション科目”において、国際的に幅広く社会と関わる素地を身につけるため、「英語リスニング&スピーキング」、「英語リーディング&ライティング」を開講する。

2) 主専攻科目（専門科目）

「学部共通科目」科目群

工学部共通で開講している科目であり、基本的に工学部の学生が受講可能である。多岐にわたる工学の分野について、その基礎を幅広く学んで多様な視点と工学の基礎知識を習得することを目的としている。工学部を構成する各学科の「概論」科目も開講されており、各学科の概要を学修することが可能である。「機械システム工学概論」では、機械システム分野の概要を学修する。機械システム工学科の学生に対しては、機械システム分野の概要を理解し、

より深く、広く学修を進めるきっかけとなることを目的としている。「機械システム工学概論」を1年次前期に配置している。

「機械システムの基礎」科目群

機械システム工学の基礎となる科目群である。「機械のための数学」、「機械のための力学」では、機械システム工学を理解するために必須の数学・力学を扱い、これらを1年次前期で修得することにより、その後に続く機械システム工学関連科目をより効率よく修得できるよう、その他の科目を他の科目群との関連を考慮して配置している。

「機械システム工学実験演習」では、機械システム工学に関する基本的な実験を行い、座学で得た基礎知識を体得することを目的としている。その他の科目も機械システム工学を学ぶための基礎となる科目であり、効率よく学べるように開講セメスターを考慮して配置している。

「機械システム基幹科目」科目群

機械システム工学の基幹科目の科目群である。機械を学ぶために必須となる4力学とも呼ばれている「材料力学」、「機械力学」、「熱力学」、「流れ学」の基幹科目を学ぶ。また、これら4力学の内、機械システム工学を学ぶ上で基礎となる「材料力学基礎」、「材料力学」を1年次に開講する。また、その他の「機械力学基礎」、「機械力学」、「熱力学基礎」、「流れ学基礎」も他の科目群等の開講時期を考慮し、2年次に開講する。

「社会のニーズとコミュニケーション」科目群

社会のニーズとコミュニケーション能力の育成を考慮して設置した科目群である。機械システム工学を学んだエンジニアに社会から期待される情報処理・プログラミング能力を養うために、「情報処理」、「プログラミング」を設置している。また、国際的視野から多様な分野の人々と協働するのに必要な語学力の育成を目的として、「テクニカルイングリッシュ1・2」を配置している。さらに、キャリア教育を行うため、3年次に「キャリアデザイン1・2」を設置している。

「情報処理」、「プログラミング」は、機械システム工学において重要な科目であることから、1年次に開講する。英語科目の開講時期を考慮し、「テクニカルイングリッシュ1・2」を2年次に開講する。「キャリアデザイン1・2」は、学生のキャリアへの関心が増す3年次に開講する。

「メカトロニクス」科目群

機械工学と電子工学を融合させた学問である「メカトロニクス」は、機械システム工学科において重要な科目であり、機械システムを設計・開発するために必要な基礎を学ぶ。

他の科目群の開講時期を考慮し、「メカトロニクス基礎」を2年次後期に、「メカトロニクス」を3年次前期に開講する。

「システム制御」科目群

機械システムを制御するために必要な基礎知識を修得するための科目群である。システム

制御を効率よく学習できるように、システム制御を理解するために必須の数学からシステム制御までを配置している。

他の科目群の開講時期を考慮し、「システム制御のための数学」を2年次後期に、「システム制御基礎」を3年次前期に、「システム制御」を3年次後期に開講する。

「設計・製図・製作実習」科目群

この科目群は、機械システムを設計・開発するために必須の基礎知識を身につけることを目指す。プロジェクト製作は、入学直後の学生に対して、実際に機械に触れ、機械の仕組みを考えそして作るといった機械システム工学への導入的な科目である。この科目を通じて学生が機械システムを設計・開発する上で図面・設計計算等の重要性を体験することを目的としている。図面・設計計算等の重要性を学生が体験した上で、「基礎製図」、「設計製図」で図面の書き方等を学び、「機械デザイン」で一連の設計プロセスについて学ぶ。

入学直後の学生にもものづくりの面白さを経験させるため、「プロジェクト製作」を1年次前期に開講する。続いて、実際に設計するために必要な設計製図科目を1年次後期から2年次に開講する。

「ロボティクス」科目群

ロボットを設計・開発・制御するために必要な基礎知識を身につけるための科目群である。ロボットの運動解析・力学解析等に必要な基礎知識を「ロボット運動学」、「ロボット動力学」を通して学ぶ。また、「ロボット制御」によりロボットの制御に必要な基礎知識を学ぶ。さらに、「ロボットデザイン」でロボットを設計する体験を行い、「ロボットデザイン」で設計したロボットを実際に「ロボットの設計と創造」で製作する。

ロボット工学の基礎である「ロボット運動学」を2年次後期、「ロボット動力学」と「ロボットデザイン」を3年次前期、「ロボット制御」と「ロボットの設計と創造」を3年次後期に開講する。「ロボットデザイン」、「ロボットの設計と創造」をとおしてロボットの設計・製作を実際に体験する。

「モビリティ」科目群

モビリティを設計・開発・制御するために必要な基礎知識を身につけるための科目群である。まずは、「モビリティダイナミクス」、「パワーユニットシステム制御」、「モビリティシステム制御」を通して、モビリティを設計・開発・制御するために必須の基礎知識を学ぶ。そして、「モビリティデザイン」、「モビリティの設計と創造」を併せて学ぶことにより、モビリティを設計・開発する上で重要な知識を体得する。

モビリティの基礎である「モビリティダイナミクス」を2年次後期、「パワーユニットシステム制御」と「モビリティデザイン」を3年次前期、「モビリティシステム制御」と「モビリティの設計と創造」を3年次後期に開講する。「モビリティデザイン」「モビリティの設計と創造」を通して、モビリティを設計・開発する上で重要な知識を体得する。

「ゼミナール」科目群

ゼミナール科目群は、①機械システムを製作する上での安全教育、②技術者倫理教育、③

国際的視野や価値観に関するコモンセンスを育成する教育、④人と人、人と情報などを結びつけるコーディネート力を育成する教育、⑤将来の機械システム工学士としてのキャリアを設計する能力を育成する教育を実施するために企画されたものである。また、学生が機械システムの専門性を深め、正しい倫理観を身に付けていくことも目的としている。

さらに、大学生活の集大成として、3年次の「問題発見ゼミナール」、4年次の「卒業研究1・2」により、“現代文明が抱える諸問題を解決するために機械システム工学の知識を活用できる能力を育成する”ことを目的として、これらを必修科目として設定している。

上記①～⑤の教育を実施するため、また、学生が機械システムの専門性を深めていくために、1～4年次の各セメスターにてゼミナールを開講する。ゼミナール科目では、より効果的な教育が実施できるように学生の学修スタイルの相談を受けながら、学生一人ひとりに目を配った指導等を行う。さらに、大学生活の集大成として、卒業研究へつながる「問題発見ゼミナール」を3年次後期に開講し、「卒業研究1・2」を4年次に開講する。

5 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

1. 教養科目と主専攻科目（専門科目）の計画的な融合

本学は、教養科目と主専攻科目（専門科目）の融合の実現を目指し、1年次から2年次にかけて、次のとおり教養科目を配置している。

大学教育や学部教育への理解を深め、大学生活を送るうえで必要なアカデミックスキルの基礎的能力・知識を養う「入門ゼミナールA」、「入門ゼミナールB」、生涯にわたり心・体・社会的に健やかに充実した生活を送るための基盤となる“健康スポーツ科目”や国際的に幅広く社会と関わる素地を身につける“英語コミュニケーション科目”により、主専攻科目（専門科目）への円滑な学びへと導いていく。

また、多様な人々が民主政治の担い手である市民として、意見の違いを乗り越え、相互の人権を尊重しあえる社会を形成するにはどうすればよいかを考えることを目標とする「シティズンシップ」、多様な人々の視点に立ち、地域社会・国際社会の様々な課題を発見し、その解決について考える「地域・国際理解」の学びを通じて、学生が社会の構成員であることを自覚し、社会と関わろうとする自発的な意識を高め、公共に資する判断と行動の必要性を認識することにより、自らが社会の持続的な発展に向けて取り組んでいく必要性を認識し、深化させていく。

以上を礎に、2年次に学修する本学の基幹科目である「現代文明論」や「現代教養講義」により、正しい姿勢や倫理観をもって、自ら考え、問題解決を目指して、挑み、仲間と集い、成し遂げていく姿勢を身に付けていく。そして、「主専攻科目（専門科目）」の学びと融合しながら、現代社会に必要とされる専門知識や技術に加え、倫理観をもって、様々な課題に積極的に取り組んでいく姿勢を育成していくカリキュラム体系となっている。

2. 教養科目に基づく専門科目の展開

工学部機械システム工学科の学修の流れは、教養科目による知識の修得と社会的実践力の向上と連動し、1年次の「機械システム工学概論」にて機械システム分野の概要を理解し、

「プロジェクト製作」において、ものづくりの面白さを体験した上で、各セメスターに配置したゼミナール科目や専門科目群での学修を進めていく。

なお、履修者数等の設定については、低年次で行うゼミナール科目での調査や基礎系の科目の受講状況により、次学期・次年度の科目群ごとの受講人数を予め想定し、開講クラス数等の増加等によって、科目ごとに適切に管理を行う。その特徴は以下の通りである。

- ④第1～8セメスターまで設置したゼミナール科目（「機械システム入門ゼミナール1」等）により、①機械システムを製作する上での安全教育、②技術者倫理教育、③国際的視野や価値観に関するコモンセンスを育成する教育、④人と人、人と情報などを結びつけるコーディネート力を育成する教育、⑤将来の機械システム工学士としてのキャリアを設計する能力を育成する教育を実施する。また、学生が機械システムの専門性を深めていくための教育、および、より効果的な教育が実施できるように学生の学修スタイルの相談を受けながら進路指導等も行う。
- ⑤第1セメスターで学修する「機械システム工学概論」により機械システム工学分野を見渡す力を養い、より深く、広く学修を進めるきっかけとする。
- ⑥第1セメスターの「プロジェクト製作」、第3セメスターの「機械システム工学実験演習」、第6セメスターの「ロボットの設計と創造」、「モビリティの設計と創造」などの体験型授業により、ものづくりの面白さを学ぶとともに効果的に実践力を育成する。
- ⑦教養系科目で様々な知識と考える力を養いながら、各科目群の基礎系の科目から学修し、セメスターの進行に合わせて、学修スタイルを確定していき、学んだ基礎知識を応用する力を養っていく。

3. 履修順序と学修の進め方

本学においては、カリキュラムの体系化を目指し、全科目を3桁の数字でナンバリングしている。1桁目は履修推奨年次、2桁目は科目群やグループ、3桁目は履修時の条件の有無を表している。これらカリキュラム表に記載して学生に提示し、履修モデルと合わせて学生が学修計画を組み立てる際の一助となるように対応している。これらの仕組みを活用しながら、本学科においては以下のとおり学修を進めていく。

1) 学修の進め方

これまで述べてきた教育課程により、“専門性と幅広い視点を持った力と実践力を身につけた機械システム技術者”を効果的に育成するため、①科目群間の関連を考慮しつつ、②基礎的な学習を進める科目群は低年次に開講し、③より専門性の高い科目群は、基礎科目を設定することにより順序立てて理解できるように設定し、④毎学期開講される少人数のグループで行うゼミナール科目での指導により、力を養っていく。

教養科目の学びを踏まえ、専門科目における学修の進め方は以下のとおりである。

なお、「ゼミナール」以外の科目群において、履修に際して前提となる授業科目（下線の科目）があり、履修モデルを用い、学生に対して丁寧に履修指導を行うことで必ず履修させる計画である。

「学部共通科目」科目群

機械システム分野の概要を理解し、その後につながる科目を効果的に学習するために、「機械システム工学概論」を1年次前期に履修する。

「機械システムの基礎」科目群

基礎的・標準的な科目は、2年次前期までに開講するが、「機械のための数学」および「機械のための力学」を1年次前期に履修する。

「機械システム工学実験演習」は、機械の4力学などの開講時期を考慮し、2年次前期に開講する。また、「シミュレーション工学」、「トライボロジー」は、機械システムの基礎ではあるが、4力学等を学んだ後の方が効果的であるため、3年次に開講する。

「機械システム基幹科目」科目群

機械システム工学の基幹科目であるため、1～2年次に開講する。特に、「材料力学」は設計・製図科目と関連が強いのため、1年次に開講する。なお、重要な科目である「材料力学基礎」を1年次前期に、「機械力学基礎」、「熱力学基礎」を2年次前期に、「流れ学基礎」を2年次後期に履修する。

「社会のニーズとコミュニケーション」科目群

機械システム工学の基礎である「情報処理」、「プログラミング」は1年次に履修する。「テクニカルイングリッシュ1・2」は、教養科目「英語コミュニケーション科目」の履修後が効果的であるため、2年次に開講する。キャリア教育は3年次に行うことが効果的であるため、「キャリアデザイン1・2」を3年次に開講する。

「メカトロニクス」科目群

メカトロニクスは、機械の4力学、設計製図科目等をある程度学習した上で、学んだ方が効果的であるので、2年次後期に「メカトロニクス基礎」を履修する。3年次前期に「メカトロニクス」を開講する。

「システム制御」科目群

システム制御は、機械の4力学、設計製図科目、メカトロニクスの基礎を学習した上で学んだ方が効果的である。さらに、システム制御は特有の数学の知識も必要である。そのため、2年次後期に「システム制御のための数学」を開講する。3年次前期に基幹科目である「システム制御基礎」を履修することとし、3年次後期に「システム制御」を開講することにより、順序立てて、より効果的にシステム制御を学べるようにしている。

「設計・製図・製作実習」科目群

機械システム工学への導入科目である「プロジェクト製作」、製図の基礎科目である「基礎製図」を1年次に開講する。基幹科目である「基礎製図」および「設計製図」を1年次から2年次にかけて履修する。また、1年次に学んだ材料力学の知識を活用する「設計学」を2年次前期に開講し、設計プロセスの基礎知識の育成を目的とした「機械デザイン」を2年次

後期に開講する。

「ロボティクス」科目群

ロボット工学は、数学、機構学、プログラミング、設計製図、4力学などを学習した上で学ぶ方が効果的である。そこで、ロボット工学の基礎である「ロボット運動学」を2年次後期、「ロボット動力学」と「ロボットデザイン」を3年次前期、「ロボット制御」と「ロボットの設計と創造」を3年次後期に開講する。この中で、基幹科目である「ロボット運動学」、「ロボット動力学」、「ロボット制御」を必ず履修する。

「モビリティ」科目群

モビリティは、ロボット工学と同様に、数学、機構学、プログラミング、設計製図、4力学などを学習した上で学ぶ方が効果的である。そこで、モビリティの基礎である「モビリティダイナミクス」を2年次後期、「パワーユニットシステム制御」と「モビリティデザイン」を3年次前期、「モビリティシステム制御」と「モビリティの設計と創造」を3年次後期に開講する。この中で、基幹科目である「モビリティダイナミクス」、「パワーユニットシステム制御」、「モビリティシステム制御」を必ず履修する。

「ゼミナール」科目群

①機械システムを製作する上での安全教育、②技術者倫理教育、③国際的視野や価値観に関するコモンセンスを育成する教育、④人と人、人と情報などを結びつけるコーディネート力を育成する教育、⑤将来の機械システム工学士としてのキャリアを設計する能力を育成する教育を実施するため、また、学生が機械システムの専門性を深めていくために、1～4年次の各セメスターでゼミナールを開講する。さらに、大学生活の集大成として、「問題発見ゼミナール」を3年次後期、「卒業研究1・2」を4年次に開講する。

2) 卒業要件

以下の合計で124単位以上修得する。

(履修科目の登録の上限：20単位(1学期))

□科目区分Ⅰ現代文明論＜必修科目＞ 2単位修得

□科目区分Ⅱ現代教養科目

基礎教養科目＜必修科目＞ 4単位修得

発展教養科目＜必修科目＞ 6単位修得

健康スポーツ科目＜必修科目＞ 2単位修得

□科目区分Ⅲ英語コミュニケーション科目 ＜必修科目＞ 4単位修得

□科目区分Ⅳ主専攻科目 76単位修得

＜必修科目＞

■ゼミナール

の科目群に設定された必修科目から6単位を修得(計6単位)

＜選択科目＞

- 学部共通科目から1科目を修得し、
- 学科開講科目の選択科目と合わせて70単位以上修得（計70単位）

□科目区分Ⅳの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位 30単位修得

合計 124 単位修得

3) 履修モデル

前掲の【具体的な人材像】に基づき、履修モデルを資料として添付する。**【資料2】参照**

4) 履修科目の登録上限について

確実な学修とその定着を図るため、CAP制を設定する。1学期（1セメスター）における履修登録の上限を20単位と定めることにより、確実な授業外学習（予習・復習）がなされるようにする。資格取得のための卒業単位数に含まれない科目、セメスター期間外の実習等については、「セッション科目」として扱うため上限の単位数にカウントしない。

5) 他大学における授業科目の履修について

他大学における授業科目の履修、単位認定については、大学設置基準に基づき本学が定めるルールに則り活用していく。但し、資格取得等に関わる科目については、その基準を満たしているか等、慎重に審査して行う。

6 入学者選抜の概要

1. アドミッション・ポリシー

【アドミッション・ポリシー】

『求める学生像』

工学部機械システム工学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。

工学部機械システム工学科で定められたディプロマ・ポリシーで、求められている能力を身につけられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

機械システム工学に対して強い関心と学びに対する意欲がある。

(2) 思考力・判断力・表現力

現代文明が抱える問題に対して関心があり、何をすべきかについて自分なりに真剣に考えることができる。

（３）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

様々なことに対して、世界中の多様な分野の人々と協働するとともに自ら挑戦しようとする意欲がある。

2. 入学者選抜の概要

工学部機械システム工学科の入学試験は、次のとおり予定している。

学校推薦による選抜入試としては、付属高等学校長の推薦に基づいて書類審査及び「小論文」の試験により選抜を行う「付属学校推薦型選抜入学試験」、学校長の推薦に基づいて書類審査及び「小論文」、「面接試験（口述試験含む）」の試験により選抜を行う「公募制学校推薦型選抜入学試験」を実施する。

学力等による選抜入試としては、文系の3科目または理系の3科目を受験して高得点の2科目の結果で合否判定を行う「文系・理系学部統一選抜入学試験」、3教科の科目を受験して3科目の結果で合否判定を行う「一般選抜入学試験」、書類審査を経て大学入学共通テストの成績により合否判定を行う「大学入学共通テスト利用選抜入学試験」、書類審査及び課題発表、面接試験等により選抜を行う「総合型選抜入学試験」を行う。

なお、入学試験の募集定員全体の割合は、学校推薦による選抜入試 29%、学力等による選抜入試 71%である。

3. 入学者選抜の体制

入学試験における判定は、学長の責任・指揮のもと、学長を委員長、副学長、学部長、入学センター所長を副委員長とし、該当する学科の学科長等により構成される学部入試判定委員会によって実施される。

また、入試問題の作成は、入学試験の運営全体を統括する入試運営本部に設置される出題・採点本部の「入試問題作成部会」において行われる。入試問題作成部会は、「学科試験各科目」、「専門試験科目」、「実技試験科目」、「小論文」ごとに置かれ、その責任者及び委員は、出題・採点本部長から指名を受けた学部長の推薦に基づき、原則として専任講師以上の教員とし、学長が任命する体制となっている。

7 教員組織の編成の考え方及び特色

1. 専任教員組織

工学部機械システム工学科の専任教員組織は、教授5名、准教授2名、講師3名、助教1名の11名で構成されており、完成年度における年齢構成は、30～39歳2名、40～49歳3名、50～59歳4名、60～64歳1名、65～69歳1名となっている。

本学の定年齢は、「学校法人東海大学教職員定年規程」のとおりであり、完成年度までに定年を迎える教員が1名（教授1名）いるが、「学校法人東海大学大学・短大特任教員任用内規」第2条別表の規定に基づき、特任教員として完成年度まで雇用することについて、「東海大学教員人事委員会」で承認されている。**【資料3】参照**

完成年度後の教員組織の計画については、令和7年度の完成年度以降において、中堅・若

手教員の教育・研究能力の育成を踏まえて昇格を目指すとともに、定年を超えている教員については、次のとおり後任の補充計画を策定している。

対象者	採用予定年度	採用条件等
教員A（教授 63 歳） 主な担当科目：「ロボットの設計と創造」	令和 8 年度	博士の学位を有する 30～50 歳代で、機械工学を専門分野とし、教授レベルの教育研究業績を有すると認められる者

この計画に基づき、他大学の現職教員等から広く候補者を募り、本学の教員採用基準に照らし合わせた厳格な審査のもと、採用を行い、開設時の教育水準の維持・向上を図る。

2. 教養科目の教員配置の考え方

本学においては、総合大学の強みを生かした文理融合の教育を進めており、教養科目については、各学部において運営するのではなく、センター等により行い、学部とは別の組織により運営を行っている。教養科目を構成する各科目については、学部の特色等にあわせて授業科目に教員を配置し、学生同士も学部や分野を越えてお互いに交わりながら、全学的に同一の授業形態にて授業を行う方法を実践する。このため、「Ⅰ現代文明論」、「Ⅱ現代教養科目」、「Ⅲ英語科目」については、原則として兼担兼任教員が担当する。なお、「Ⅱ現代教養科目」の「入門ゼミナール1・2」については、学部学科教育の導入を担う科目であるため、専任教員が担当する。

3. 専門科目の教員配置の考え方

専門科目についての考え方は、授業を行うにあたり最も適した研究や教育の実績がある教員が授業を行うことである。ゼミナール科目や演習科目など、繊細かつ継続的な指導が必要な科目については、原則として専任教員が授業を実施し、履修者数を適切な人数で行うことにより対応していく。基礎系の科目や幅広い視点を養うための科目等については、その分野で豊富な教育経験と研究の実績がある教員を優先して配置する。

「学部共通科目」科目群

「機械システム工学概論」は、日本機械学会等で活躍している経験豊富で研究・教育実績のある専任教員が担当する。その他の科目については、各分野を専門とする兼任教員が担当する。

「機械システムの基礎」科目群

各科目とも、適切な研究分野で実績があり、教育実績も十分な専任教員が担当する。特に、初年次教育で重要な「機械のための数学」、「機械のための力学」は、それぞれ専任教員2名で担当する。また、「機械システム工学実験演習」は機械システム工学科を構成する多分野の実験テーマが必要であるため、多分野の複数名の専任教員が担当する。

「機械システム基幹科目」科目群

各科目とも、適切な研究分野で実績があり、教育実績も十分な専任教員が担当する。特に、

機械システム工学において必須の「材料力学基礎」、「材料力学」、「機械力学基礎」、「機械力学」は、それぞれ専任教員2名で担当する。

「社会のニーズとコミュニケーション」科目群

機械システム工学で重要な「情報処理」、「プログラミング」は適切な研究分野で実績があり、教育実績も十分な専任教員が担当する。「テクニカルイングリッシュ1・2」は、豊富な教育・研究実績がある専任教授が担当する。「キャリアデザイン1・2」は、それぞれ豊富な経験、教育・研究実績がある専任教員3名が担当する。

「メカトロニクス」科目群

各科目とも、経験豊富で研究・教育実績のある専任教員が担当する。

「システム制御」科目群

各科目とも、それぞれ経験豊富で研究・教育実績のある専任教員が担当する。

「設計・製図・製作実習」科目群

各科目とも、それぞれ経験豊富で研究・教育実績のある専任教員が担当する。特に、「プロジェクト製作」は、入学直後の学生にものづくりの面白さを経験させることを目的としているため、丁寧な指導を行う。また、機械システム工学において重要な「基礎製図」、「設計製図」、「機械デザイン」では、製図の作成等について丁寧に指導する。

「ロボティクス」科目群

各科目とも、それぞれ経験豊富で研究・教育実績のある専任教員が担当する。「ロボット運動学」、「ロボット動力学」、「ロボット制御」は、専任教員2名で担当する。また、「ロボットデザイン」は、ロボット系の専任教員3名で担当する。さらに、「ロボットの設計と創造」においては、専任教員5名で担当する。

「モビリティ」科目群

各科目とも、それぞれ経験豊富で研究・教育実績のある専任教員が担当する。複数名の専任教員でより丁寧な授業を行う。「モビリティダイナミクス」、「パワーユニットシステム制御」は、それぞれ専任教員2名で担当する。また、「モビリティシステム制御」、「モビリティデザイン」は専任教員3名で担当する。さらに、「モビリティの設計と創造」においては、専任教員5名で担当する。

「ゼミナール」科目群

各科目とも、それぞれ経験豊富で研究・教育実績のある専任教員が担当する。1年次から4年次までの各 Semester で開講する「機械システム入門ゼミナール1・2」、「機械システムゼミナール1・2」、「先端システムゼミナール1・2」、「機械システム応用ゼミナール1・2」は複数名の専任教員が担当し、学生指導等も含め丁寧に授業を行う。さらに、大学生活の集大成として行う「問題発見ゼミナール」、「卒業研究1・2」は専任教員全員が担当する。

8 施設・設備等の整備計画

1. 校地、運動場の整備計画

工学部機械システム工学科は、教育研究を湘南校舎（神奈川県平塚市）において行う。

湘南校舎の校地面積は 532,185.37 m²であり、多目的グラウンドをはじめ複数の運動場が整備されており、芝生広場「Palette パレット」などの学生の休息できる場所やその他の利用のための適当な空地も十分に確保されているため、新たな整備計画はない。

2. 校舎等施設の整備計画

校地校舎等の図面のとおり、湘南校舎において、12 号館を中心として、専任教員研究室、実験室、コンピュータ室、教室等を専用・共用として確保しており、教育研究に支障はないため、新たな整備計画はない。

3. 図書等の資料及び図書館の整備計画

図書等の整備について、工学部機械システム工学科の学問領域に関わる図書資料として、図書 54,397 冊を整備しており、教育研究に支障はない。引き続き開講科目及び周辺学問領域に関わる図書資料を幅広く収集して充実させる予定である。

学術雑誌については、プリント版ジャーナルと電子ジャーナルの 2 形態を整備する。「学術雑誌一覧」のとおり、多数の学術雑誌を整備しており教育研究に支障はない。**【資料4】参照**

また、既にオンライン・文献データベースが整備されており、学内の図書館をはじめ各施設、研究室、一部は学外から“SSL-VPN”を利用した 24 時間検索を実現している。

図書館の施設整備については、工学部機械システム工学科の学生が利用する湘南校舎の図書館の面積は 11,089 m²であり、閲覧室や東海大学蔵書検索システム（TIME-OPAC）を利用できる検索パソコンが既に整備され、教育研究に支障はないため、新たな整備計画はない。

なお、東海大学では、新型コロナウイルスの流行に伴い、遠隔授業が導入されたことを契機として、電子書籍を利用できる環境を整えている。具体的には、学生や教職員がさまざまな専門分野の基本的な内容に関する電子書籍を自由に閲覧できるサービスを目指し、丸善雄松堂株式会社の「Maruzen eBook Library」(<https://elib.maruzen.co.jp/>)において、各学部の教員が推薦した各分野の基礎的・入門的な図書の中から特に選出した約 1550 タイトルと、岩波書店発行の「岩波新書」、「岩波現代文庫」シリーズなど 500 タイトルが利用可能となっている。また、先に述べたオンライン・文献データベースにより、世界各国で刊行されている学術雑誌や国内外で発行されている主要新聞・雑誌類の記事、「世界大百科事典」「日本国語大辞典」「新英和大辞典」といった辞書類、地図データベースなど数多くのさまざまな情報を大学の附属図書館以外の場所から検索・閲覧できる環境が整えられている。

本学では、社会情勢の変化に対応した教育研究環境を整えるべく、教員や学生が必ずしも大学の附属図書館に来なくても、書籍や情報の検索・閲覧が可能となる「非来館型サービス」を拡充していく。

他大学図書館との連携について、本学は、私立大学図書館協会に加盟し、図書の相互貸借・文献の複写依頼のやり取りを中心に相互利用を積極的に展開している。また、国・公立大学並びに外部機関とも私立大学と変わらない連携・交流関係を確立している。その実績を生か

し国立情報学研究所 NACSIS - ILL の ILL 文献複写等料金相殺サービスにも参画し、充実した相互協力を展開している。

神奈川県内では神奈川県図書館協会に加盟し、その下部組織である大学図書館協力委員会に参画し、県内の大学・短期大学図書館と共通閲覧証による館内における閲覧及び文献複写を原則とする相互利用により、活発な協力活動を展開している。今後は、同協会加盟の公共図書館、専門図書館と館種を超えた幅広い相互協力活動の展開への可能性も高まり、活発な協力活動を展開する計画である。

9 管理運営

工学部機械システム学科の管理運営は、基本的には工学部教授会によってなされる。教授会は「東海大学学部教授会規程」に従い、通常、月 1 回開催され、その構成員は教授、准教授、講師及び助教であるが、必要に応じてその他の教職員を加えることができる。教授会は学部長がこれを招集し、その議長となるが、このとき構成員の 3 分の 2 以上の出席がなければ成立しない。また、その議決は、出席人員の過半数の賛成を要する。

なお、教授会では次のことを審議することで実際の学部運営を行っている。

- (1) 研究及び教育に関する事項
- (2) 学生の入学、卒業、学位の授与に関する事項
- (3) 学生の学籍異動に関する事項
- (4) 教務及び学生生活に関する事項
- (5) その他必要と認められる事項

また、工学部には、教育・研究及び管理運営の質的向上を図るために必要な事項の検討・点検・評価活動に関する「評価委員会」、教務事項に関する「教務委員会」、FD活動の推進に関する「FD委員会」、広報活動の充実に関する「広報委員会」が設置され、これら委員会は、学部長及び教授会との連携と機能分担がなされる。

10 自己点検・評価

東海大学は、学長の諮問機関として東海大学評価委員会が設置され、大学の自己点検・評価を行いながら、その結果に基づいて各種教学改革の提言を行っている。

各学部には、学部評価委員会が設置されており、ここで自己点検・評価を行うことになる。東海大学で実施している自己点検・評価活動は、機関点検・評価と教員個人の総合的業績評価に大別することができる。

1. 機関点検・評価

機関点検・評価は、学部・研究科等を単位として、各教育機関が、東海大学全体の中期目標・計画に沿って、学部・研究科の中期目標・計画を立て、ミッション・シェアリング・シート（5 年計画で学部・研究科の教育研究改革、改善の目標と手段を明記した書類）に記載

することから始まる。

このミッション・シェアリング・シート記載項目の達成度や問題点について、各学部・研究科が毎年度末に自己点検・評価を行った後、学部・研究科の相互評価に付され、さらに大学評価委員会によって最終的な評価が行われて学長に報告される。

また別途、大学基準協会が定めた点検・評価項目に従った自己点検評価報告書も作成している。学長は、これに基づいて、翌年の改革改善を指揮する流れが作られている。

2. 教員個人の総合的業績評価

本学では、教員個人が、その活動状況について Web を利用して登録することが定められており、登録された活動状況について、総合的業績評価システムによって評価を行う。主たる評価項目は、①研究活動、②教育活動、③学内外活動の3項目である。

研究活動については論文・著書の執筆、学会等発表状況を、教育活動については学部における教育活動、学内外活動については各種の学内運営業務の担当状況、学外における学会活動、審議会等学外の委員受託、地域貢献活動などが評価対象となる。これらは、教員の所属学部で毎年総合評価を受ける。

3. 認証評価及び大学全体の自己点検・評価

東海大学は、学部・大学院について、平成 29（2017）年度に財団法人大学基準協会による認証評価を受審し、「適合」の判定を得た。次回の認証評価は、令和 6（2024）年度が予定されている。財団法人大学基準協会の認証評価とともに、東海大学は、大学全体の自己・点検評価を、前記 1 及び 2 などを取り入れながら毎年度実施しており、毎年度「教育研究年報」を大学のオフィシャルホームページに掲載して公表している。

11 情報の公表

本学は、学校教育法第 113 条及び学校教育法施行規則第 172 条の 2 に基づき、以下のとおり、各学部及び大学院各研究科における教育研究活動等の状況について、本学のオフィシャルサイトにより、広く社会に向けて開示している。

ア 大学の教育研究上の目的に関すること

本学では、大学院、学部における教育研究上の目的を、それぞれ各学則に定めており、オフィシャルサイトの＜大学の概要＞において、「学則」の条文中の別表として公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「教育研究上の目的」：トップ＞大学の概要＞学則

イ 教育研究上の基本組織に関すること

本学の教育研究上の基本組織については、オフィシャルサイト＜大学の概要＞において、「教育・研究組織について」として、各事務部門の組織名称と併せて学部及び研究科の名称を公表している。なお、学部・学科及び研究科・専攻の名称については、オフィシャル

サイトの＜教育・研究＞＜学部・学科＞、＜大学院＞において公表している。

【オフィシャルサイト】[http:// www. u- tokai. ac. jp](http://www.u-tokai.ac.jp)

「教育・研究組織」の名称

トップ＞大学の概要＞教育・研究組織について

「各学部」の名称

トップ＞教育・研究＞＜学部・学科＞及び＜大学院＞

ウ 教員組織，教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

本学においては、昭和 59 年度より、年度ごとの教育研究活動の客観的事実を広く社会に報告することを目的に「東海大学教育研究年報」を年 1 回編集・発行しており、その中で教員組織に関する情報も公表してきている。教育研究年報がオフィシャルサイトトップページの＜大学の概要＞＜（大学の取り組み）教育研究年報＞において、「教育研究年報」として閲覧できるようになっており、専任教員数及び専任教員の年齢構成については、オフィシャルサイトトップページの＜各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞（教育研究上の情報）＞において、公表している。

また、各教員が有する学位及び業績に関する情報については、オフィシャルサイトトップページの＜教育・研究＞＜学部・学科＞、＜大学院＞のページにおいて、各学部・学科及び研究科・専攻のトップページの「教員紹介」として公表している。なお、各教員の研究活動情報については、オフィシャルサイトトップページの＜教育・研究＞＜研究支援・体制＞において、「研究活動・ライセンス検索」から検索ができるようになっている。

【オフィシャルサイト】[http://www. u- tokai. ac. jp](http://www.u-tokai.ac.jp)

「教員組織等」

トップ＞各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞年齢別教員数

「教員が有する学位及び業績」

トップ＞各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞学部・学科＞

学部・学科（各研究科・専攻）トップ＞教員紹介「ResearchMap」

トップ＞教育・研究＞研究支援・体制＞研究活動・ライセンス検索＞教員研究活動情報の検索

エ 入学者に関する受入方針及び入学者の数，収容定員及び在学する学生の数，卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

入学者に関する受入方針については、オフィシャルサイトトップページの＜大学の概要＞理念・歴史＞教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー＞に「アドミッション・ポリシー」として掲載している。入学者の数、収容定員及び在学する学生の数については、オフィシャルサイトトップページの＜各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞＜収容定員＞において、「学生数」として公表している。また、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況については、オフィシャルサイトトップページの＜各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞就職者数において公表している。また、本学では、「就職指導も教育の一環」という理念に基づいて、全学的な就職支援体制を構築している。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「入学者に関する受入方針」

トップ>大学の概要>（理念・歴史）教育研究上の目的及び養成
する人材像、3つのポリシー

「入学者の数、収容定員及び在学する学生の数」

トップ>各種情報・お問い合わせ>情報の公表>収容定員

「卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学
及び就職等の状況」

トップ>各種情報・お問い合わせ>情報の公表>就職者数

オ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

本学では、授業の概要情報と、授業の基本・詳細情報を合わせてシラバスと称し、シラバスデータベースシステムは、授業内容や授業計画を網羅したシステムとなっている。学生の授業選択を強力にサポートする豊富な検索機能と、学習を進める上で有効となる最新の情報を提供しており、オフィシャルサイトトップページの<各種情報・お問い合わせ><情報の公表>（授業について）シラバス又は年間授業計画の概要>においてシラバスを公表している。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「学部・学科」、「研究科専攻」のシラバス

トップ>各種情報・お問い合わせ>情報の公表>（授業について）シラバス又は年間授業計画の概要>授業内容・計画（シラバス）

カ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

学修の成果に係る評価等、大学設置基準等において、学生に明示することとされている事項については、オフィシャルサイトトップページの<教育・研究><学部・学科>、<大学院>のページにおいて、各学部・学科及び研究科・専攻のトップページの「カリキュラム」として公表している。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準（学部・学科）」

トップ>教育・研究>[学部・学科]、[大学院]>各学部・学科・専攻・課程・
研究科トップ>カリキュラム

キ 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

校地・校舎等の施設等については、オフィシャルサイトトップページにおいて、「各種情報お問い合わせ>情報の公表>（学校法人東海大学 情報公開）校地・校舎面積・耐震化率として公表している。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「学生の教育研究環境等」：トップ>各種情報・お問い合わせ>情報の公表>（学校法人東海大学 情報公開）校地・校舎面積・耐震化率

ク 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

授業料等については、オフィシャルサイトトップページの＜受験・入学案内＞において、「学部・学科学費」及び「大学院学費」として公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「授業料、入学料その他の大学が徴収する費用」

トップ＞受験・入学案内＞学部・学科学費、大学院学費

ケ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

大学が行う学生の各種支援に関することについては、オフィシャルサイトトップページの＜学生生活＞及び＜キャリア・就職＞において、それぞれ公表している。また、教育支援センターでは、東海大学が進めている教育改革を推進するために、すべての学生の目線に立ち、全学の組織的な教育改善計画（Faculty Development）を開発し、教育の質と教育力の向上を支援しており、大学のオフィシャルサイトとは別に教育支援センターサイトを開設し、その取り組みを公表している。

さらに、健康推進センターでは、病気の早期発見や健康の保持増進に努め、学生及び教職員が心身ともに健康で快適なキャンパスライフを送れるようサポートし、オフィシャルサイトでその取り組みを公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「修学支援」：トップ＞学生生活＞学生生活サポート

「進路選択支援」：トップ＞学生生活＞キャリア就職

「心身の健康等に係る支援」：トップ＞学生生活＞教育支援組織＞健康推進センター

【教育支援センターサイト】<http://jpn.esc.u-tokai.ac.jp>

【健康推進センターサイト】<http://www.tsc.u-tokai.ac.jp/pubhome/hokenc>

コ その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認定評価の結果 等）

本学における「アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）」、「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」については、オフィシャルサイトトップページの＜大学の概要＞において、「教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー」として掲載している。

学則については、オフィシャルサイトトップページの＜大学の概要＞において、「学則」として、東海大学大学院学則、東海大学学則を、それぞれ掲載している。

設置認可申請書・設置届出書及び設置計画履行状況報告書については、オフィシャルサイトトップページの＜大学の概要＞において掲載している。

本学における自己点検評価活動、及び平成29年度に受審した第三者評価の結果については、オフィシャルサイトトップページの＜大学の概要＞＜学則・コンプライアンス＞＜において、「自己点検評価活動」として掲載している。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「アドミッション・カリキュラム・アカデミックポリシー」

トップ>大学の概要>教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー

「学則」

トップ>大学の概要>学則

「設置認可申請書・設置届出書及び設置計画履行状況報告書」

トップ>各種情報・お問い合わせ>情報の公表>学部、研究科等に係る「設置申請・届出書」及び「設置計画履行状況報告書」

「自己点検評価活動、第三者評価の結果」

トップ>大学の概要>自己点検評価活動

1 2 教育内容等の改善のための組織的な研修等

工学部機械システム工学科では、主専攻科目において授業アンケートを実施し、学生の理解度、講義形態に対する意見、学生・教員間のコミュニケーションの評価、などの意見を学期毎に集め、次の講義にどのように改良していくのかについて、シラバスにおいても記載し、授業内容及び方法の改善についてPDCAのサイクルを実施する。

工学部にFD委員会を組織し、学士課程教育内容の改善を目標とした活動を実施する。活動内容は、多様な学修歴をもつ新入生に対応するため初年次開講の専門基礎科目について、学生の履修履歴や学力実態に即した授業内容の組織的改善を行なうとともに、大学生活全般への導入、学部・学科に関する理解を深め専門分野への勉学の意欲を高めるための初年次をターゲットとしたFD研究会を実施する。さらにFD委員会では、授業公開を促進させ、授業の内容について、幅広く他の教員からの意見を聞き、以降の講義へ反映させる試みを継続的に行う。また、FDの講演会を定期的で開催し、多様な学生の気質の理解や、個々の教科における学生理解度の評価手法などについて理解を深める。活動としては、年度間において複数回のFD研究会を実施し、工学部所属教員による担当授業の改善報告やFDの講演会を開催し、講師として、優れた授業を行う教員を大学として表彰する「東海大学 Teaching Award」の受賞教員や授業改善に知見のある学外教員等を迎える計画である。

なお、学部においてMSS (Mission Sharing Sheet) を定義し、その中に授業内容・方法の改善に向けた個々の試みを登録し、学期毎にチェックすることにより、PDCAサイクルを実現する。

1 3 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

1. 教育課程内の取組について

本学においては、現代市民として身につけるべき教養を修得するための方策として「パブリック・アチーブメント型教育」の導入を掲げている。「パブリック・アチーブメント」とは、

米国では、立場や状況の異なる市民が社会で共存するためのルールを作り、環境整備を行う中で、若者が社会活動をととして民主社会における市民性を獲得していくための実践及びそのための組織と学習プログラムを意味している。

日本という成熟した社会における若者の自己中心主義・政治的無関心・無気力感を克服し、「地域」の課題への取り組みをテーマとする科目を教養科目に開設し、ここで育てた問題意識や目的意識のもと専門教育へと展開し、教養教育と専門教育の融合・発展と、その相乗効果による教育効果の向上を行うことにより、社会的・職業的自立を目指している。そのことを踏まえ、工学部機械システム工学科においては、「ゼミナール科目群」において、「倫理観」、「国際的視野」、「価値観に関するコンセンサス」や「人と人、人と情報などを結びつけるコーディネート力」を育成することを目指すゼミナール科目を開設するとともに、将来の機械システム工学士としてのキャリアを設計する能力を育成する教育を実施する「キャリアデザイン1・2」の学びをととして社会的、職業的な自立につなげる。

2. 教育課程外の取組について

本学に在籍している学生全てに門戸が開かれているチャレンジセンターの「チャレンジプロジェクト」により、本学が実践している4つの力「自ら考える力・集い力・挑み力・成し遂げ力」を身につける活動を行っている。これは、学生が活動を企画・運営し、目標の達成を目指す課外活動であり、地域活性化、ボランティア等多様な活動を学生自身の手で展開している。

3. 適切な体制の整備について

教育課程については、東海大学教育審議会を柱として、パブリック・アチーブメント型教育の方向性を定め、現代教養センター・地域連携を担うT o - C o l l a b oを軸に運営を行っている。さらに、各学部・学科においては、専門科目へパブリック・アチーブメント型教育を展開している。また、教育課程外の活動についてはチャレンジセンターを中心に行っており、この双方の広がりから、地域連携を担うT o - C o l l a b oにより、実際に地域との連携する教育研究活動という形で、実践的な教育活動と学生の活動の場を維持している。

以 上

設置の趣旨等を記載した書類
工学部機械システム工学科

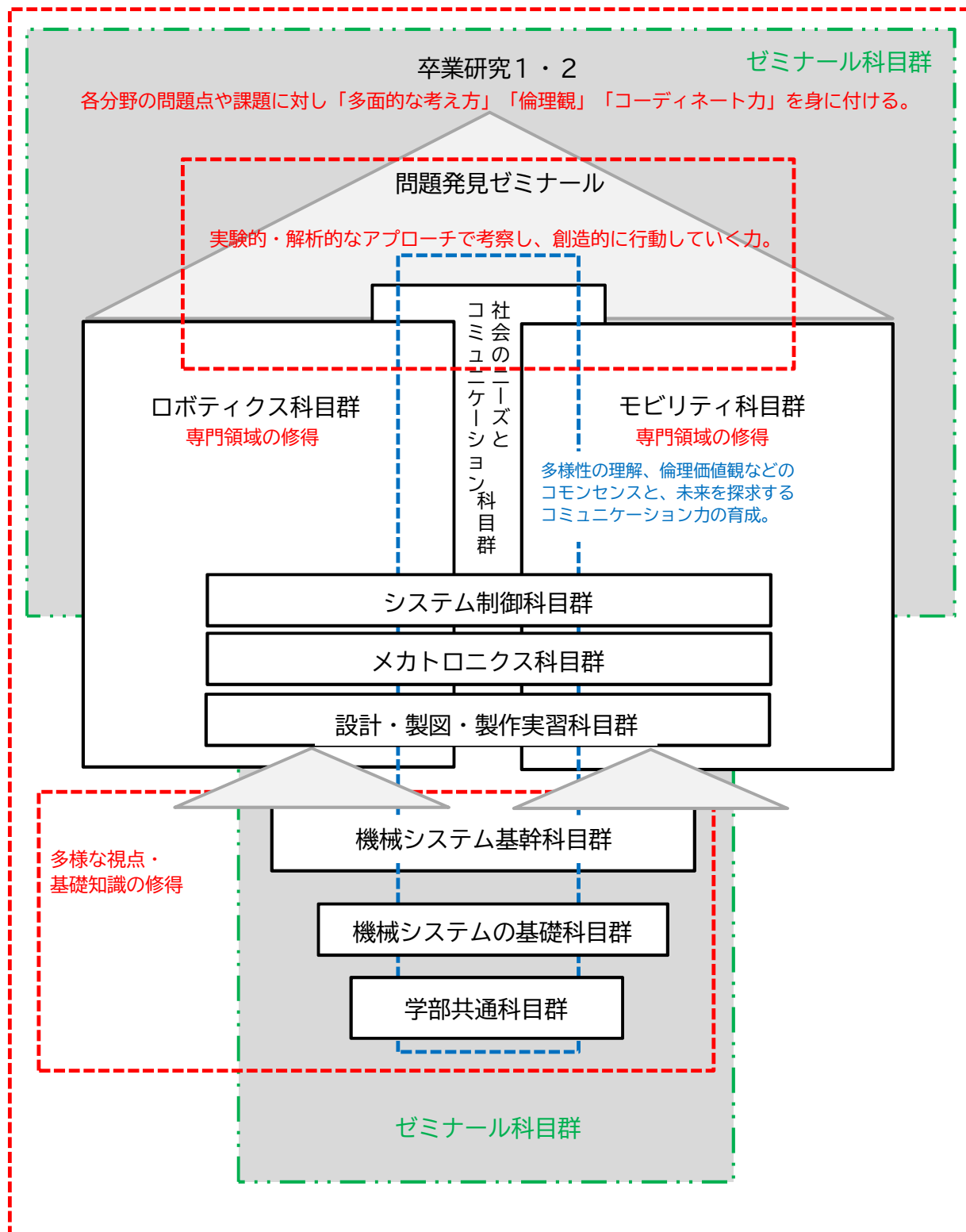
【資料目次】

- 資料1 「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」と教育課程との関連図
…p. 2
- 資料2 履修モデル…p. 3
- 資料3 学校法人東海大学教職員定年規程
学校法人東海大学大学・短大特任教員任用内規…p. 5
- 資料4 学術雑誌一覧…p. 10

工学部機械システム工学科

「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」と教育課程との関連図

現代文明が抱える諸問題の解決を目指し、国際的視野から社会と産業の発展に貢献する人材を育成。



履修モデル：工学部機械システム工学科 【具体的な人材像】機械システム工学を智能ロボットの開発等に活用できるエンジニア

科目区分	1 年次				2 年次				3 年次				4 年次			
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期	
	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数
I 現代文明論							現代文明論	2								
II 現代教養科目	入門ゼミナールA	2	入門ゼミナールB	2	現代教養講義	2										
	シティズンシップ	2	地域・国際理解	2												
	健康・フィットネス理論実習	1	生涯スポーツ理論実習	1												
III 英語科目	英語リスニング&スピーキング	2	英語リーディング&ライティング	2												
IV 主専攻科目	機械システム工学概論	1	機構学	2	機械加工基礎	2	機械力学	2	シミュレーション工学	2	トライボロジー	2	卒業研究 1	2	卒業研究 2	2
	機械のための数学	2	機械材料基礎	2	計測センサ工学	2	流れ学基礎	2	キャリアデザイン 1	2	キャリアデザイン 2	2	機械システム応用ゼミナール 1	2	機械システム応用ゼミナール 2	2
	機械のための力学	2	材料力学	2	機械システム工学実験演習	2	テクニカルイングリッシュ 2	2	メカトロニクス	2	システム制御	2	データサイエンス 1 統計学のためのプログラミング	1		
	材料力学基礎	2	プログラミング	2	機械力学基礎	2	メカトロニクス基礎	2	システム制御基礎	2	ロボット制御	2	データサイエンス 2 データ分析と機械学習	1		
	情報処理	2	基礎製図	2	熱力学基礎	2	システム制御のための数学	2	ロボット動力学	2	ロボットの設計と創造	2				
	プロジェクト製作	2	機械システム入門ゼミナール 2	2	テクニカルイングリッシュ 1	2	機械デザイン	2	ロボットデザイン	2	モビリティシステム制御	2				
	機械システム入門ゼミナール 1	2	ICTプログラミング基礎 1 Webアプリケーション	1	設計製図	2	ロボット運動学	2	パワーユニットシステム制御	2	先端システムゼミナール 2	2				
					設計学	2	モビリティダイナミクス	2	先端システムゼミナール 1	2	問題発見ゼミナール	2				
					機械システム入門ゼミナール 3	2	機械システム入門ゼミナール 4	2	Exercise for TOEIC(R) Test 1	1	Exercise for TOEIC(R) Test 2	1				
単位数合計		20		20		20		20		17		17		6		4
																124

履修モデル：工学部機械システム工学科 【具体的な人材像】機械システム工学をモビリティ（電気自動車、鉄道など）の開発等に活用できるエンジニア

科目区分	1 年次				2 年次				3 年次				4 年次			
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期	
	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数
I 現代文明論							現代文明論	2								
II 現代教養科目	入門ゼミナールA	2	入門ゼミナールB	2	現代教養講義	2										
	シティズンシップ	2	地域・国際理解	2												
	健康・フィットネス理論実習	1	生涯スポーツ理論実習	1												
III 英語科目	英語リスニング&スピーキング	2	英語リーディング&ライティング	2												
IV 主専攻科目	機械システム工学概論	1	機構学	2	機械加工基礎	2	機械力学	2	シミュレーション工学	2	トライボロジー	2	卒業研究 1	2	卒業研究 2	2
	機械のための数学	2	機械材料基礎	2	計測センサ工学	2	流れ学基礎	2	キャリアデザイン 1	2	キャリアデザイン 2	2	機械システム応用ゼミナール 1	2	機械システム応用ゼミナール 2	2
	機械のための力学	2	材料力学	2	機械システム工学実験演習	2	テクニカルイングリッシュ 2	2	メカトロニクス	2	システム制御	2	データサイエンス 1 統計学のためのプログラミング	1		
	材料力学基礎	2	プログラミング	2	機械力学基礎	2	メカトロニクス基礎	2	システム制御基礎	2	ロボット制御	2	データサイエンス 2 データ分析と機械学習	1		
	情報処理	2	基礎製図	2	熱力学基礎	2	システム制御のための数学	2	ロボット動力学	2	モビリティの設計と創造	2				
	プロジェクト製作	2	機械システム入門ゼミナール 2	2	テクニカルイングリッシュ 1	2	機械デザイン	2	モビリティデザイン	2	モビリティシステム制御	2				
	機械システム入門ゼミナール 1	2	ICTプログラミング基礎 1 Webアプリケーション	1	設計製図	2	ロボット運動学	2	パワーユニットシステム制御	2	先端システムゼミナール 2	2				
					設計学	2	モビリティダイナミクス	2	先端システムゼミナール 1	2	問題発見ゼミナール	2				
					機械システム入門ゼミナール 3	2	機械システム入門ゼミナール 4	2	Exercise for TOEIC(R) Test 1	1	Exercise for TOEIC(R) Test 2	1				
単位数合計		20		20		20		20		17		17		6		4
																124

(制定 昭和28年6月1日)

改訂 昭和43年4月1日 昭和63年4月1日
 1991年6月17日 1994年4月1日
 2000年4月1日 2003年4月1日
 2004年4月1日 2006年4月1日
 2007年4月1日 2011年4月1日
 2012年4月1日 2013年4月1日
 2017年4月1日

第1条 学校法人東海大学に勤務する専任の教職員の定年は、次のとおりとする。

教員

職種	区分	身分	資格	定年齢
教員	大学院・大学 短大・研究所等		教授	65
			准教授・講師・ 助教・助手	62
	高等学校・中等部 小学校・幼稚園	教諭・養護教諭 司書教諭	上級職1種・2種	65
			中級職1種・2種	62
			一般職1種	62
		助教諭	一般職2種	60
	2004年4月1日以後の採用者	教諭・養護教諭 司書教諭	一般職1種	60

職能資格制度を適用する職員

職種	区分	身分	資格	定年齢
職員	事務		参与・副参与 参事・副参事	65
			主事・副主事	62
			主査・職員一級 職員二級	60
	技術		主席技師・主任技師 技師	65
			技師補・上級技術員	62
			一級技術員・技術員 初級技術員	60
	看護		1等級～4等級	65
			5等級～7等級	62
			8等級以下	60
	保健		主席保健技術員・副主席保健 技術員・主任保健技術員	65

			上級保健技術員一・上級保健技術員二	62
			中級保健技術員・保健技術員・初級保健技術員	60

職能資格制度を適用しない職員

職種	区分	身分	資格	定年齢
職員	船舶		船長・機関長	65
			一等航海士，一等機関士，通信長，事務長，次席一等航海士，次席一等機関士，二等航海士，二等機関士，次席二等航海士，次席二等機関士，三等航海士，三等機関士，次席三等航海士，次席三等機関士，小型舟艇船長，小型舟艇機関長，小型舟艇甲板長，甲板長，操機長，司厨長	62
			操舵手，操機手，調理手，甲板員，機関員，司厨員	60
	その他		課長職以上の管理職	65
			上記以外の役職	62
			上記以外の職員	60

第2条 定年による退職は，定年に達した日の属する年度末日とする。

第3条 定年令の計算は，「年令計算ニ関スル法律」及び「民法」第143条による。ただし，2000年3月31日までに採用された教職員についてはこれを適用しない。

第4条 教育上又は経営上必要と認めた者については，第1条の規定を適用しない。

第5条 「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」により定年退職後に継続雇用する場合は，「学校法人東海大学大学・短大非常勤教員規程」，「学校法人東海大学初等中等教育機関非常勤講師規程」及び「学校法人東海大学臨時職員規程」を適用する。なお，継続雇用における条件については，「学校法人東海大学高齢者継続雇用運用細則」による。

付 則

- 1 この規程は，昭和28年6月1日から施行する。
- 2 この規程の施行にあたって必要な細則については，別に定める。

付 則（2017年4月1日）

この規程は，2017年4月1日から施行する。

○学校法人東海大学大学・短大特任教員任用内規

(制定 2017年4月1日)

改訂 2020年4月1日

(目的・趣旨)

第1条 学校法人東海大学大学・短大特任教員任用内規（以下「この内規」という。）は、
「学校法人東海大学特任教職員任用規程」（以下「規程」という。）に定める特任教職員のうち、大学・短大の特任教員（以下「特任教員」という。）の任用についての運用を定めることを目的とする。

(個別管理区分)

第2条 特任教員の各人の雇用条件を、雇用契約書等で提示することを目的として、規程第3条に定める個別管理区分は、次の項目とし、詳細を別表に定めるものとする。

- (1) 採用区分
- (2) 職務区分
- (3) 所属及び勤務地
- (4) 資格
- (5) 1回の雇用期間
- (6) 授業責任時間
- (7) 招聘の有無
- (8) 年俸額
- (9) 教育及び研究に関する経費配算
- (10) 外部資金要件
- (11) その他

(限度年齢)

第3条 規程第4条及び第5条の定めその他、次の各号の満年齢に達する年度末を契約期間の限度とする。

- (1) 教授 65 歳
 - (2) 准教授以下 62 歳
- 2 原則として教授に限り、専任定年後に継続して雇用することができる。その場合、限度年齢は 68 歳とするが、特段の事情がある場合は、稟議により、70 歳に達する年度末までを限度とすることができる。
- 3 本条における年齢の計算は、「年齢計算ニ関スル法律」及び「民法」第 143 条による。

(契約更新に関する条件)

第4条 特任教員の契約は、次の各号のいずれかに該当する場合、更新を行わないものとする。

- (1) 担当する授業科目が減少し、授業責任時間を満たさないとき。
- (2) 担当する業務がなくなったとき。
- (3) 担当する研究プロジェクトが終了したとき。
- (4) 外部資金要件の者については、人件費、研究費等の経費全額を充足し得る外部資金が確保できないとき。
- (5) その他、雇用契約書等に定める契約内容が遵守されないとき。

(専任への任用変更)

第5条 特任教員が専任教員への任用変更を希望する場合、人事計画に基づき、公募する教員採用に応募することができる。ただし、専任定年後の継続雇用者を除く。

- 2 専任教員と同等の職務に就く特任教員は、所属学部等より推薦があった場合、所定の専任採用審査を受けることができる。このとき、在職中の教育・研究の業績及び勤務実績のほか、学生指導、学部学科等所属する組織の運営業務、大学内外の各種業務等の担当について評価する。

付 則

- 1 この内規は、2017年4月1日から施行する。

- 2 (経過措置)

規程の付則第3項に定める経過措置を適用する特任教員第3種の任用手続は、規程の制定に伴い、任用に係る委員会を廃止するため、他の特任教員と同様とする。

付 則 (2020年4月1日)

この内規は、2020年4月1日より施行する。

別表

個別管理区分	内 容
(1)採用区分	新採用, <u>再採用</u> , 再雇用
(2)職務区分	教育・研究の職務を主に担当, 教育を主に担当, 研究を主に担当, 診療を主に担当, その他
(3)所属及び勤務地	各機関に定める所属及び勤務地
(4)資格	教授, 准教授, 講師, 助教, 助手
(5)1回の雇用期間	1回の雇用期間は1か年度毎とする。専任への任用変更は原則として5か年度以内とする。 最長雇用期間は9か年度とし, 外部資金を要件とする者については, 外部資金未確保の場合は更新しない。
(6)授業責任時間	職務内容に応じて3コマ, 6コマ, 10コマ, その他 専任定年後の継続雇用者は原則として3コマとする。
(7)招聘の有無	大学による招聘にて採用された者は, 成果に応じて給与に特別加算することができる。ただし, 専任定年後の継続雇用者を除く。
(8)年俸額	職務による諸手当については年俸額に含むものとする。実績による諸手当については, 実績に応じて別途支給する。
(9)教育及び研究に関する経費配算	特定の診療を行う職務の教員を除き, 職務内容に応じて, 研究費又は教育開発費を配算する。
(10)外部資金要件	該当する外部資金の要件及び名称
(11)その他	<u>上記個別管理区分に定める他, 特別の事情のある場合は, 必要に応じて記載する。</u>

(注) 採用区分の内容は、次のように定める。

(1) 新採用

新たに特任教員として雇用契約を締結すること。

(2) 再採用

専任退職後，引続き特任教員として雇用契約を締結すること。

(3) 再雇用

退職した者が，一定の期間を経て，再度雇用契約を締結すること。

学術雑誌一覧

工学部機械システム工学科

No.	誌名(国内雑誌)
1	FQC
2	IEレビュー : official publication of the Japan Institute of Industrial Engineering
3	Solar systems
4	安全工学
5	工業技術院年報
6	研究報告
7	エネルギー対話 = Energy.
8	エネルギー = Energy
9	エネルギー経済
10	オートメーション
11	材料システム = Materials system
12	大阪工業技術試験所季報 = Bulletin of the Osaka Industrial Research Institute
13	大阪工業技術試験所報告
14	大阪府立工業技術研究所報告
15	FOP
16	照明
17	研究報告 / 神奈川県工業試験所 [編].
18	神奈川大学工学研究所所報 = Science reports of Research Institute for Engineering, Kanagawa University.
19	プラントエンジニア.
20	生産と運搬.
21	川崎技報
22	川崎重工技報 = K.H.I. technical review.
23	関東学院大学工学総合研究所報.
24	技術と人間.
25	九州工業技術試験所報告 = Reports of the Government Industrial Research Institute, Kyushu
26	九州産業大学工学部研究報告
27	九州東海大学紀要. 工学部.
28	Think tank / 名古屋技術センター
29	近畿大学工学部研究報告
30	研究報告 = Bulletin of the Kurume Institute of Technology / 久留米工業大学 [編].
31	計装 = Instrumentation
32	計測技術
33	計測自動制御学会論文集 = Transactions of the Society of Instrument and Control Engineers
34	計測と制御 = Journal of the Society of Instrument and Control Engineers
35	計量管理
36	工学院大学研究報告 = Research reports of the Kogakuin University.
37	工学院大学研究論叢.
38	工業材料

39	工業用水
40	工場管理
41	材料
42	材料科学
43	産業安全研究所年報.
44	システムと制御 = Systems and control
45	自動化技術 = Mechanical automation
46	島津評論.
47	省エネルギー = The energy conservation.
48	大阪府立工業奨励館報告
49	生産技術 = Production technique : journal of Production Technical Society
50	生産研究
51	製品科学研究所研究報告 = Bulletin of the Industrial Products Research Institute
52	玉川大学工学部紀要
53	千葉工業大学研究報告. 理工編.
54	中央計量検定所報告
55	東海大学紀要. 工学部
56	東海大学短期大学部紀要. 工学研究
57	東京都立工業技術センター研究報告 = Report of the Tokyo Metropolitan Industrial Technic Institute
58	東北学院大学工学部研究報告 = Science and engineering reports of North Japan College
59	東北工業技術試験所報告
60	東北工業大学紀要. I, 理工学編
61	IE / 日本能率協会
62	名古屋工業技術試験所報告
63	日本経営工学会誌
64	日本工業大学研究報告 = Report of researches, Nippon Institute of Technology.
65	日本材料強度学会誌
66	日本複合材料学会誌
67	人間工学 = The Japanese journal of ergonomics
68	熱管理
69	熱測定 : netsu
70	非破壊検査 : journal of N.D.I
71	標準化と品質管理
72	品質管理 = Statistical quality control
73	福山大学工学部紀要
74	科学技術文献サービス : 国立国会図書館月報別冊 = Science & technology information service
75	防衛大学校理工学研究報告
76	技術研究本部技報
77	北海学園大学工学部研究報告
78	北海道工業開発試験所報告 = Reports of the Government Industrial Development Laboratory, Hokkaido
79	日本学術会議第5部集報
80	明治大学科学技術研究所紀要

81	明治大学科学技術研究所年報
82	Energy.
83	マテリアル
84	科学技術庁月報
85	映像情報
86	映像情報. Industrial science : image technology & information display.
87	熱管理と公害
88	硬さと強さの研究
89	業務報告
90	月刊特許と企業
91	日立評論
92	工業教育
93	材料試験技術 = Journal of Material Testing Research Association
94	低温工学 = Cryogenic engineering
95	NRI search
96	バリューエンジニアリング
97	自動制御連合講演会前刷.
98	科学技術庁年報.
99	計量研究所年報
100	太陽エネルギー = Solar energy
101	發明.
102	プロメテウス : 人間と科学技術
103	旭硝子工業技術奨励会年報 = The Asahi Glass Foundation for Industrial Technology annual report
104	技術と経済
105	業績資料 / 神奈川県工業試験所 [編]
106	学術講演会予稿集
107	工業開発研究所紀要
108	日本工業年鑑.
109	材料の疲労に関する研究の趨勢
110	エネルギーレビュー : 広く詳しく正確な情報・評論.
111	技苑 / 関西大学工業技術研究所 [編集]
112	東海大学産業科学研究所所報
113	標準化ジャーナル
114	北海道工業開発試験所技術資料.
115	センサ技術.
116	製品科学研究所年報
117	東北工業技術試験所技術資料
118	Fuji Xerox technical report = 富士ゼロックステクニカルレポート
119	かたさの研究
120	可視化情報 = Journal of the Visualization Society of Japan
121	富士総研技報
122	旭硝子財団年報 = The Asahi Glass Foundation annual report

123	材料と環境 : zairyo to kankyo
124	広島県立東部工業技術センター研究報告 = Bulletin of Industrial Research Institute, Hiroshima Prefecture, East
125	可視化情報学会誌 = Journal of the Visualization Society of Japan
126	東海大学紀要. 開発工学部
127	ソーラーシステム会報
128	日本材料強度学会学術講演会講演論文集
129	研究開発review
130	ADリポート所蔵目録
131	Nomura search
132	NRI search. 経営開発情報
133	PB・ADリポート対照索引.
134	PBリポート所蔵目録
135	QCサークル : 職場とQC.
136	TECH.
137	VE資料.
138	安全衛生年鑑
139	海外科学技術資料月報 = Monthly list of foreign scientific and technical publications
140	科学技術白書
141	技術と文明 : 日本産業技術史学会会誌.
142	九州東海大学産業技術研究所所報
143	工學會誌.
144	工業生産統計調査結果報告
145	工業統計表
146	工業統計表. 工業地区編 = Census of manufactures. Report by industrial district
147	工業統計表. 鋼材編
148	工業統計表. 産業編 = Census of manufactures, Report by industries
149	工業統計表. 市町村編 = Census of manufactures. Report by cities, towns and villages
150	工業統計表. 品目編 = Census of manufactures. Report by commodities
151	工業統計表. 用地・用水編 = Census of manufactures. Report on industrial land and water
152	国際連合エネルギー統計年鑑 = Yearbook of world energy statistics
153	最新先端技術情報年鑑.
154	産業安全に関する研究成果概要集
155	産業安全年鑑
156	自動制御技術.
157	事務機器ガイド.
158	設備年鑑 第1巻 職業訓練校編.
159	設備年鑑 第2巻 機械編.
160	設備年鑑 第4巻 理化学編.
161	設備年鑑 第5巻 農水産編.
162	設備年鑑. 6巻, 医歯薬編.
163	設備年鑑 第7巻 芸術編.

164	設備年鑑. 8巻, 保健・体育編
165	設備年鑑 第9巻 教育情報処理機器編.
166	設備年鑑 第10巻 家政・看護編.
167	戦後の工業統計表. 産業編
168	ソ連工業統計集
169	東海大学開発技術研究所研究報告集
170	東海大学産業科学研究所研究報告 = Proceedings of the Institute of Industrial Science Tokai University
171	特許研究 = Patent studies
172	無機材質研究所年報
173	無人化技術 = Data systems for automated production and material handling.
174	科学技術年鑑
175	計量研究所報告 = Report of the National Research Laboratory of Metrology
176	応用科学学会誌
177	ステム/制御/情報 : システム制御情報学会誌
178	機能材料市場年鑑
179	北海道東海大学紀要. 理工学系
180	産業技術総合研究所報告
181	国士舘大学理工学研究所報告 = Bulletin of Science and Engineering Research Institute, Kokushikan University
182	科学技術要覧
183	最新米国特許ジャーナル. 電気工学・電子工学編.
184	特許庁公報
185	財団法人産業創造研究所紀要
186	工業と製品.
187	特許廳年報
188	工業統計表. 企業多角化等調査編
189	設計製図
190	Ricoh technical report
191	流れの可視化 = Journal of the Flow Visualization Society of Japan
192	明治大学理工学部研究報告 = Research reports, School of Science and Technology, Meiji University
193	日本色彩学会誌
194	KAST report
195	Readout : Horiba technical reports.
196	工業統計表. 企業統計編 = Census of manufactures. Report by enterprises
197	東海大学工学部可視化センタニュース
198	日本ファジィ学会誌.
199	日経マテリアル&テクノロジー = Nikkei materials & technology.
200	物質工学工業技術研究所報告
201	九州工業技術研究所報告 = Reports of the Kyushu National Industrial Research Institute
202	物質工学工業技術研究所年報
203	北海道工業技術研究所報告 = Reports of the Hokkaido National Industrial Research Institute
204	東京学芸大学紀要. 第6部門, 技術・家政・野外教育

205	情報開発研究室所報
206	中国工業技術研究所報告 = Reports of Chugoku National Industrial Research Institute
207	名古屋工業技術研究所報告 = Reports of the National Industrial Research Institute of Nagoya
208	東北工業技術研究所報告
209	設計工学：日本設計工学会誌：journal of Japan Society for Design Engineering
210	流れの可視化写真集
211	可視化情報写真集
212	海外科学技術資料受入目録 = Annual list of foreign scientific and technical publications
213	東北工業技術研究所技術資料
214	北海道工業開発試験所年報
215	北海道工業技術研究所年報
216	シミュレーション
217	太陽
218	月刊新素材 = New materials : technology & applications
219	日本ロボット学会誌 = Journal of the Robotics Society of Japan.
220	新菱冷熱中央研究所報.
221	大阪工業技術研究所季報 = Bulletin of the Osaka National Research Institute, AIST
222	大阪工業技術研究所報告 = Report of the Osaka National Research Institute, AIST
223	研究報告 / 神奈川県産業技術総合研究所 [編]
224	マテリアルフロー = Material flow.
225	東京学芸大学紀要. 第6部門, 技術・家政・環境教育
226	日本経営工学会論文誌 = Journal of Japan Industrial Management Association
227	システム制御情報学会論文誌
228	産業安全研究所研究報告
229	産業安全研究所特別研究報告
230	神奈川県工業生産指数年報
231	素材物性学雑誌
232	日本大学工学部紀要
233	防衛庁技術研究本部技報：技報.
234	神奈川県科学技術白書
235	年報 / 旭硝子工業技術奨励会 = Annual report
236	年報 / 旭硝子財団 [編]
237	研究年報 / 日本放送協会放送技術研究所 [編].
238	研究所報告 / 大阪府立産業技術総合研究所 [編集]
239	神奈川大学工学部報告 = Reports of Faculty of Engineering, Kanagawa University
240	東海大学総合科学技術研究所研究報告集
241	工業統計表. 産業編. 総括版 = Census of manufactures. Report by industries. (Summary)
242	実学史研究
243	スペクトラム：advanced engineering magazine.
244	情報開発センター所報
245	日経ニューマテリアル = Nikkei new materials.
246	不二越技報

247	技報 / 明治ゴム化成 [編]
248	工業統計表. 産業編. 概要版
249	九州東海大学研究年報. 工学部
250	神奈川県工業生産統計調査結果報告 : 神奈川県工業生産指数
251	工業統計表. 企業編 = Census of manufactures. Report by enterprises
252	工業統計表. 總括編
253	産業科学研究所所報
254	工業統計表. 市区町村編 = Census of manufactures. Report by city, town and village
255	情報開発技術センター所報
256	The Sonet systems = ソネットシステム.
257	大阪市立工業研究所報告
258	オートメーション技術.
259	海外技術ハイライト = Technical highlights
260	外国技術導入年次報告
261	科学技術展望
262	規格と標準
263	技術評論
264	技術文献ニュース = Current technical literature
265	計測
266	現場とQC = Quality control for the foreman
267	工業技術 : 通商産業省工業技術院機関誌.
268	工芸研究
269	産業工芸試験所報告
270	自動制御 = Automatic control
271	生産性.
272	全科技聯科学技術蒐録. 8部.
273	東京工業試験所年報
274	東京工業試験所報告
275	Engineers
276	インダストリアル・エンジニアリング
277	科学技術年鑑
278	学術講演会論文集
279	工業統計表. 原材料・燃料編
280	工業統計表. 分布相関編 = Census of manufactures. Report of distribution and correlation
281	動力 : 社団法人日本動力協會會報 = Power : journal of the Japan Power Association
282	エネルギー変換技術
283	研究発表会講演論文集
284	日本太陽エネルギー学会日本風力エネルギー協会合同研究発表会講演論文集
285	北の技術文化
286	可視化情報学会論文集合本 = Transactions of the Visualization Society of Japan
287	材料の科学と工学
288	産総研計量標準報告

289	日経ナノテク年鑑 = Nikkei : annual reports of nanoscience & nanotechnology
290	米国産業年鑑
291	クオリティマネジメント = Quality management
292	工学教育
293	設備年鑑. 第3巻, 電気機器編.
294	知能と情報 : 日本知能情報ファジィ学会誌 : journal of Japan Society for Fuzzy Theory and Intelligent Informatics
295	エネルギー生産・需給統計年報 = Yearbook of coal, petroleum and coke statistics
296	JIS : 標準化と品質管理
297	資源・エネルギー統計年報 : 石油・コークス・金属鉱物・非金属鉱物
298	広島大学大学院工学研究科研究年報 = Bulletin of the Graduate School of Engineering, Hiroshima University
299	西日本工業大学紀要
300	特許行政年次報告書
301	芝浦工業大学研究報告. 理工系編
302	九州東海大学工学部紀要 = Bulletin of School of Engineering Kyushu Tokai University.
303	九州東海大学応用情報学部紀要 = Bulletin of School of Information Science, Kyushu Tokai University
304	エネルギー白書
305	CAD & CG magazine = 月刊キャドアンドシーゾーマガジン
306	大学院研究年報. 理工学研究科篇
307	ソーラーシステム = Solar systems
308	可視化情報学会論文合本集 = Transactions of the Visualization Society of Japan
309	研究報告 / 神奈川県産業技術センター [編]
310	大分大学工学部研究報告
311	防衛省技術研究本部技報.
312	理工学と技術 : 関西大学理工学会誌 = Engineering & technology.
313	労働安全衛生総合研究所特別研究報告 = Specific research reports of National Institute of Occupational Safety and Health
314	Science and technology reports of Kansai University = 関西大学理工学研究報告.
315	九州東海大学応用情報学部・総合教養部紀要 = Bulletin of School of Information Science, Division of Liberal Arts Education, Kyushu Tokai University
316	日本大学法学部知財ジャーナル : 日本大学法学部国際知的財産研究所紀要 = Journal of intellectual property.
317	国土館大学理工学部紀要
318	愛知工業大学研究報告.
319	クリーンテクノロジー = Clean technology
320	システム制御情報学会論文誌
321	東海大学紀要. 生物理工学部
322	機能材料
323	知財ぶりずむ : 知的財産情報会報
324	月刊トライボロジ : 潤滑とシールの技術情報誌 : the Practice and technology of lubrication and sealing.
325	ものづくり白書
326	東海大学紀要. 総合科学技術研究所 = Proceedings of Tokai University. Research Institute of Science and Technology.

327	東海大学紀要. 生物学部
328	JLMA journal = 日本照明工業会報.
329	資源・エネルギー統計年報. 石油 = Yearbook of mineral resources and petroleum products statistics. Petroleum
330	技術士
331	工学院大学共通課程研究論叢.
332	工業加熱
333	ターボ機械
334	圧力技術 = Pressure engineering : journal of Japan High Pressure Institute
335	石川島播磨技報
336	いすゞ技報
337	航空工業年鑑
338	航空宇宙工業年鑑
339	航空情報.
340	機械學會誌
341	機械技術研究所所報
342	機械技術研究所資料
343	機械技術研究所年報
344	機械技術研究所報告
345	機械試験所所報
346	機械試験所報告
347	機械の損害
348	近畿大学原子力研究所年報 = Annual reports of Kinki University, Atomic Energy Research Institute
349	原子力関係資料目録 : 速報
350	原子力工業.
351	航空技術 = Aircraft maintenance engineering
352	航空大学校研究報告
353	航空朝日
354	自動車とその世界
355	自動車技術
356	自動車技術会論文集 = Transactions of the Society of Automotive Engineers of Japan, Inc.
357	自動車工学 = Automobile engineering.
358	車輛工学 = Railway car engineering
359	潤滑 = Journal of Japan Society of Lubrication Engineers
360	住友重機械技報 = Technical review.
361	自動車技術會報
362	精密機械
363	高岳レビュー = Takaoka review.
364	Tokico review
365	航空技術研究所報告 = Technical report of National Aeronautical Laboratory
366	外国原子力機関刊行資料月報
367	日本機械學會誌 = Journal of the Society of Mechanical Engineers.

368	日本機械学会論文集
369	日本機械学会論文集. A編 = Transactions of the Japan Society of Mechanical Engineers. A
370	日本機械学会論文集. B編 = Transactions of the Japan Society of Mechanical Engineers. B
371	日本機械学会論文集. C編 = Transactions of the Japan Society of Mechanical Engineers. C
372	日本原子力学会誌
373	日本原子力研究所年報
374	日本航空宇宙学会誌 = Journal of the Japan Society for Aeronautical and Space Sciences
375	日本航空学会誌 = Journal of the Japan Society of Aeronautical Engineering
376	日本時計学会誌
377	配管技術
378	日野技報 : technical review
379	冷凍
380	油圧 = Oil hydraulics.
381	流体工学
382	冷凍と空調
383	自転車技術情報
384	豊田工機技報 = Toyoda Koki technical review.
385	分析機器
386	応用力学
387	熱機関
388	エンジン
389	エンジンと産業機械
390	航空技術研究所資料
391	航空技術研究所年報
392	革新航空機技術開発に関する研究調査成果報告書
393	航空宇宙工業振興に関する調査
394	航空宇宙技術研究所報告
395	エンジニア : the engineering of machine production
396	自動車技術会会報 : J・S・A・E. news edition.
397	航空宇宙技術研究所資料
398	応用機械工学.
399	原子力総合シンポジウム予稿集
400	飛行機シンポジウム講演集
401	機械の研究.
402	光学技術コンタクト
403	航空原動機に関する講演会講演集
404	航空宇宙技術研究所年報
405	構造強度に関する講演会講演集
406	KURRI-TR
407	日本機械学会講演論文集
408	日本航空宇宙学会講演会(年会)講演集
409	日産ディーゼル技報

410	日産技報 = Nissan technical review.
411	Radioisotopes
412	流体力学講演会講演集
413	東急車輛技報 = Tokyu Sharyo technical review
414	宇宙科学技術連合講演会講演集
415	宇宙科学研究所報告
416	宇宙科学研究所報告. 特集
417	設備と管理.
418	アマダ技術ジャーナル, 19
419	科学衛星将来計画シンポジウム
420	科学衛星シンポジウム
421	機械技術 = The mechanical engineering.
422	機械設計.
423	機械と工具 = Tool engineer.
424	大気球シンポジウム
425	動力炉技報
426	日経メカニカル = Nikkei mechanical
427	NTNベアリングエンジニア.
428	メカトロニクス
429	油圧化設計
430	油空圧化設計 : hydraulics & pneumatics
431	油空圧技術 : 空気圧・油圧技術雑誌 = Hydraulics & pneumatics.
432	精密工学会大会学術講演会講演論文集
433	エバラ時報 = Ebara engineering review.
434	Toyota technical review
435	航空原動機・宇宙推進講演会講演集 = Proceedings of the Conference on Aircraft Engines
436	Koyo engineering journal
437	Motor fan.
438	海外機械工学文献集
439	学術講演会前刷集
440	原子力白書
441	原子力文化
442	航空宇宙技術研究所特別資料 = Special publication of National Aerospace Laboratory : SP
443	自動車年鑑
444	精密工学会誌 = Journal of the Japan Society of Precision Engineering
445	世界航空機年鑑.
446	世界の翼.
447	設備年鑑 第1巻 機械編.
448	核燃料・炉材料分科会予稿集 = Fall meeting in nuclear fuels and materials
449	炉物理・炉工学分科会予稿集 = Meeting in reactor physics and reactor engineering
450	光技術コンタクト
451	メカライフ : 機械系学生の情報誌

452	モーターファン.
453	有人宇宙飛行技術シンポジウム講演集
454	油空圧 = Fluid power
455	Rocket news
456	NTN technical review
457	JWE : 日本風工学研究会誌 : Journal of Wind Engineering
458	航空マガジン = The aviation magazine.
459	機械統計年報
460	原子力通信 = The atomic press.
461	原子力内外情報
462	航空學術外國文献.
463	日本自動車研究所補助事業報告書.
464	真空と材料文献抄録.
465	トライボロジスト
466	ツールエンジニア.
467	科学衛星・宇宙観測シンポジウム
468	宇宙ステーション講演会講演集
469	航空宇宙技術研究所報告 = Technical report of National Aerospace Laboratory
470	プラズマ・核融合学会誌 = Journal of plasma and fusion research
471	伝熱研究
472	バイオメカニズム学会誌 = Journal of the Society of Biomechanisms.
473	油圧と空気圧 = Journal of the Japan Hydraulics & Pneumatics Society
474	日本ガスタービン学会誌
475	精機学会大会学術講演会講演論文集
476	粉碎
477	動燃技報 = PNC technical review
478	原子力eye : くらし・技術・産業 : げんしりょくあい : nuclear viewpoints.
479	Komatsu technical report
480	革新航空機技術開発に関する調査研究成果報告書
481	Tokyu car technical review = 東急車輛技報.
482	日本航空宇宙学会論文集 = Journal of the Japan Society for Aeronautical and Space Sciences
483	伝熱 : journal of the Heat Transfer Society of Japan
484	内燃機関
485	トヨタ技術
486	日経エアロスペース = Nikkei aerospace
487	宇宙ステーション講演会有人宇宙飛行技術シンポジウム講演集
488	FAPIG
489	アメリカ原子力委員会寄贈文献目録
490	エハラ時報
491	外国原子力関係機関刊行資料目録
492	外国航空・宇宙文献目録
493	機械エンジニア

494	機械技術協会会報
495	機械振興 = Promoting machine industry in Japan
496	原子力国内事情
497	原子力シンポジウム報文集
498	原子力調査季報
499	航空記事.
500	機械試験所資料
501	機械試験所年報
502	日本航空學會誌 = The journal of the Society of Aeronautical Science of Nippon
503	日本航空工業会々報 : S.J.A.C
504	ねじ
505	年報
506	パワーデザイン : ハイドロリクス・ニューマチックス & メカトロニクス.
507	三菱重工技報 = Mitsubishi Heavy Industries technical review
508	原子力海外事情
509	原子力資料
510	産業機械
511	日本原子力学会年会要旨集 = Annual Meeting of the Atomic Energy Society of Japan
512	自動車年鑑ハンドブック = Automotive years hand book
513	機械受注統計調査年報
514	日本原子力学会和文論文誌 = Transactions of the Atomic Energy Society of Japan
515	Thermal science and engineering.
516	サイクル機構技報
517	飛行機シンポジウム講演集 = Proceedings of the ... Aircraft Symposium
518	日経ものづくり.
519	先端航空機部品・素材技術に関する調査研究成果報告書
520	フルードパワー
521	自動車年鑑 = Automotive yearbook
522	宇宙航空研究開発機構契約報告
523	宇宙航空研究開発機構研究開発資料
524	JAXA research and development report
525	宇宙航空研究開発機構特別資料.
526	エンジンテクノロジー = Engine technology.
527	Honda R & D technical review.
528	宇宙航空研究開発機構年報
529	JTEKT engineering journal.
530	未来を拓く原子力 : 原子力機構の研究開発成果.
531	宇宙科学技術連合講演会アブストラクト集 = Book of abstracts the Space Sciences and Technology Conference
532	原子力施設運転管理年報
533	自動車技術文献抄録誌

534	航空原動機・宇宙推進講演会講演論文集 = Proceedings of the Conference on Aerospace Propulsion and Power
535	航空原動機・宇宙推進講演会アブストラクト集 = Abstracts of the Conference on Aerospace Propulsion and Power
536	生体の科学 = Medical science
537	流体力学講演会
538	年会講演会講演集
539	総合車両製作所技報 = J-TREC technical review
540	原子力機構の研究開発成果.
541	経済産業省生産動態統計年報. 機械統計編
542	秋の分科会予稿集 = Fall meeting of the Atomic Energy Society of Japan
543	宇宙科学技術連合講演会講演集 = Proceedings of the Space Sciences and Technology Conference
544	CG car graphic.
545	ドライバー = Driver.
546	航空ファン.

国内雑誌 546種

No.	誌名 (国外雑誌)
1	American exporter industrial : monthly journal of American industrial development and exports
2	AIIE transactions / American Institute of Industrial Engineers
3	Advances in control systems : theory and applications
4	Automation
5	Ergonomics : an international journal devoted to the scientific study of human factors in relation to working environments and equipment design : the official publication of the Ergonomics Society International Ergonomic
6	Energy policy
7	Ergonomics abstracts
8	Engineering costs and production economics
9	Factory management
10	Human factors : the journal of the Human Factors Society
11	Industrial training abstracts
12	Icarus
13	International journal of production research / American Institute of Industrial Engineers
14	International journal of systems science
15	Journal of the Institute of Energy
16	Large scale systems
17	Messtechnik
18	Networks : an international journal
19	Optimal control applications & methods
20	Production engineering
21	Production and inventory management : the journal of the American Production and Inventory Control Society
22	Quality control and applied statistics
23	Journal of the Society for Industrial and Applied Mathematics
24	SIAM review / Society for Industrial and Applied Mathematics
25	Solar age / Solarvision Inc
26	Solar cells
27	Solar energy : journal of solar energy science and engineering / the Association for Applied Solar Energy
28	The journal of solar energy science and engineering
29	Solar energy materials
30	Times review of industry N.S
31	Technisches Messen tm
32	VDI Zeitschrift / Verein Deutscher Ingenieure
33	Zeitschrift des Vereins Deutscher Ingenieure
34	Proceedings of the annual meeting / American Society for Testing Materials
35	ASTM special technical publication / American Society for Testing Materials
36	Applied energy : an international journal

37	Applied ergonomics : man-machine-environment-systems technology
38	Applied mathematics and optimization
39	Automatica : the international journal on automatic control and automation
40	Automation and remote control / Academy of Science of the USSR
41	Bulletin of the National Research Laboratory of Metrology
42	Directory of published proceedings
43	Ekistics : reviews on the problems and science of human settlements
44	Energy : the international journal
45	The Engineer
46	Engineering materials and design
47	E.M. & D. engineering materials and design
48	Engineering news-record
49	Safety maintenance
50	Factory
51	Forschung im Ingenieurwesen / Verein Deutscher Ingenieure
52	Forschung auf dem Gebiete des Ingenieurwesens
53	Government reports announcements / National Technical Information Service
54	Government reports announcements & index / U
55	ISA transactions / Instrument Society of America
56	Industrial engineering
57	Industrial heating
58	Industrial quality control
59	The Industrial robot
60	Instrumentation technology : an ISA publication / Instrument Society of America
61	ISA journal : the journal of the Instrument Society of America
62	Instruments and control systems
63	Instruments and automation
64	International journal of control
65	International journal for numerical methods in engineering
66	Journal of energy / American Institute of Aeronautics and Astronautics
67	Journal of guidance and control
68	Journal of quality technology
69	Journal of research of the National Bureau of Standards / United States Department of Commerce
70	Journal of research of the National Bureau of Standards
71	Journal of structural mechanics
72	Journal of vacuum science and technology / American Vacuum Society
73	Kybernetes / Thales Publications(W
74	Manufacturing engineering
75	Manufacturing engineering and management

76	Materialprüfung
77	Materials engineering
78	Materials in design engineering
79	Materials evaluation : an official journal of the Society for Nondestructive Testing
80	Materials research bulletin : an international journal reporting research on crystal growth and materials preparation and characterization
81	Materials research & standards : bulletin of American Society for Testing Materials / American Society for Testing Materials
82	Materials science and engineering
83	Measurement and control
84	Metrologia
85	Microtecnic
86	Periodica polytechnica, 19--
87	Photogrammetric engineering and remote sensing
88	П р и к л а д н а я м а т е м а т и к а и м е х а н и к а
89	Proceedings of the Faculty of Engineering of Tokai University
90	Quality progress : the monthly magazine of the American Society for Quality Control / the American Society for Quality Control
91	Quarterly of applied mathematics
92	Regelungstechnik
93	Regelungstechnische Praxis : Steuern, Regeln und Automatisieren in Betrieb
94	Report of the Research Institute of Industrial Technology, Nihon University
95	Solid state communications
96	Technical translations / United States Department of Commerce
97	VDI Forschungsheft
98	Communications in applied numerical methods
99	CA selects
100	Control, theory and advanced technology
101	Engineering computations : international journal for computer-aided engineering and software
102	Finite elements in analysis and design : the international journal of applied finite elements and computer aided engineering
103	International journal of operations & production management
104	Journal of robotic systems
105	Proceedings of the
106	Process automation : measurement and control engineering
107	Chilton's instruments & control systems
108	Cybernetics and systems
109	EM & D : journal of engineering materials, components and design
110	Fatigue & fracture of engineering materials & structures
111	Industrial statistics yearbook
112	InTech : an ISA publication : instrumentation technology

113	Materials science & technology : incorporating Metal science and Metals technology / the Institute of Metals
114	Proceedings / American Society for Testing and Materials
115	Proceedings / American Society for Testing Materials
116	Report of the Research Institute of Science and Technology, Nihon University
117	Zeitschrift des Vereines Deutscher Ingenieure
118	Applied mathematics and mechanics
119	Bulletin of science, technology & society
120	Transactions of the ASME
121	Journal of guidance, control, and dynamics : a publication of the American Institute of Aeronautics and Astronautics devoted to the technology of dynamics and control
122	The International journal of robotics research
123	Journal of trace and microprobe techniques
124	Solar & wind technology : an international journal
125	Materials letters
126	Journal of vacuum science & technology
127	Mechanics of materials : an international journal
128	Journal of energy engineering
129	Ergodic theory and dynamical systems
130	Chilton's I & C S : the industrial and process control magazine
131	IIE transactions
132	History and technology
133	EMD engineering materials & design
134	ENR
135	Connection science : journal of neural computing, artificial intelligence and cognitive research
136	Renewable energy : an international journal
137	International journal of production economics
138	Controls & systems : the magazine of systems solutions for industry
139	Solar energy materials and solar cells
140	WT : Produktion und Management / VDI-Gesellschaft Produktionstechnik
141	Energy balances and electricity profiles
142	Engineered materials abstracts : EMA
143	Information and decision technologies
144	The International journal of applied engineering education
145	International journal of industrial ergonomics
146	Bureau of Standards journal of research
147	Large scale systems in information and decision technologies
148	Materials and processing report : MPR
149	Materials science & engineering
150	Materials science reports

151	Materialwissenschaft und Werkstofftechnik
152	Mechanics of structures and machines
153	Probability in the engineering and informational sciences
154	Production and inventory management journal : the journal of the American Production and Inventory Control Society, Inc
155	Robotersysteme
156	SIAM news : a publication of Society for Industrial and Applied Mathematics
157	Standardization news : ASTM / American Society for Testing & Materials
158	Systems analysis, modelling, simulation
159	Materials transactions, JIM
160	Neue Technik = New techniques, 19--
161	International journal of flexible manufacturing systems
162	Eureka
163	Resources and energy : a journal devoted to interdisciplinary studies in the allocation of natural resources
164	Journal of materials science
165	Systems & control letters
166	Control and dynamic systems : advances in theory and applications
167	Journal of composite materials
168	Journal of optimization theory and applications
169	Communications in numerical methods in engineering
170	The International journal [of] advanced manufacturing technology
171	Materials science forum
172	Materials and structures
173	Resource and energy economics
174	Album of visualization / the Visualization Society of Japan
175	International journal of the Society of Materials Engineering for Resources
176	Measurement + control
177	IIE solutions
178	Materials science research international
179	Proceedings of the School of Engineering of Tokai University
180	Scripta materialia
181	Progress in applied materials research
182	Composites industry abstracts / the Institute of Materials
183	Natural gas statistics sourcebook
184	Annual review / National Institute of Materials and Chemical Research
185	Journal of sound and vibration : an official medium of publication for the Institute of Acoustics
186	Crystal engineering
187	International journal of bifurcation and chaos in applied sciences and engineering

188	Educational technology / Educational News Service
189	Reports of Research Institute for Applied Mechanics, Kyushu University
190	International journal of impact engineering
191	Materials transactions
192	Perspectives on global development and technology : PGDT
193	Fusion science and technology : an international journal of the American Nuclear Society
194	Mechanics based design of structures and machines : an international journal
195	Numerical functional analysis and optimization
196	Journal of the Energy Institute
197	Journal of field robotics
198	Journal of legal affairs and dispute resolution in engineering and construction
199	Flexible services and manufacturing journal
200	Journal of nanomechanics & micromechanics / American Society of Civil Engineers, Engineering Mechanics Institute
201	Astronautics and aerospace engineering
202	Aviation week and space technology
203	Aeronautical engineering review
204	Business commercial aviation
205	International journal of fracture mechanics
206	Interavia : revue de l'aeronautique mondiale
207	Jet propulsion : journal of the American Rocket Society / American Rocket Society
208	Journal of the aeronautical sciences
209	Journal of nuclear energy
210	Journal of the Society of Motion Picture Engineers
211	Transactions of the ASME
212	Journal of heat treating
213	Missiles and rockets
214	Nuclear engineering
215	Numerical heat transfer : an international journal of computation and methodology
216	Radiation effects letters
217	S.A.E. journal
218	The SAE journal of automotive engineering / Society of Automotive Engineers
219	SMPTE journal
220	Style auto / Style Auto Editrice
221	Transactions of the Society of Motion Picture Engineers
222	AIAA bulletin / American Institute of Aeronautics and Astronautics
223	AIAA journal / American Institute of Aeronautics and Astronautics
224	Aerial age weekly
225	Aero digest
226	The Aeronautical journal / the Royal Aeronautical Society

227	The Journal of the Royal Aeronautical Society
228	The Aeronautical quarterly
229	Aeronautics
230	Aeroplane
231	Aeroplane and astronautics
232	Aerospace engineering
233	Aerospace facts and figures / Aerospace Industries Association of America
234	Flying safety / United States Air Force
235	Air University quarterly review / Air University
236	Aircraft accident and maintenance review / U
237	Aircraft engineering
238	Aircraft production : the journal of the aircraft manufacturing industry
239	American aviation
240	Airlift : world air transportation
241	American machinist
242	Annales de l'Institut technique du batiment et des travaux publics
243	Annual report of the National Advisory Committee for Aeronautics
244	Applied mechanics reviews : AMR : an assessment of the world literature in engineering sciences / the American Society of Mechanical Engineers
245	Astronautica acta / International Astronautical Federation
246	Astronautics & aeronautics
247	Atomics and nuclear energy
248	The automobile engineer
249	Automotive engineer
250	Automotive engineering
251	Automotive industries
252	Aviation week
253	Battelle technical review / Battle Memorial Institute
254	British engineering
255	Bulletin of mechanical engineering education / the University of Manchester
256	The Chartered mechanical engineer : the journal of the Institution of Mechanical Engineers
257	Draht, 195-
258	Engineering fracture mechanics
259	Feinwerktechnik + Micronic
260	Flight international
261	Flight and the aircraft engineer
262	Flight : aircraft, spacecraft, missiles
263	Flugwelt
264	Flying
265	Hydraulic pneumatic power

266	Hydraulics & pneumatics
267	ICRU report / International Commission on Radiation Units and Measurements
268	International aerospace abstracts
269	International journal of fracture
270	International journal of machine tool design & research
271	International journal of mechanical sciences
272	International journal of non-linear mechanics
273	Journal of aircraft
274	Journal of the American Helicopter Society
275	Journal of fluid mechanics
276	The Journal of industrial engineering
277	Journal of Mechanical Laboratory of Japan / Government Mechanical Laboratory
278	Journal of nuclear science and technology
279	Journal of spacecraft and rockets / American Institute of Aeronautics and Astronautics
280	Journal of strain analysis for engineering design
281	Kraftfahrzeugtechnik
282	Luftfahrttechnik
283	Machine design
284	Machinery
285	Machinery and production engineering
286	Mechanical engineering
287	Memoirs of the Faculty of Engineering, Osaka City University
288	Technical report / National Aeronautics and Space Administration
289	Nuclear engineering and design
290	Nuclear news
291	Nuclear safety : a review of recent developments
292	Nuclear technology
293	Nucleonics
294	Power
295	Power engineering
296	Production : America's mass production metalworking authority
297	Pumps-pompes-pumpen
298	Radiation effects
299	SAE transactions / Society of Automotive Engineers
300	Journal of the S.M.P.T.E
301	Scientific and technical aerospace reports
302	Shell aviation news
303	Soviet applied mechanics : a translation of Prikladnaya Mekhanika
304	Soviet engineering journal

305	Space aeronautics
306	Aviation age
307	Tokai works semi-annual progress report / Tokai Works, Power Reactor & Nuclear Fuel Development Corporation
308	Tokai works annual progress report / Tokai Works, Power Reactor & Nuclear Fuel Development Corporation
309	Transactions of Japan Society for Aeronautical and Space Sciences
310	Tribology international
311	Wear : an international journal on the Science and Technology of Friction, Lubrication and Wear
312	Wear, Usure, Verschleiss : an international journal on fundamentals of friction, lubrication, wear, and their control in industry
313	Experiments in fluids : experimental methods and their applications to fluid flow
314	Radiation effects letters section
315	Theoretical and applied fracture mechanics
316	Cumulative index to Transactions of the ASME
317	Fluid power international incorporating compressed air and hydraulics
318	Nuclear engineering and design/fusion : an international journal devoted to the thermal, mechanical, materials, structural, and design problems of fusion energy
319	Proceedings of the Institution of Mechanical Engineers
320	Combustion
321	Radiation protection dosimetry
322	Computers in mechanical engineering : CIME
323	The Institute of Space and Astronautical Science report
324	Aerospace America
325	Thin - walled structures
326	The Engineering index annual
327	Naval aviation news
328	American machinist & automated manufacturing : AM
329	Computational mechanics
330	Bulletin of GTSJ / Gas Turbine Society of Japan
331	Aerospace year book / Aerospace Industries Association of America (AIA)
332	Aircraft engineering and aerospace technology
333	Annual index/abstracts of SAE technical papers
334	Astronautics year : An international astronautical and military space / Missile review
335	Aviation age : R & D Technical handbook
336	Aviation news digest
337	Joint Services recognition journal
338	The Journal of space technology and science : a publication of Japanese Rocket Society
339	Machine age
340	Professional engineering : the magazine of the Institution of Mechanical Engineers / Institution of Mechanical Engineers

341	Р е ф е р а т и в н ы й ж у р н а л
342	Space aeronautics : R & D technical handbook
343	Space policy
344	Space technology international
345	Sport aviation, 19--
346	Transactions of the Institution of Diesel and Gas Turbine Engineers
347	Vibration engineering : translated from Vibrotekhnika
348	Western aviation
349	Index of NACA technical publications / National Advisory Committee for Aeronautics
350	A.S.M.E. Paper.
351	Progress in aerospace sciences
352	Journal of propulsion and power
353	Numerical heat transfer
354	Fusion engineering and design
355	Radiation effects and defects in solids
356	JSME international journal
357	Advances in heat transfer
358	Annual review of heat transfer
359	Computational mechanics advances
360	Advances in applied mechanics
361	Progress in astronautics and aeronautics / American Institute of Aeronautics and Astronautics
362	International journal of the Japan Society for Precision Engineering
363	Moscow University mechanics bulletin
364	International journal of engine research
365	Aircraft design : an international journal
366	Advances in nuclear science and technology
367	Radiation effects express section
368	Product engineering
369	Progress in astronautics and rocketry
370	Annual review of numerical fluid mechanics and heat transfer
371	Proceedings of Asian Joint Conference on Propulsion and Power
372	Abstracts of Asian Joint Conference on Propulsion and Power
373	IAEA R&D review
374	SAE International journal of commercial vehicles
375	SAE International journal of aerospace
376	SAE International journal of engines
377	SAE International journal of passenger cars
378	SAE International journal of materials and manufacturing
379	SAE International journal of fuels and lubricants

380	Journal of pipeline systems engineering and practice
381	Progress in aeronautical sciences
382	SAE International journal of alternative powertrains
383	SAE International journal of transportation safety
384	American machinist, metalworking manufacturing
385	SAE International journal of vehicle dynamics, stability, and NVH

国外雑誌 385種

学生確保の見通し等を記載した書類
工学部機械システム工学科

【本文目次】

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況…p. 2
 - (1) 学生の確保の見通し…p. 2
 - 1) 定員充足の見込み…p. 2
 - 2) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要…p. 3
 - 3) 学生納付金の設定の考え方…p. 4
 - (2) 学生確保に向けた具体的な取組状況…p. 5
2. 人材需要の動向等社会の要請…p. 8
 - (1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）…p. 8
 - (2) 上記（1）が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠…p. 8

学生の確保の見通し等を記載した書類

工学部機械システム工学科

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

1) 定員充足の見込み

工学部機械システム工学科の入学定員は、受験生の動向、社会からのニーズ、入学定員を確保できる人数等を踏まえ、教育研究体制を永続的に維持可能な体制として、入学定員を 140 名、収容定員を 560 名として教育研究活動を開始する計画である。

①全国的な傾向からの分析

定員を充足できる根拠は次のとおりである。工学部機械システム工学科の学位の分野「工学関係」が含まれる「理・工学系」の過去 5 年の学部数、志願倍率、入学定員充足率状況（【資料①－１】【資料①－２】「令和 2（2020）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）P.26・33）をみると、【資料①－１】のとおり、学部数は微増ながら増加傾向であることに對し、志願倍率も増加傾向を示しており、令和 2 年度については 13 倍を超える水準に達しており、定員充足率も 100%を満たしている状況である。このうち、【資料①－２】のとおり、本学科と類似した学部に焦点を絞ってしてみると、令和 2 年度においては、「工学部」は約 12.0 倍、「理工学部」は約 15.7 倍となっており、【資料①－１】の動向と同様に、倍率に多少の幅はあるものの、入学定員を大幅に超える進学希望者が存在することが明らかであり、工学部機械システム工学科が受け持つ学問分野について高い需要があると分析される。

②将来性についての分析

東海大学は、全国に 19 学部（令和 3 年現在。募集停止学部を除く。）を展開している大規模大学である。工学部機械システム工学科は湘南キャンパス（平塚市）で学修を進める計画である。現在、湘南キャンパスには、約 18,000 名程度の学部生が在籍しており、在学生の 6 割程度が首都圏（神奈川県、東京都、千葉県）からの学生である。特に、地元神奈

川県内の学生が、湘南キャンパスに通う学生全体の5割程度を占めている。また、4割程度は、首都圏以外、全国から入学してくる学生である。また、同様に、全国に14校設置されている付属高校からの入学希望者も一定数存在している。

将来的にみると、18歳人口の減少は避けられない状況であるが、本学の通学圏である首都圏においては、その減少率は低いものであることに加え、【資料①-3】のとおり大規模大学は、高い水準で志願者を確保していることから、この総合大学・大規模大学のスケールメリットを活用した教育体制により、上記①の傾向が続くものと分析している。

2) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

①今後の人口動態

文部科学省「学校基本調査」のデータをもとに分析された、「18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向」(2020年度版) (リクルート進学総研) に依れば、全国の18歳人口の推移は、【資料②】のとおり「2020年116.7万人→2032年102.3万人」となり、「約14.4万人/12.3%」が減少するとの予想が立てられている。

一方、本学の入学者の半数程度を占めると考えられる神奈川県18歳人口の推移【資料③】については、「2020年79,403人→2032年73,550人」と、減少率は「7.4%」であり、全国の減少幅(約12.3%)に比べて、比較的小さいことが分かる。同様に、東京都をみると「0.6%」ではあるが微増の予測がなされており、東京への人口集中の傾向が続くと判断される。

【資料④】をみると、①進学率の上昇により、大学進学者数が増加していることに加え、②神奈川県における地元残留率は低下傾向にあるものの38.9%を維持している。さらに、この県内外の移動状況の詳細をみると、東京都への流出が1位であると同時に、東京都からの流入も1位であることが分かる。この傾向から、神奈川県と東京都は補完しあいながら、同じ生活圏・通学圏内として成立していることもわかる。

以上の状況から、本学の通学圏内である神奈川県と東京都は、18歳人口の減少の影響は生じるものの、比較的影響は小さい状況が継続すると予測される。そして、現在の進学者の傾向を維持しつつ、入学定員を超える一定数の志願者数を確保することが可能であると、判断することが

できる。

②類似する分野への大学進学状況

さらに詳しく分析するため、【資料⑤】「リクルート 入試実態調査」により、学部系統「理工学部」「工学部」の10年間の動向を確認していく。全国、一都三県、神奈川県のみにおいても、「理工学部」においては、2020年度（令和2年度）には、17倍～18倍の高い志願倍率となっており、「工学部」においては、10年前から志願者数は大幅に増加し、志願倍率も10倍を超える高い水準になっている。

また、【資料⑥】のとおり、工学部機械システム工学科と競合する可能性のある、類似した学部学科の動向をみても、2020年度（令和2年度）には、【資料⑤】と同様に、10倍を超える高い志願倍率を維持しており、本学科においても志願者数の確保を見込むことができる。

③既設の学部における定員充足状況

既存学部等の定員充足状況については、【資料⑦】のとおり、既設学科の工学部動力機械工学科（入学定員150名）の6年間の状況をみると、志願倍率は最低でも3.9倍を確保している。工学部機械システム工学科の入学定員は、140名を設定しており、志願者数が入学定員を大幅に超えている状況であることに加え、上記①②の傾向から分析しても、入学定員を超える一定数の志願者の確保は可能であると判断することができる。

3) 学生納付金の設定の考え方

納付金については、大学として適切な教育研究環境を構築・維持するのみならず、これからの社会の変化に対応した施設・設備の充実にも対応した、大学経営の根幹に係る財務状況を踏まえるとともに、受益者である学生への説明責任を重視する一方、近隣の他大学の学生納付金の設定状況も勘案した上で、完成年度に収支均衡を図れることを前提に適切に設定した。下表のとおり、【資料⑥】に記載する競合校の学納金と比較しても概ね範囲内に収まっており、適切な納付金であると判断している。

競合する大学 学部学科	入学 定員	入学金	授業料	設備施設費	その他 (諸会計等)	合計
東海大学 工学部 機械システム工学科	140	200,000	1,354,000		59,200	1,613,200
工学院大学 工学部 機械システム工学科	105	250,000	1,080,000	310,000	41,160	1,681,160
湘南工科大学 工学部 機械工学科	100	200,000	1,030,000	270,000	29,660	1,529,660
神奈川工科大学 工学部 機械工学科	120	200,000	1,370,000		62,000	1,632,000

注１）本学以外の各大学の情報は、2021年4月時点の公式ウェブサイトにより調査。

注２）各大学の学生納付金の記載方法は、各大学の公表方法に基づく。

（２）学生確保に向けた具体的な取組状況

学生確保に向けて、大学として、全学的・組織的に学生確保に向けた入試広報を行っている。その方針としては、受験生、保護者、高等学校等の教員に対し、本学の学部・学科等の周知活動を行うだけでなく、大学への進路希望者に対して、体験授業や各学問分野別の紹介等、高校生の進路選択のサポート活動を行うことである。

令和２（2020）年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各種行事の多くが中止となってしまったが、通常は以下①から⑥のとおりオープンキャンパス等を実施している。中止となってしまった令和２（2020）年度については Web Open Campus と称し、自宅からでも参加できる「360° キャンパスツアー」、「バーチャルキャンパスツアー」等により実際のキャンパス環境についての確認ができるように対応したことに加え、各学科においては、動画にて、学部学科の案内等について、場所・時間に関係なく、「興味を持った受験生がいつでも確認することが出来る環境」を整えている。

また、HPや各種広告媒体等や高校訪問などを通じて、本学への受験、入

学者希望者を増やすことを目指すだけでなく、「入試対策講座」の開催や、体験授業等を行い、高校生の進学へのサポート活動も積極的に行っている。

今後の取組としては、コロナ禍により整備されたW e b等の媒体と、オープンキャンパス・体験授業等各種イベント等の対面で行う活動を融合し、周知活動等を進める計画である。

①オープンキャンパス（対面、オンライン）計画

- ・2021年度東海大学開催オープンキャンパス（予定）

対面：6月20日（日）、8月21（土）、8月22日（日）、3月13日（日）

〔学科説明、個別面談、キャンパス見学〕

W E B：7月、8月

- ・入試対策講座（6月、8月、10月）
- ・進学相談会、キャンパス見学会
- ・全国開催進学相談会（約350会場を予定。実施は未定。）

②H P【受験生・高校教員向け】受験生情報サイト・S N Sからの情報発信

Y o u t u b eチャンネル（東海大学公式）配信動画

■ 東 海 大 学 ホ ー ム ペ ー ジ 受 験 生 情 報 サ イ ト

(<http://www.tokai-adm.jp/>)

■ 東 海 大 学 「 日 本 ま る ご と 学 び 改 革 実 行 プ ロ ジ ェ ク ト 」

(<https://tokai-marugoto.jp/>)

③高校訪問

高校訪問をして、進路・キャリア形成に関する講話を行う。本学への進学についてのP Rだけではなく、進路の選び方、入学試験の種類等、高校生の大学進学をサポートを行っていく計画である。

④大学入試説明会（高校教員対象）：5月～6月にW e bでの開催を予定。

⑤各種メディアからの情報発信（受験情報サイト、メディア企画）

⑥出願促進プロモーション

S N S 広告、エリアアド、コンビニ広告

交通広告、出願促進DM（全国の接触者対象）

以上の説明のとおり、全国的な「受験者数」や、分野別の「志願者の動向」、既設学部等における「志願者数、志願倍率、入学者数等の実績」に加え、学生確保に向けて具体的な取組を行うことにより、入学定員を満たすことができると確信することができる。

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

工学部機械システム工学科の教育研究上の目的は、機械システムの最新かつ高度な専門知識を習得するとともに、社会を構成する各分野の問題点や課題に対する「システム工学に立脚した多面的な考え方」と「倫理観」、「人と人、人と情報などを結びつけるコーディネート力」を身に付けて、「現代文明が抱える諸問題の解決を目指し、国際的視野から社会と産業の発展に貢献」する人材を養成する。

(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）に記載されている通り、急激に変化していく現代社会において、産業界においても新しい事業開発や国際化の進展により、「高度な専門知識を持ちつつ普遍的な見方のできる能力と具体的な業務の専門化に対応できる専門的なスキル・知識」を持った人材が求められている。工学部機械システム工学科においては、上記のとおり急激な社会の変化に対応し、課題を発見し、身に付けた専門性と、多面的な物事の捉え方、そして人と人、人と情報を結び付けるコーディネート力により、倫理観をもって諸問題を解決していく力を身に付けた人材を育成していく計画であり、将来的に必要とされる人材像と合致している。

工学部機械システム工学科は、工学部動力機械工学科を基礎として設置する計画であり、現状から分析すると、【資料⑧】のとおり、既設学科が育成する人材へのニーズは多岐に渡り、製造業を中心に、多様な分野へ卒業生が就職していることが分かる。また、【資料⑨】のとおり、2018 年度は 99.3%、2019 年度は 100%となっており、実数においても就職率は高い水準となっている。

加えて、本学への求人については、【資料⑩-1】の状況となっており、卒業生の数を大幅に超えており、【資料⑩-2】のとおり、全国から求人が寄せられている。工学部機械システム工学科においても、その教育研究上の目的から、【資料⑧】と同様に、多様な分野への就職を目指していくことから、様々な分野からのニーズに応え、課題解決を目指して社会で活躍していく人材を、引き続き輩出していくと確信している。以上の状況から、工学部機械システム工学科の教育研究上の目的は、社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであると判断される。

以 上

学生確保の見通し等を記載した書類

工学部機械システム工学科

【資料目次】

【資料①-1】令和2（2020）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）P. 26）…p. 2

【資料①-2】令和2（2020）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）P. 33）…p. 2

【資料①-3】「令和2（2020）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）令和2年10月）37ページより抜粋。…p. 2

【資料②】リクルート進学総研マーケットリポート Vol. 82 2021年3月号「18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向」（2020年度版）6ページより抜粋…p. 3

【資料③】リクルート進学総研マーケットリポート Vol. 86 2021年4月号「18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 南関東版」（2020年度版）2ページより抜粋…p. 3

【資料④】リクルート進学総研マーケットリポート Vol. 86 2021年4月号「18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 南関東版」（2020年度版）15ページより抜粋…p. 4

【資料⑤】「リクルート入試実態調査」による統計…p. 5

【資料⑥】リクルート「入試実態調査」より集計…p. 6

【資料⑦】既設学科の学生確保の状況…p. 6

【資料⑧】既設学科の就職先…p. 7

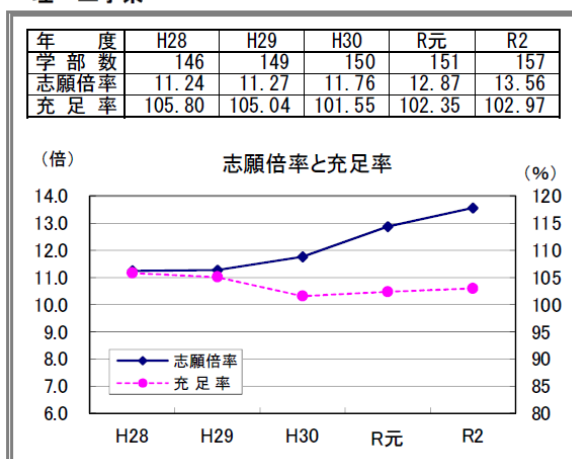
【資料⑨】既設学科の就職決定率…p. 8

【資料⑩-1】東海大学産業別求人会社数…p. 8

【資料⑩-2】東海大学地域別求人会社数…p. 9

【資料①-1】

理・工学系



「令和2（2020）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）P. 26）

【資料①-2】

5. 主な学部別の志願者・入学者動向（大学）

学部名称の表記は、集計数3以上の学部とし、集計数2以下は「その他」とした。

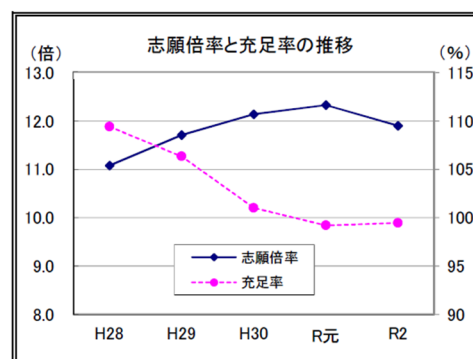
系 統 区 分	集計学部数			入学定員(人)			志願者(人)			入学者(人)			入学定員充足率(%)		
	R元年度	R2年度	増減	R元年度	R2年度	増減	R元年度	R2年度	増減	R元年度	R2年度	増減	R元年度	R2年度	増減
工学部	49	48	△ 1	22,979	22,010	△ 969	256,256	265,197	8,941	24,293	23,507	△ 786	105.72	106.80	1.08
理工学部	29	30	1	18,441	18,581	140	275,555	292,296	16,741	18,318	18,496	178	99.33	99.54	0.21

「令和2（2020）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）P. 33）

【資料①-3】

大規模大学（収容定員8000人以上）

年 度	H28	H29	H30	R元	R2
学校数(校)	43	44	46	46	48
入学定員(人)	184,729	191,963	200,368	201,139	206,375
志願者(人)	2,047,202	2,247,102	2,432,551	2,480,804	2,455,871
受験者(人)	1,958,074	2,150,641	2,330,257	2,367,125	2,329,872
合格者(人)	595,366	583,179	558,289	572,392	647,736
入学者(人)	202,106	204,136	202,399	199,522	205,266
志願倍率(倍)	11.08	11.71	12.14	12.33	11.90
合格率(%)	30.41	27.12	23.96	24.18	27.80
歩留率(%)	33.95	35.00	36.25	34.86	31.69
充足率(%)	109.41	106.34	101.01	99.20	99.46



「令和2（2020）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」

（日本私立学校振興・共済事業団）令和2年10月）37ページより抜粋。

【資料②】

		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年
全体 計	人数	1,167,348	1,141,140	1,121,285	1,097,416	1,062,870	1,089,970	1,092,118	1,086,573	1,070,466	1,068,289	1,049,877	1,034,548	1,023,963
	指数	100.0	97.8	96.1	94.0	91.0	93.4	93.6	93.1	91.7	91.5	89.9	88.6	87.7
北海道	人数	45,674	45,007	44,276	42,489	41,028	41,853	41,256	41,087	40,148	40,064	39,321	38,302	37,985
	指数	100.0	98.5	96.9	93.0	89.8	91.6	90.3	90.0	87.9	87.7	86.1	83.9	83.2
東北	人数	83,524	80,269	78,146	75,379	71,809	73,104	72,063	71,026	69,024	68,469	66,592	65,270	65,431
	指数	100.0	96.1	93.6	90.2	86.0	87.5	86.3	85.0	82.6	82.0	79.7	78.1	78.3
北関東	人数	66,380	64,677	63,720	61,863	59,667	60,662	60,090	59,374	58,555	57,023	55,612	54,815	53,543
	指数	100.0	97.4	96.0	93.2	89.9	91.4	90.5	89.4	88.2	85.9	83.8	82.6	80.7
南関東	人数	305,457	301,999	299,356	294,497	286,935	296,205	298,790	297,810	295,937	295,254	289,575	289,332	288,670
	指数	100.0	98.9	98.0	96.4	93.9	97.0	97.8	97.5	96.9	96.7	94.8	94.7	94.5
甲信越	人数	49,897	47,817	46,907	45,536	44,033	44,794	44,084	43,684	42,239	42,396	41,412	40,210	39,726
	指数	100.0	95.8	94.0	91.3	88.2	89.8	88.4	87.5	84.7	85.0	83.0	80.6	79.6
北陸	人数	29,004	27,814	27,545	26,692	26,008	26,219	26,256	25,852	25,177	24,413	24,515	23,760	23,613
	指数	100.0	95.9	95.0	92.0	89.7	90.4	90.5	89.1	86.8	84.2	84.5	81.9	81.4
東海	人数	145,478	143,651	140,510	138,309	133,550	137,154	137,505	136,524	134,543	134,593	132,524	129,893	127,045
	指数	100.0	98.7	96.6	95.1	91.8	94.3	94.5	93.8	92.5	92.5	91.1	89.3	87.3
近畿	人数	195,001	190,286	185,626	181,639	175,501	179,248	179,159	178,700	174,848	174,490	171,960	168,797	165,603
	指数	100.0	97.6	95.2	93.1	90.0	91.9	91.9	91.6	89.7	89.7	88.2	86.6	84.9
中国	人数	70,193	67,945	66,821	65,318	63,247	64,858	65,130	64,245	64,060	64,197	63,134	62,001	61,205
	指数	100.0	96.8	95.2	93.1	90.1	92.4	92.8	91.5	91.3	91.5	89.9	88.3	87.2
四国	人数	35,553	34,558	33,841	32,825	31,434	32,184	31,780	31,824	31,182	30,990	30,785	30,031	29,505
	指数	100.0	97.2	95.2	92.3	88.4	89.4	89.5	89.5	87.7	87.2	86.6	84.5	83.0
九州沖縄	人数	141,187	137,117	134,537	132,869	129,658	133,689	136,005	136,447	134,753	136,400	134,447	132,137	131,637
	指数	100.0	97.1	95.3	94.1	91.8	94.7	96.3	96.6	95.4	96.6	95.2	93.6	93.2

リクルート進学総研マーケットリポート Vol.82 2021 年 3 月号

「18 歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向」(2020 年度版) 6 ページより抜粋

【資料③】

		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年
南関東	人数	305,457	301,999	299,356	294,497	286,935	296,205	298,790	297,810	295,937	295,254	289,575	289,332	288,670
	指数	100.0	98.9	98.0	96.4	93.9	97.0	97.8	97.5	96.9	96.7	94.8	94.7	94.5
埼玉	人数	65,634	64,508	63,542	62,543	61,183	62,797	62,864	62,858	62,493	61,849	60,036	59,723	59,587
	指数	100.0	98.3	96.8	95.3	93.2	95.7	95.8	95.8	95.2	94.2	91.5	91.0	90.8
千葉	人数	55,220	54,908	53,904	53,438	51,411	52,883	52,926	53,796	52,669	52,233	51,260	50,271	49,742
	指数	100.0	99.4	97.6	96.8	93.1	95.8	95.8	97.4	95.4	94.6	92.8	91.0	90.1
東京	人数	105,200	104,150	104,018	102,330	100,133	104,347	106,120	103,176	103,784	104,068	103,144	104,317	105,791
	指数	100.0	99.0	98.9	97.3	95.2	99.2	100.9	98.1	98.7	98.9	98.0	99.2	100.6
神奈川	人数	79,403	78,433	77,892	76,186	74,208	76,178	76,880	77,980	76,991	77,104	75,135	75,021	73,550
	指数	100.0	98.8	98.1	95.9	93.5	95.9	96.8	98.2	97.0	97.1	94.6	94.5	92.6
全国	人数	1,167,348	1,141,140	1,121,285	1,097,416	1,062,870	1,089,970	1,092,118	1,086,573	1,070,466	1,068,289	1,049,877	1,034,548	1,023,963
	指数	100.0	97.8	96.1	94.0	91.0	93.4	93.6	93.1	91.7	91.5	89.9	88.6	87.7

リクルート進学総研マーケットリポート Vol.86 2021 年 4 月号

「18 歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 南関東版」(2020 年度版) 2 ページより抜粋

神奈川県



学校数

大学 : 31 (国立 2・公立 2・私立 27)
 短期大学 : 14 (公立 1・私立 13)
 専門学校 : 101 (公立 5・私立 96)

卒業生数

2011年60,814人→2020年66,293人 (5,479人増加)

進学者数

大学 : 2011年33,604人→2020年38,113人 (4,509人増加)
 短期大学 : 2011年 3,312人→2020年 2,295人 (1,017人減少)
 専門学校 : 2011年 8,694人→2020年11,737人 (3,043人増加)

進学率(現役)

大学 : 2011年55.3%→2020年57.5% (2.2ポイント上昇)
 短期大学 : 2011年 5.4%→2020年 3.5% (1.9ポイント低下)
 専門学校 : 2011年14.3%→2020年17.7% (3.4ポイント上昇)

残留率

大学 : 2011年43.9%→2020年38.9% (5.0ポイント低下)
 短期大学 : 2011年65.7%→2020年69.2% (3.5ポイント上昇)

入学者流入元 ※地元は除く

大学 : 1位東京 (10,133人)、2位静岡 (2,104人)、3位千葉 (2,101人)
 短期大学 : 1位東京 (265人)、2位静岡 (172人)、3位長野 (36人)

入学者流出先 ※地元は除く

大学 : 1位東京 (17,035人)、2位千葉 (912人)、3位埼玉 (909人)
 短期大学 : 1位東京 (605人)、2位北海道 (57人)、3位静岡 (30人)

- ・学校数 : 大学・短期大学は本部の所在地 (2020年学校基本調査より)
- ・卒業生数 : 高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・進学者数 : 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校(※)に進学した数
- ・進学率(現役) : 進学者数(大学・短期大学・専門学校※2)÷高等学校卒業生数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・残留率 : 自県内(地元)の大学・短期大学入学者のうち自県内(地元)の高校出身の大学・短期大学入学者の割合(浪人含)
- ・流入 : 自県内(地元)の大学・短期大学に入学者のうち、自県以外(地元以外)の高校出身者が大学・短期大学に入学者したこと(浪人含)
- ・流出 : 自県内(地元)の高校出身者が大学・短期大学に入学者のうち、自県以外(地元以外)の大学・短期大学に入学者のこと(浪人含)

リクルート進学総研マーケットリポート Vol186 2021年4月号

「18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 南関東版」(2020年度版) 15ページより抜粋

「リクルート 入試実態調査」による統計

- *各年度で志願者数非公表の大学があります
- *分野系統は調査に協力いただきました大学の指定分野になります。
- *下記のエリアは本部設置所在エリアになります

<全国>

理工学部	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
募集人員	15,883	16,469	16,000	16,305	16,598	17,296	17,976	18,601	18,493	19,260
志願者数	228,332	239,953	261,791	279,319	284,812	296,929	304,397	317,034	334,414	363,942
志願倍率	14.4	14.6	16.4	17.1	17.2	17.2	16.9	17.0	18.1	18.9
工学部	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
募集人員	33,436	34,156	32,657	32,552	33,175	31,472	32,427	32,217	32,341	31,492
志願者数	251,173	269,923	302,133	326,672	343,195	339,033	360,223	380,879	431,255	455,944
志願倍率	7.5	7.9	9.3	10.0	10.3	10.8	11.1	11.8	13.3	14.5

<一都三県>

理工学部	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
募集人員	8,922	8,969	9,228	9,562	9,979	10,294	10,585	10,779	10,869	11,442
志願者数	127,978	135,131	152,173	156,800	159,463	173,594	174,058	182,761	189,860	207,976
志願倍率	14.3	15.1	16.5	16.4	16.0	16.9	16.4	17.0	17.5	18.2
工学部	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
募集人員	16,413	16,886	16,134	15,688	16,103	15,367	15,694	15,791	15,608	14,983
志願者数	154,434	171,244	184,788	198,621	207,653	207,306	215,552	234,344	262,769	269,763
志願倍率	9.4	10.1	11.5	12.7	12.9	13.5	13.7	14.8	16.8	18.0

<神奈川のみ>

理工学部	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
募集人員			359	359	364	370	754	754	733	733
志願者数			2,821	3,158	3,563	3,340	7,580	8,487	11,489	12,896
志願倍率			7.9	8.8	9.8	9.0	10.1	11.3	15.7	17.6
工学部	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
募集人員	2,588	2,487	2,056	2,001	2,101	2,133	3,368	3,401	3,417	3,286
志願者数	11,478	13,706	12,269	13,334	14,290	13,473	22,272	23,209	30,168	33,071
志願倍率	4.4	5.5	6.0	6.7	6.8	6.3	6.6	6.8	8.8	10.1

株式会社リクルートマーケティングパートナーズより情報提供

【資料⑥】

学部・学科	大学	都道府県	学部	学科		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
工学部 機械システム工学科	工学院大学	東京	工学部	機械システム工学科	募集人員	82	81	76	75	75	95	105	105	105	105
					志願者数(合計)	722	842	1,122	1,209	1,120	1,218	1,234	1,056	1,316	1,596
					志願倍率	8.8	10.4	14.8	16.1	14.9	12.8	11.8	10.1	12.5	15.2
	湘南工科大学	神奈川	工学部	機械工学科	募集人員	120	105	100	100	98	98	98	100	100	85
					志願者数(合計)	163	194	215	275	333	285	267	302	839	855
					志願倍率	1.4	1.8	2.2	2.8	3.4	2.9	2.7	3.0	8.4	10.1
	神奈川工科大学	神奈川	工学部	機械工学科	募集人員	140	140	127	127	120	102	107	120	120	120
					志願者数(合計)	661	641	691	850	817	856	713	846	1,019	1,310
					志願倍率	4.7	4.6	5.4	6.7	6.8	8.4	6.7	7.1	8.5	10.9

リクルート「入試実態調査」より集計／データは株式会社リクルートマーケティングパートナーズより提供

【資料⑦】

既設学部等の学生確保の状況

工学部 動力機械工学科

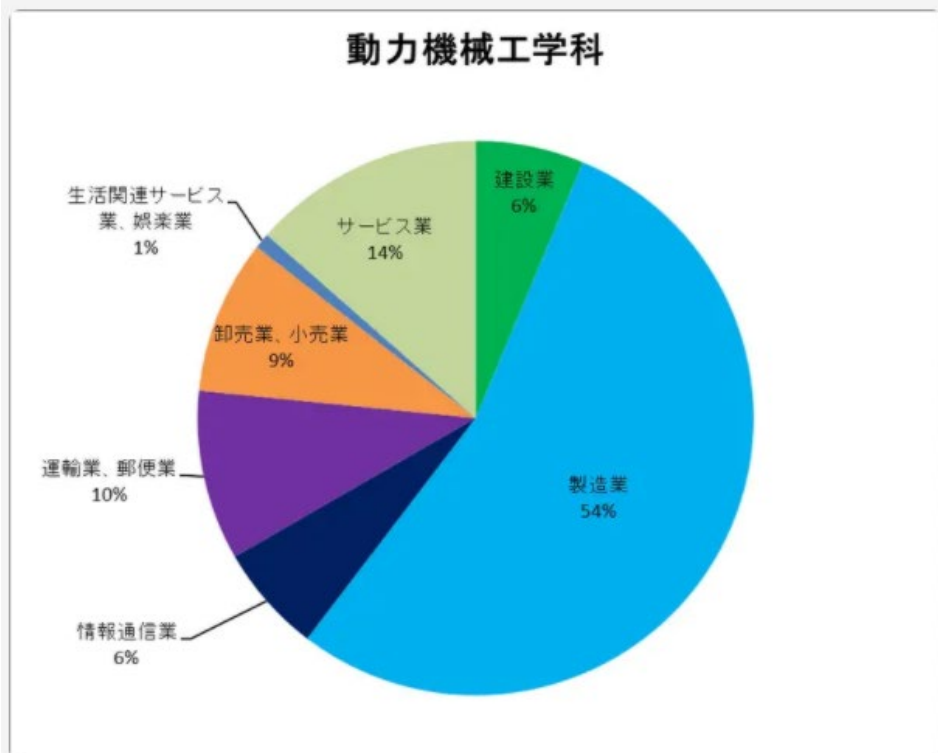
■2016-2017年度：入学定員200名 ■2018-2021年度：入学定員150名

	志願者	受験者	合格者	入学者	志願倍率	定員充足率
2016年度	770	734	456	180	3.9	0.90
2017年度	785	761	423	173	3.9	0.86
2018年度	786	759	359	149	5.2	0.99
2019年度	873	844	416	149	5.8	0.99
2020年度	918	886	408	167	6.1	1.11
2021年度	637	613	430	119	4.2	0.79

主な就職先

いすゞ自動車/ケーヒン/スズキ/日野自動車/SUBARU/本田技研工業/三菱自動車工業/日立オートモティブシステムズ/東海旅客鉄道/小松製作所/アルプスアルパイン/横浜ゴム/プレス工業/オーテックジャパン/カルソニックカンセイ/日産車体/ヤマハ発動機/トヨタ自動車東日本/テルモ/東京急行電鉄

※ 2019年度



東海大学 HP より抜粋

2) 学部

2020年5月15日現在

＜就職決定率の算出方法＞

※就職決定率＝調査時点の就職決定者数／就職希望者数×100

※決定者数＝「企業・団体等」、「教員」、「公務員」、「専門職」、「自営業」、「自営（フリーランス）」、「起業」、「現職継続（社会人学生等）」、「進学と同時に就職（正規・非正規）」、「臨床研修医」に決定した者

※2018年度決定率は2019年5月21日時点の数値

＜就職希望者数の算出方法＞

※2019年度就職希望者数＝キャリア支援ナビ進路希望登録で第一希望が「企業・団体等」、「教員」、「公務員」、「専門職」、「自営業」、「自営（フリーランス）」、「起業」、「現職継続（社会人学生等）」、「進学と同時に就職（正規・非正規）」の者＋就職希望者の内「3月末までに就職の意志あり」、「就職準備」、「パート・アルバイト」に決定した者

学部	学科	専攻・課程等	卒業者数	就職希望者数	就職決定者数	2019年度		2018年度
						決定率（％）	進学者数	決定率（％）
工学部	生命化学科		112	87	84	96.6	18	98.7
	応用化学科		75	57	57	100.0	14	100.0
	光・画像工学科		50	41	41	100.0	6	100.0
	原子力工学科		33	21	21	100.0	10	100.0
	電気電子工学科		129	104	103	99.0	20	99.1
	材料科学科		65	33	31	93.9	28	100.0
	建築学科		179	149	146	98.0	26	100.0
	土木工学科		99	85	83	97.6	5	100.0
	精密工学科		77	53	52	98.1	17	100.0
	機械工学科		121	88	88	100.0	23	100.0
	動力機械工学科		131	106	106	100.0	22	99.3
	航空宇宙学科	航空宇宙学専攻	97	61	60	98.4	26	100.0
		航空操縦学専攻	40	33	31	93.9	0	96.4
	医用生体工学科		66	51	51	100.0	8	98.2
	合計		1274	969	954	98.5	223	99.5

【資料⑩-1】

2019年度 東海大学産業別求人会社数

産業	2019年度
農業・林業・鉱業・漁業・酪農畜産	66
建設・住宅・不動産	1,624
水産・食品	251
素材・化学	244
医薬品・医療関連・化粧品	95
ゴム・ガラス・セメント・セラミックス	63
鉄鋼・非鉄・金属製品	362
機械・プラントエンジニアリング	434
電子・電機	472
自動車・輸送用機器	329
精密機器・医療用機器	174
印刷・パッケージ	84
OA機器・家具・スポーツ・玩具・その他	136
小計	4,334
エネルギー	88
銀行	27
信用金庫・労働金庫	75
信販・クレジット・フィナン	10
その他金融	29
リース・レンタル	47
保険	66
証券・投信・投資顧問	34
小計	288

産業	2019年度
商社（総合）	93
商社（水産・食品）	117
商社（ファッション関連）	62
商社（素材関連）	52
商社（化学・医薬品・化粧品）	67
商社（エネルギー）	20
商社（精密機器・医療用機器）	156
商社（自動車・輸送用機器）	212
商社（家具・インテリア・日用品）	25
商社（鉄鋼・非鉄・金属製品）	67
その他商社	235
小計	1,106
百貨店	16
コンビニエンス・GMSストア	94
生活協同組合	26
専門店（ファッション関連）	111
専門店（エンターテインメント）	9
専門店（電器）	18
専門店（家具・インテリア）	4
専門店（フード）	23
専門店（ドラッグストア・調剤薬局）	39
専門店（自動車関連）	112
専門店（動物関連）	3
その他専門店	105
小計	560

産業	2019年度
フードサービス	127
ホテル・旅行	179
その他の教育・学習支援業	91
エンターテインメント	54
調査・コンサルタント	200
人材紹介・人材派遣	107
その他サービス	856
小計	1,614
IT・情報処理	情報処理・ソフトウェア 1,475
情報・インターネットサービス	196
小計	1,671
情報（通信・マスコミ）	通信関連 87
マスコミ	324
小計	411
運輸・倉庫	運輸 241
倉庫	63
小計	304
官公庁・団体	373
教育機関	113
医療・福祉施設	675
専門・技術サービス業	38
合計	11,575

2019年度卒業生数 6,281名

